

講義コード	U200100102	科目ナンバリング	022A180
講義名	経済原論(経営学科)		
副題	ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎		
英文科目名	Economic Principles		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 西2-201		

授業概要

本授業の目的は、経営学科の学生として必要なミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を修得することである。
第1学期にミクロ経済学、第2学期にマクロ経済学を講義する。公務員試験の経済学の問題等も授業で扱うので、将来資格試験に挑戦しようと考えている学生にも有益である。

到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の重要な領域の基礎を理解すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	需要と供給:需要関数、供給関数、比較静学の考え方
第2回	価格弾力性:価格弾力性と需要曲線、価格戦略と利益
第3回	完全競争市場と市場均衡:完全競争の条件、ワルラス的調整、マーシャル的調整
第4回	消費の理論1:無差別曲線、限界代替率逓減の法則
第5回	消費の理論2:価格変化とスルツキー分解
第6回	生産の理論:生産関数の性質
第7回	費用の理論1:費用関数の性質
第8回	費用の理論2:利潤最大化と供給関数、損益分岐点と操業停止点
第9回	独占の理論:独占価格と差別価格
第10回	寡占の理論1:クールノーモデル
第11回	寡占の理論2:ゲーム理論、囚人のジレンマ
第12回	厚生経済学1:余剰分析の理論
第13回	厚生経済学2:独占・課税の余剰分析
第14回	厚生経済学3:パレート効率性の考え方
第15回	理解度の確認
第16回	国民経済計算:三面等価の原則、GDPとGNP、名目と実質、貯蓄投資バランス
第17回	消費関数:ケインズ型消費関数、恒常所得仮説、ライフサイクル消費仮説
第18回	投資関数:利子率と投資、加速度原理、トービンのQ
第19回	労働市場の分析1:労働供給、労働需要、労働市場
第20回	労働市場の分析2:新古典派とケインズ派の労働市場の見方の違い
第21回	AS-AD分析::新古典派とケインズ派の財政政策の効果の違い
第22回	45度線分析1:投資乗数、政府支出乗数、租税乗数、均衡予算乗数
第23回	45度線分析2:乗数効果の問題演習
第24回	貨幣市場1:貨幣供給の仕組み、信用乗数、貨幣乗数
第25回	貨幣市場2:貨幣需要関数、貨幣供給関数
第26回	IS-LM分析1:IS曲線、LM曲線
第27回	IS-LM分析2:財政政策、金融政策の効果 ポリーシーミックスの分析
第28回	IS-LM分析3:IS-LM分析の問題演習
第29回	過去問を用いた総復習
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

毎回レジュメを配布する。講義はレジュメに沿って行うが、教科書を読むことによって理解が深まるので購入することを進める。

授業方法

講義方式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

経済学の理解は学習の積み重ねが必要である。予習は必要でないが、授業時に配布したレジュメの内容を必ず復讐すること(1時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	ミクロ経済学の講義内容を正しく理解できているか。応用ができるか
学年末試験(第2学期)	50 %	マクロ経済学の講義内容を正しく理解できているか。応用ができるか。
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験問題はマークシート方式で行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回演習問題を行うので問題点について授業中に共有する。試験は終了後、解答と点数分布を公表する。

教科書

グラフィック ミクロ経済学:グラフィック 経済学,金谷貞男・吉田真理子,新世社,2

グラフィック マクロ経済学:グラフィック 経済学,宮川勉・滝澤美帆,新生社,2

教科書コメント

第1学期に「グラフィック ミクロ経済学」を第2学期に「グラフィック マクロ経済学」を使用

参考文献

ミクロ経済学をつかむ,神戸伸輔・寶多康弘・濱田弘潤,有斐閣

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220100201	科目ナンバリング	022A111
講義名	経営組織論 I		
英文科目名	Business Organization I		
担当者名	武石 彰		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西2－302		

授業概要

この授業は、経営組織論IIと合わせて、経営組織について学ぶためのものである。企業の経営組織に主眼を置きながら、経営組織について理解し、考えるために必要となる基礎的な知識、理論を体系的に概説するとともに、具体的な事例の紹介、レポート課題としての具体例の分析、実務家による講演などを交えて、学んだことの実践への意味を考える機会も設ける。大きく、(1)企業経営と組織、(2)経営組織の諸側面、(3)経営組織の全体・動態と挑戦、という三つのパートから構成される。

到達目標

経営組織とは何か、どのようなものか、何のためにあるのか、どのような難しさがあるのか。経営組織が目指す成果を生み出していくためには、何をどのように考えればよいのか ―― 経営組織論IIと合わせて履修することにより、これらの問題について、経営学が提供する基礎的な知識と論理を学び、実践へとつなげていくために有用な能力を身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明: 目的・目標、進め方、スケジュールなど
第2回	経営組織とは。なぜ重要か。具体例(GMとヤマト運輸)。
第3回	企業経営と組織: 全体像。その歴史。
第4回	企業経営の諸側面と組織(1)
第5回	企業経営の諸側面と組織(2)
第6回	組織マネジメントの全体像: 協働の体系(1)
第7回	組織マネジメントの全体像: 協働の体系(2)
第8回	ケース: キューバミサイル危機と12人の怒れる男
第9回	分業と調整(1): 組織構造
第10回	分業と調整(2): 組織プロセス、計画とコントロール
第11回	分業と調整(3): 仕事と組織
第12回	働く意欲と意味(1): モチベーションとキャリア
第13回	働く意欲と意味(2): 人材マネジメント
第14回	働く意欲と意味(3): 人と組織
第15回	第一学期のまとめ

授業計画コメント

経営組織論Iと経営組織論IIの全体で一つの授業を構成している。内容とスケジュールは、進捗により一部変更の可能性がある。

授業方法

レクチャー、ケースの紹介、レポート課題、などを組み合わせながら進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定部分を事前に読み、基礎知識を学んでおくこと。事後に授業内容とテキストの該当部分を振り返り、不明な点があれば教員に適宜質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験: 授業で説明したこと、基本テキストに書かれていることの習得度
レポート: 授業で学んだことの、基本テキストに書かれていることの、現実の問題への応用力

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期末試験: 後日公表される成績分布を参照のこと
期末レポート: 全体の講評を後日公表する

教科書

経営組織論:はじめての経営学,鈴木竜太,東洋経済新報社,2018,978-4-492-50295-2

経営学入門,武石彰,岩波書店,(近刊)

教科書コメント

二冊の教科書のうち、武石「経営学入門」はまだ出版されていない。出版され次第、案内する。

履修上の注意

経営組織論Iと経営組織論IIの全体で一つの授業を構成しているので、合わせて履修すること。

その他

担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220100301	科目ナンバリング	022A112
講義名	経営組織論Ⅱ		
英文科目名	Business Organization Ⅱ		
担当者名	武石 彰		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 西2－302		

授業概要

この授業は、経営組織論Ⅱと合わせて、経営組織について学ぶためのものである。企業の経営組織に主眼を置きながら、経営組織について理解し、考えるために必要となる基礎的な知識、理論を体系的に概説するとともに、具体的な事例の紹介、レポート課題としての具体例の分析、実務家による講演などを交えて、学んだことの実践への意味を考える機会も設ける。大きく、(1)企業経営と組織、(2)経営組織の諸側面、(3)経営組織の全体・動態と挑戦、という三つのパートから構成される。

到達目標

経営組織とは何か、どのようなものか、何のためにあるのか、どのような難しさがあるのか。経営組織が目指す成果を生み出していくためには、何をどのように考えればよいのか ―― 経営組織論Ⅰと合わせて履修することにより、これらの問題について、経営学が提供する基礎的な知識と論理を学び、実践へとつなげていくために有用な能力を身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明: 目的・目標、進め方、スケジュールなど、第一学期の振り返り
第2回	リーダーシップ(1): リーダーシップの行動
第3回	リーダーシップ(2): リーダーシップの多元性と育成
第4回	組織文化
第5回	組織マネジメントの全体と動態
第6回	組織学習
第7回	組織変革
第8回	イノベーションと組織
第9回	組織の危機・病理
第10回	資本の論理と経営組織
第11回	企業の社会的責任と組織の倫理
第12回	企業統治(コーポレートガバナンス)と組織
第13回	ゲスト講師講演
第14回	全体のまとめ: 経営組織の基本原則と実践 エピローグ: 経営組織と現代社会、人から組織へ、組織の未来
第15回	非営利組織のマネジメント、経営組織の挑戦

授業計画コメント

経営組織論Ⅰと経営組織論Ⅱの全体で一つの授業を構成している。内容とスケジュールは、進捗により一部変更の可能性がある。

授業方法

レクチャー、ケースの紹介、レポート課題、ゲスト講師による講演などを組み合わせながら進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの指定部分を事前に読み、基礎知識を学んでおくこと。事後に授業内容とテキストの該当部分を振り返り、不明な点があれば教員に適宜質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験: 授業で説明したこと、基本テキストに書かれていることの習得度
 レポート: 授業で学んだことの、基本テキストに書かれていることの、現実の問題への応用力

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

期末試験: 後日公表される成績分布を参照のこと

期末レポート: 全体の講評を後日公表する

教科書

経営組織論: はじめての経営学, 鈴木竜太, 東洋経済新報社, 2018, 978-4-492-50295-2

経営学入門, 武石彰, 岩波書店, (近刊)

教科書コメント

二冊の教科書のうち、武石「経営学入門」はまだ出版されていない。出版され次第、案内する。

履修上の注意

経営組織論Iと経営組織論IIの全体で一つの授業を構成しているので、合わせて履修すること。期末試験、レポート課題も、経営組織論Iを履修していることを前提にする。

その他

担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220101201	科目ナンバリング	022A131
講義名	経営史 I		
英文科目名	Business History I		
担当者名	竹原 有吾		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 南3－201		

授業概要

これまで人々がビジネスを通して、どのように現実の世界と向き合ってきたかを、中世後期から20世紀にかけての日本や欧米の経済・社会に焦点を当てて見ていく。具体的には、「技術革新の歴史」や「マーケティング史」、「企業の組織構造とマネジメント方法の変化」、「企業経営と人材」について経営史の基本的な内容を学んでもらう。

到達目標

「技術革新の歴史」や「マーケティング史」、「企業の組織構造とマネジメント方法の変化」、「企業経営と人材」に関して、経営史の基本的な内容を知識として身につけている。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	技術革新の歴史①:イギリス産業革命
第3回	技術革新の歴史②:19世紀の米国の工業化
第4回	技術革新の歴史③:大量生産体制の成立過程
第5回	技術革新の歴史④:研究開発とハイテク産業
第6回	技術革新の歴史⑤:時計産業の歴史
第7回	マーケティング史①:米国のマス・マーケットの形成
第8回	マーケティング史②:戦前日本の流通
第9回	マーケティング史③:戦後日本の流通
第10回	企業の組織構造とマネジメント方法の変化①:大会社の形成と組織
第11回	企業の組織構造とマネジメント方法の変化②:事業部制の導入過程
第12回	企業経営と人材①:江戸時代の商家と奉公人
第13回	企業経営と人材②:近代的な企業の発展と人事
第14回	企業経営と人材③:労使関係の歴史的な変化
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

経営学を学びはじめたばかりの学生が多いことを前提に授業を進めていく。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- (1) 毎回、指定されたキーワードの意味を調べてくる。(1～2時間)
- (2) 授業の中で紹介された文献を読む。(1～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	リアクションペーパー・授業への参加姿勢
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業で扱った内容が知識として身についているかを評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生から出された質問やリアクションペーパーなどから、学生が授業をどれほど理解しているかを判断し、必要があれば説明を補う。

教科書コメント

使用しない。

参考文献

日本経営史の基礎知識,経営史学会編,有斐閣,2004,4-641-18310-4

外国経営史の基礎知識,経営史学会編,有斐閣,2005,4-641-18303-1

企業家学のすすめ,宮本又郎, 加護野忠男, 企業家研究フォーラム編,有斐閣,2014,978-4-641-16434-5

参考文献コメント

上記以外の参考文献は、適宜、授業の中で指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。また授業には必ず自分の学生証を持ってくること。

履修希望者が多い場合には、希望者全員の履修を認められない場合がある。ただその場合でも、経営学科の学生は全員履修できる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220101301	科目ナンバリング	022A132
講義名	経営史Ⅱ		
英文科目名	Business HistoryⅡ		
担当者名	竹原 有吾		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 南3－201		

授業概要

これまで人々がビジネスを通して、どのように現実の世界と向き合ってきたかを、中世後期から20世紀にかけての日本や欧米の経済・社会に焦点を当てて見ていく。具体的には、「ビジネスと社会」や「大会社化」、「イノベーションと企業家」、「金融史」について経営史の基本的な内容を学んでもらう。

到達目標

「ビジネスと社会」や「大会社化」、「イノベーションと企業家」、「金融史」に関して、経営史の基本的な内容を知識として身につけている。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ビジネスと社会①: 中世ヨーロッパの都市の同業組合
第3回	ビジネスと社会②: 重商主義政策と国民経済の形成
第4回	ビジネスと社会③: 市民革命とビジネスの展開
第5回	ビジネスと社会④: 日本の商人や職人の同業組合
第6回	大会社化①: ファミリービジネスの歴史
第7回	大会社化②: 19世紀末の米国の大会社
第8回	大会社化③: 所有と経営の分離について
第9回	イノベーションと企業家
第10回	金融史①: シティの興隆と国際金融
第11回	金融史②: 米国の金融業の発展
第12回	金融史③: 高度経済成長期の企業と銀行
第13回	金融史④: 近代日本の金融業
第14回	金融史⑤: 日本の証券市場の発展
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

経営学を学びはじめたばかりの学生が多いことを前提に授業を進めていく。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- (1) 毎回、指定されたキーワードの意味を調べてくる。(1～2時間)
- (2) 授業の中で紹介された文献を読む。(1～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	80 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	リアクションペーパー・授業への参加姿勢
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業で扱った内容が知識として身についているかを評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生から出された質問やリアクションペーパーなどから、学生が授業をどれほど理解しているかを判断し、必要があれば説明を補う。

教科書コメント

使用しない。

参考文献

日本経営史の基礎知識,経営史学会編,有斐閣,2004,4-641-18310-4

外国経営史の基礎知識,経営史学会編,有斐閣,2005,4-641-18303-1

企業家学のすすめ,宮本又郎, 加護野忠男, 企業家研究フォーラム編,有斐閣,2014,978-4-641-16434-5

参考文献コメント

上記以外の参考文献は、適宜、授業の中で指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。また授業には必ず自分の学生証を持ってくること。

履修希望者が多い場合には、希望者全員の履修を認められない場合がある。ただその場合でも、経営学科の学生は全員履修できる。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220102201	科目ナンバリング	022A143
講義名	経営科学入門Ⅰ		
英文科目名	Introduction to Management ScienceⅠ		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西2－201		

授業概要

経営における意思決定は、殆どの場合、関係する要因が複雑で構造を把握するのが大変な場合と、構造は簡単でも確率的な不確実性があって予測困難なものである。こうした問題に対応するための数理的な考え方を採り上げ、講義する。内容は基礎的で、より専門的な知識への窓口を開く足がかりになるものである。また、現実の問題に対処する際、最も困難なことは、実は、解決すべき問題を発見することである。したがって、本講義では問題を発見するための可視化手法についても講義する。誤った問題に真面目に取り組む、正しい問題に誤った取り組み方をする。こうした誤りのリスクが少しでも減らせるよう、多様な問題設定、様々な手法で考えて行く。

到達目標

実際の意思決定では何が難しいのか、何を知っておくべきか学ぶ。そして具体的な意思決定場面でどう考え何をすべきなのかについての基礎知識を理解できるようになる。それを解くための方法にアクセスするインデックスを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機付け
第2回	イントロダクション:問題の発見と解決
第3回	統計的なものの見方・データのまとめ
第4回	データの特徴をつかむ
第5回	データの分布をとらえる
第6回	その変化は偶然起こったのか？
第7回	演習問題
第8回	データ間の関係を知る
第9回	傾向を知り、予測する
第10回	演習問題
第11回	総合的に考える(在庫の問題)
第12回	人工知能はどう考えるか
第13回	事例講義
第14回	まとめと復習
第15回	

授業計画コメント

講義の内容や時間配分は、履修者の理解度に応じて変更することがある。

授業方法

講義による。毎週後戻りなく進むので欠席せず参加すること。また練習問題が多いので能動的に取り組むこと。電卓などを持ってくるとう良い。ゲストスピーカーを招くこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各時間の内容を復習すること、30分程度。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	学期末試験に対する評価
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	加点課題、不規則に行う出席調査など、学期中、状況に応じて複数回機会を設けるイベントへの評価
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習問題はその回の内に解説を行い、各自で見直しができるようにする。

教科書コメント

教科書は特に指定せず、都度レジュメを配布する。理解できない人は参考書を各自参照のこと。

参考文献

入門 経営科学 改訂版-Excelによる演習-,宮川公男、野々山隆幸、佐藤修,実教出版株式会社,2009,4407316950

履修上の注意

第2学期の経営科学入門IIとあわせて履修することを推奨する。
2019年度までに経営科学Iの単位を取得済みの者は履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220102301	科目ナンバリング	022A144
講義名	経営科学入門Ⅱ		
英文科目名	Introduction to Management Science Ⅱ		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西5－B1		

授業概要

経営上の問題解決や意思決定のための様々な数理的・論理的なアプローチを取り上げる。本講義では特に、意思決定の理論、数理最適化(オペレーションズ・リサーチ)、システム思考の3つの分野を概観する。これらはいずれも、人々や組織の合理的、最適な意思決定を支援するための理論や考え方である。内容はいずれも基礎的であり、より専門的な知識への足掛かりとなるものである。数理的な思考が重要な分野であるが、講義では高度に数学的な内容は避け、それよりも様々な例をふまえて、実際の経営の諸場面においてこれらをどのように活用できるのかを解説する。

到達目標

意思決定の理論、数理最適化(オペレーションズ・リサーチ)、システム思考の基礎を理解し、経営上の意思決定の諸場面に応じてこれらを応用し、問題解決に役立てることができるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	不確実性下の意思決定(1):リスクと不確実性
第3回	不確実性下の意思決定(2):情報の価値
第4回	不確実性下の意思決定(3):ディシジョン・ツリー
第5回	戦略的意思決定(1):ゲーム理論の考え方
第6回	戦略的意思決定(2):ナッシュ均衡
第7回	戦略的意思決定(3):様々なゲーム理論のモデル
第8回	中間振り返り
第9回	数理最適化(1):数理的な計画手法
第10回	数理最適化(2):ネットワーク分析
第11回	数理最適化(3):階層的意思決定法
第12回	システム思考(1):システム的なものの見方
第13回	システム思考(2):因果ループ図
第14回	システム思考(3):システム・ダイナミクス
第15回	まとめ

授業計画コメント

授業計画は受講者の理解度等に応じて調整する可能性がある。

授業方法

講義形式。多くの回で授業中に練習問題を課す。

準備学習(予習・復習)

毎回30分程度復習すること。
成績評価は期末試験100%なので、試験に向けて、よく講義内容を復習し、理解することが重要。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	100%	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

練習問題の解説は講義中に行う。

教科書コメント

教科書は使用せず、講義資料を適宜、配布する。

参考文献

ゲーム理論入門 (日経文庫―経済学入門シリーズ),武藤滋夫,日本経済新聞社,2001,4532108292
入門経営科学 改訂版-Excelによる演習,宮川公男、野々山隆幸、佐藤修,実教出版,2009,4407316950

実践システム・シンキングー論理思考を超える問題解決のスキル,湊宣明,講談社,2016,978-4061573055

履修上の注意

第1学期の経営科学入門Iとあわせて履修することを推奨する。
2019年度までに経営科学Iの単位を取得済みの者は履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220103201	科目ナンバリング	022A241
講義名	経営科学応用 I A		
英文科目名	Advanced Management Science I A		
担当者名	白田 由香利,佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 南3－101		

授業概要

講義の前半(第8回まで)は白田、後半(第9回から)は佐々木が担当する。
(前半)Industry 4.0、IoT、ビッグデータ、AIを活用できるように世の中の変化に即した統計の知識が必要となっている。本講義は、難しい数式は文書の中であまり触れず、可視化教材を使い説明する。
(後半)ビジネスの現場においては、様々な要素を考慮しながらそれぞれの目的に合った意思決定を行わなければならない。第2学期は、こうした場面での「最適な意思決定」をサポートするための数理的手法について、具体的な経営課題を題材にしなが、PCによる演習(Microsoft Excelを使用)をベースに学ぶ。
【重要】履修希望者は第1学期の経営科学応用IAの第1回授業に必ず参加すること。(不参加の場合、履修が許可されない場合がある。)経営科学応用IA、IB、ICはいずれも同一内容である。履修に際しては、下記の履修上の注意をよく読むこと。集中講義の日程は下記の授業計画を参照。

到達目標

ビジネスにおいて有力なツールとなる統計や数理最適化の基礎を理解し、コンピュータを用いて分析できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	売れ行きパターンのプロット(散布図、ヒストグラム)
第3回	在庫をどう持つと安心か(分散と標準偏差)
第4回	売上はどのくらいか(価格と期待値)
第5回	ある要因から売上を推定する(単回帰分析、重回帰分析)
第6回	品切れをなくすためのリオーダーポイント(正規分布)
第7回	売上平均値に違いはあるのか(統計的仮説検定)
第8回	男女で商品の好みに違いはあるのか(統計的仮説検定)
第9回	何をどれだけ作るか・仕入れるか(生産計画)
第10回	製品をどこからどれだけ運ぶか(輸送計画)
第11回	人をどう配置するか(割当計画)
第12回	望ましい案はどれか(階層化意思決定法)
第13回	待ち行列をどうするか(待ち行列)
第14回	社会をシミュレーションする(システム・ダイナミクス)
第15回	総括

授業計画コメント

PC演習を多く行うので、毎回集中して取り組むこと。理解を確実にするため、疑問が生じたときにはなるべく早く質問すること。欠席時には講義資料や参考文献をもとに自習し、次回出席時に追いつけるようにすること。講義計画は履修者の理解度などに応じて変更する場合がある。

授業方法

講義およびPC演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

Microsoft Excelの基本的な操作ができることを前提とする。毎回復習を30分程度行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

白田、佐々木がそれぞれの担当分を50点満点で評価し、合算して成績を算出する。それぞれの成績評価は下記のとおりである。

(白田)平常点(講義中の演習課題)60% レポート(宿題の成果物提出)40%
(佐々木)平常点(講義中の演習課題)60% レポート(期末)40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中の演習課題については、講義内で解説する。

教科書コメント

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

参考文献

問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門-Excelの活用と実務的例題,高井英造、真鍋龍太郎,日本評論社,2000

履修上の注意

(以下は、経営科学応用IA、IB、ICに共通の注意である。)

教室の容量の都合で履修に関する制限があるため、履修希望者は第1学期の経営科学応用IAの第1回授業に必ず参加すること。ここで経営科学応用IA、IB、ICのいずれを履修可とするかの抽選を行う。出席しない場合、いずれの履修も認められない場合があるので注意すること。さらに、下記の点に留意すること。

- ・履修は経営学科の学生に限定する。
- ・経営科学応用IA、IB、ICはいずれも同一内容であり、開講時期のみ異なる。いずれか一つしか履修できない。
- ・2019年度までに経営科学IIの単位を取得済みの者は、経営科学応用IA、IB、ICのいずれも履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220103202	科目ナンバリング	022A241
講義名	経営科学応用 I B		
英文科目名	Advanced Management Science I B		
担当者名	佐々木 康朗,白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	集中(第1学期) その他 集中講義		

授業概要

講義の前半(第8回まで)は白田、後半(第9回から)は佐々木が担当する。
(前半)Industry 4.0、IoT、ビッグデータ、AIを活用できるように世の中の変化に即した統計の知識が必要となっている。本講義は、難しい数式は文書の中であまり触れず、可視化教材を使い説明する。
(後半)ビジネスの現場においては、様々な要素を考慮しながらそれぞれの目的に合った意思決定を行わなければならない。第2学期は、こうした場面での「最適な意思決定」をサポートするための数理的手法について、具体的な経営課題を題材にしながら、PCによる演習(Microsoft Excelを使用)をベースに学ぶ。
【重要】履修希望者は第1学期の経営科学応用IAの第1回授業に必ず参加すること。(不参加の場合、履修が許可されない場合がある。)経営科学応用IA、IB、ICはいずれも同一内容である。履修に際しては、下記の履修上の注意をよく読むこと。集中講義の日程は下記の授業計画を参照。

到達目標

ビジネスにおいて有力なツールとなる統計や数理最適化の基礎を理解し、コンピュータを用いて分析できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	売れ行きパターンのプロット(散布図、ヒストグラム)
第3回	在庫をどう持つと安心か(分散と標準偏差)
第4回	売上はどのくらいか(価格と期待値)
第5回	ある要因から売上を推定する(単回帰分析、重回帰分析)
第6回	品切れをなくすためのリオーダーポイント(正規分布)
第7回	売上平均値に違いはあるのか(統計的仮説検定)
第8回	男女で商品の好みに違いはあるのか(統計的仮説検定)
第9回	何をどれだけ作るか・仕入れるか(生産計画)
第10回	製品をどこからどれだけ運ぶか(輸送計画)
第11回	人をどう配置するか(割当計画)
第12回	望ましい案はどれか(階層化意思決定法)
第13回	待ち行列をどうするか(待ち行列)
第14回	社会をシミュレーションする(システム・ダイナミクス)
第15回	総括

授業計画コメント

講義日時は以下のとおり：
9月8日(火)1～4限
9月9日(水)1～4限
9月10日(木)1～4限
9月11日(金)1～3限

PC演習を多く行うので、毎回集中して取り組むこと。理解を確実にするため、疑問が生じたときにはなるべく早く質問すること。欠席時には講義資料や参考文献をもとに自習し、次回出席時に追いつけるようにすること。講義計画は履修者の理解度などに応じて変更する場合がある。

授業方法

講義およびPC演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

Microsoft Excelの基本的な操作ができることを前提とする。毎回復習を30分程度行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

白田、佐々木がそれぞれの担当分を50点満点で評価し、合算して成績を算出する。それぞれの成績評価は下記のとおりである。
 (白田) 平常点(講義中の演習課題) 60% レポート(宿題の成果物提出) 40%
 (佐々木) 平常点(講義中の演習課題) 60% レポート(期末) 40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中の演習課題については、講義内で解説する。

教科書コメント

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

参考文献

問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門-Excelの活用と実務的例題,高井英造、真鍋龍太郎,日本評論社,2000

履修上の注意

(以下は、経営科学応用IA、IB、ICに共通の注意である。)
 教室の容量の都合で履修に関する制限があるため、履修希望者は第1学期の経営科学応用IAの第1回授業に必ず参加すること。ここで経営科学応用IA、IB、ICのいずれを履修可とするかの抽選を行う。出席しない場合、いずれの履修も認められない場合があるので注意すること。さらに、下記の点に留意すること。
 ・履修は経営学科の学生に限定する。
 ・経営科学応用IA、IB、ICはいずれも同一内容であり、開講時期のみ異なる。いずれか一つしか履修できない。
 ・2019年度までに経営科学IIの単位を取得済みの者は、経営科学応用IA、IB、ICのいずれも履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220103203	科目ナンバリング	022A241
講義名	経営科学応用 I C		
英文科目名	Advanced Management Science I C		
担当者名	佐々木 康朗,白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 南3－101		

授業概要

講義の前半(第8回まで)は白田、後半(第9回から)は佐々木が担当する。
(前半)Industry 4.0、IoT、ビッグデータ、AIを活用できるように世の中の変化に即した統計の知識が必要となっている。本講義は、難しい数式は文書の中であまり触れず、可視化教材を使い説明する。
(後半)ビジネスの現場においては、様々な要素を考慮しながらそれぞれの目的に合った意思決定を行わなければならない。第2学期は、こうした場面での「最適な意思決定」をサポートするための数理的手法について、具体的な経営課題を題材にしながら、PCによる演習(Microsoft Excelを使用)をベースに学ぶ。
【重要】履修希望者は第1学期の経営科学応用IAの第1回授業に必ず参加すること。経営科学応用IA、IB、ICはいずれも同一内容である。履修に際しては、下記の履修上の注意をよく読むこと。

到達目標

ビジネスにおいて有力なツールとなる統計や数理最適化の基礎を理解し、コンピュータを用いて分析できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	売れ行きパターンプロット(散布図、ヒストグラム)
第3回	在庫をどう持つと安心か(分散と標準偏差)
第4回	売上はどのくらいか(価格と期待値)
第5回	ある要因から売上を推定する(単回帰分析、重回帰分析)
第6回	品切れをなくすためのリオーダーポイント(正規分布)
第7回	売上平均値に違いはあるのか(統計的仮説検定)
第8回	男女で商品の好みに違いはあるのか(統計的仮説検定)
第9回	何をどれだけ作るか・仕入れるか(生産計画)
第10回	製品をどこからどれだけ運ぶか(輸送計画)
第11回	人をどう配置するか(割当計画)
第12回	望ましい案はどれか(階層化意思決定法)
第13回	待ち行列をどうするか(待ち行列)
第14回	社会をシミュレーションする(システム・ダイナミクス)
第15回	総括

授業計画コメント

PC演習を多く行うので、毎回集中して取り組むこと。理解を確実にするため、疑問が生じたときにはなるべく早く質問すること。欠席時には講義資料や参考文献をもとに自習し、次回出席時に追いつけるようにすること。講義計画は履修者の理解度などに応じて変更する場合がある。

授業方法

講義およびPC演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

Microsoft Excelの基本的な操作ができることを前提とする。毎回復習を30分程度行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

白田、佐々木がそれぞれの担当分を50点満点で評価し、合算して成績を算出する。それぞれの成績評価は下記のとおりである。
(白田)平常点(講義中の演習課題)60% レポート(宿題の成果物提出)40%

(佐々木)平常点(講義中の演習課題)60% レポート(期末)40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中の演習課題については、講義内で解説する。

教科書コメント

教科書は使用せず、講義資料を配布する。

参考文献

問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門-Excelの活用と実務的例題,高井英造、真鍋龍太郎,日本評論社,2000

履修上の注意

(以下は、経営科学応用IA、IB、ICに共通の注意である。)

教室の容量の都合で履修に関する制限があるため、履修希望者は第1学期の経営科学応用IAの第1回授業に必ず参加すること。ここで経営科学応用IA、IB、ICのいずれを履修可とするかの抽選を行う。出席しない場合、いずれの履修も認められない場合があるので注意すること。さらに、下記の点に留意すること。

- ・履修は経営学科の学生に限定する。
- ・経営科学応用IA、IB、ICはいずれも同一内容であり、開講時期のみ異なる。いずれか一つしか履修できない。
- ・2019年度までに経営科学IIの単位を取得済みの者は、経営科学応用IA、IB、ICのいずれも履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220104101	科目ナンバリング	022A141
講義名	経営数学Ⅰ		
副題	経営に役立つ微分偏微分		
英文科目名	Business Mathematics Ⅰ		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 中央－301		

授業概要

微分や偏微分を学んで、ラグランジェの未定乗数法で制約付き最適化問題が解けるようになります。ラグランジェの未定乗数法は、経済経営でもよく使われている方法ですが、人工知能の機械学習、深層学習でも頻繁に使われる、覚えると大変役に立つ方法です。人工知能で起業を目指す人にとって、中身の数学を知ることが重要です。講義はグラフィクス教材を用いてビジュアルに数学を説明しているので、分かり易いです。小テスト及び期末試験は、経営数学入門ABで模試を行っているので、高校で数3を履修していない人は必ず、経営数学入門ABを合わせて履修してください。

到達目標

微分が分かるようになる。
 経営におけるコスト最小化問題や、利潤最大化問題が解けるようになる。
 制約付き最適化問題がラグランジェ未定乗数法を使って解けるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第2章 高校数学のレビュー
第3回	第3章 需要と供給の分析
第4回	小テスト1回目
第5回	第4章 国民所得決定問題
第6回	第5章 IS-LM分析
第7回	第7章 微分の演習
第8回	第8章 1変数関数の最適化問題
第9回	第9章 指数と対数の微分演習
第10回	第10章 指数関数の最適化問題
第11回	小テスト2回目
第12回	第11章 偏微分の演習
第13回	第12章 多変数関数の最適化問題
第14回	第13章 多変数関数の制約付き最適化問題
第15回	総復習

授業計画コメント

小テストを3回行います。3回目は「ラグランジェ未定乗数法7番勝負」で、満点者には楽しいイベントを用意してあります。毎年、このテストで盛り上がります。小テストの予定は変更の可能性がありますので、その際は講義でお知らせします。

授業方法

授業に関しての疑問質問は、e-LearningシステムWeb:HowToSolveItで回答し、皆さんの疑問解消に努めます。
<http://elearn.nantoka.com/HowToSolveIt/> 使い方を説明します。学生の皆さんが、家で数学の問題を解いていて分からない箇所があった場合、紙の質問票に、解答プロセスを丸移してから、分からない箇所を線で明示して、教員に提出します。全ての教材には解答が付いています。先生からの返事は、音声付回答ビデオ・コンテンツとしてWEBに公開されます。学生の皆さんは、WEB上で、教師の音声聞きながら、いつでも、回答を見聞きすることが可能となります。ビデオ・コンテンツからは、学生氏名などは消してありますが、学生の個人情報保護の観点から、本URLは外部公開していません。履修者だけ閲覧可能なサイトです。自習用に各種のWeb教材を提供しています。<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/2020/> から参照してください。重要なお知らせは講義で行います。必ず出席してください。
 そのほか、過去の期末試験、小テストの内容も解答付きで載っています。2年生以上から、「1年のときに躊躇せずに、早く経営数学1と2を合わせてとっておけばよかった」と後悔の言葉を頻繁に聞きます(アンケートの言葉はWEBに掲載)。1年のときに経営数学を履修しましょう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布した計算ドリル問題を解いて計算に慣れておくこと(約30分)。講義後、すぐにノートを読み直して分からない箇所を明確にすること(15分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	講義中出す課題と、計算ドリル帳提出
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験:50%(途中の式を見ます) 小テスト:30%。
 その他、課題提出と計算ドリル帳など:20%(講義中に課題を出すので、必ず出席すること)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

計算ドリル帳を小テストのときに提出してもらおう。今年度から返却しないので、指定の薄いノートを使うこと。

教科書

悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009

教科書コメント

教科書は必須です。

参考文献

大学生のための役に立つ数学,白田由香利, 橋本隆子, 市川収, 鈴木桜子,共立出版,2014

参考文献コメント

法経図書センターの「白田先生コーナー」にも参考書を用意していますので、参照してください。高校数学の参考書から英語版の大学生用数学テキストまで各種あります。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
 履修者が多いので、経営学科以外の学生の履修を認めません。

その他

経営数学と合わせて、経営数学入門ABCDを履修することを強く薦めます。
 経営数学入門ABCDは、経営学科の学生しか履修できません。ABCDの中の1つしか履修できません。
 ABが経営数学1の内容、CDが経営数学2の内容に沿っています。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220105101	科目ナンバリング	022A142
講義名	経営数学Ⅱ		
副題	経営のための金融数学		
英文科目名	Business Mathematics Ⅱ		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央－301		

授業概要

本講義では、経営学科の学生が社会に出た際に役に立つ金利に関する数学などを教える。講義はグラフィクス教材を用いてビジュアルに数学を説明しているので、分かり易い。経営数学入門CDでは、経営数学2のテストの模試を行っているので、自信のない人は必ず、経営数学入門CDを履修すること。経営数学1を受けずに履修することは可能ですが、計算力は経営数学1を想定して講義を進めるので注意すること。

到達目標

金利の計算ができるようになる(リボ払い、住宅ローンの計算など)。
外国債券の値付けの計算が経過利子も含めてできるようになる。財務会計で使うIRRが理解でき使えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	暮らしの中のお金の計算－外貨両替－
第2回	暮らしの中のお金の計算－外貨預金－
第3回	第6章 利息と利子に関する問題
第4回	小テスト1回目
第5回	暮らしの中のお金の計算－比較編1－
第6回	暮らしの中のお金の計算－比較編2－
第7回	役に立つ数学 第4章 指数関数による将来予測
第8回	役に立つ数学 第4章 金利計算
第9回	小テスト2回目
第10回	役に立つ数学 第9章 女性の人生の15のストーリーを数式で見る
第11回	役に立つ数学 第9章 女性の人生の15のストーリーを数式で見る
第12回	感じて理解する数学 第5章 金融数学の基本は債券数学－確定利付債権、満期利回り、IRR
第13回	感じて理解する数学 第6章 動かして理解する債券の価格・利回りカーブ
第14回	経過利子付き外債のプライシング
第15回	小テスト3回目(後半で解き方解説)

授業計画コメント

小テストを3回行います。うち1回は「金融数学問題7番勝負」で、満点者には楽しいイベントを用意してあります。毎年、このため、テストが盛り上がります。期末試験は1回、期末に行います。小テストは予定が変更する可能性がありますので、必ず講義に出ていること。

授業方法

授業に関しての疑問質問に対しては、e-Learningシステム Web:HowToSolveIt で回答し、皆さんの疑問解消に努めます。
<http://elearn.nantoka.com/HowToSolveIt/> 使い方を説明します。学生の皆さんが、家で数学の問題を解いていて分からない箇所があった場合、紙の質問票に、解答プロセスを丸移してから、分からない箇所を線で明示して、教員に提出します。全ての教材には解答が付いています。先生からの返事は、音声付回答ビデオ・コンテンツとしてWEBに公開されます。学生の皆さんは、WEB上で、教師の音声を聞きながら、いつでも、回答を見聞きすることが可能となります。ビデオ・コンテンツからは、学生氏名などは消してありますが、学生の個人情報保護の観点から、本URLは外部公開していません。履修者だけ閲覧可能なサイトです。他学部のかたの履修も歓迎します。楽しく数学が学べます。講義中に、試験に出す問題などを教えているので、講義に出ていれば満点は難しくないです。講義には必ず出席しましょう。小テストの正解は、Web:HowToSolveItに載せます。レポートなどの返却は講義中に行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布した計算ドリル問題を解いて計算に慣れておくこと(約30分)。講義後、その日のうちにすぐにノートを読み直して分からない箇所を明確にすること(15分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	講義中出す課題と計算ドリル提出
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験:60%、小テスト20%。
課題提出など:20%(小テストの際に、計算ドリル帳に計算練習や説き直しをやってくると、点がもらえます。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

計算ドリル帳を小テストのときに提出してもらおう。小テスト終了時に返却する。
返却する場合、提出証拠のシールを渡すので、それを期末試験時に試験用紙に貼って提出してもらおう。

教科書

大学生のための役に立つ数学,白田由香利, 橋本隆子, 市川収、他,共立出版,2014
悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009
感じて理解する数学入門(eBook),白田由香利, 橋本隆子, 飯高茂,オライリージャパン,2012

教科書コメント

教科書は必須です。テストは、コピーの紙、教科書、ノートなど持ち込み可能です。指数・対数関数のついた関数電卓は必須です。

参考文献コメント

他にも、法経図書センターの「白田先生コーナー」にも参考書を用意していますので、参照してください。高校数学の参考書から英語版の大学生用数学テキストまで各種あります。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。経営学科以外の履修も認めます(経営数学1は経営学科のみです)

その他

白田のサイト <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/>
講義に関連した白田グラフィクス教材サイトは配布資料でお知らせします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220108201	科目ナンバリング	022A161
講義名	会計総論Ⅰ（経営学科）		
英文科目名	AccountingⅠ		
担当者名	鈴木 大介		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西5－B1		

授業概要

会計学の基礎概念について学びます。企業の業績を測るために用いられる利益の概念を中心として、企業の1年間の業績を表す損益計算書や財政状態を表す貸借対照表とその作成過程についての基礎的な知識を身に付けます。また、第2学期では、第1学期で学習した内容をふまえ、資本会計や財務分析、監査と粉飾等について学習します。授業内容の進行に合わせて、適宜、直近の新聞記事を紹介し、時事問題を論じます。

到達目標

- (1)企業会計に関する基礎知識を身に付ける。
- (2)会計に関する時事問題を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション、会計の目的
第2回	会計基準と会計制度
第3回	収支の期間配分
第4回	利益の認識と測定
第5回	複式簿記(1)
第6回	複式簿記(2)
第7回	原価計算(1)
第8回	原価計算(2)
第9回	資産・負債の認識と測定(1)
第10回	資産・負債の認識と測定(2)
第11回	費用配分のバリエーション(1)
第12回	費用配分のバリエーション(2)
第13回	資本会計(1)
第14回	資本会計(2)
第15回	総括

授業計画コメント

有名企業の事例や新聞記事, さらには, 資格試験の補足もしていければと思います。

授業方法

講義方式(教科書ならびに配布資料を用いて講義を進めます)。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- 予習: 事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。
- 復習: 教科書ならびに配布資料等を用いて、授業内容を確認しておくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	90 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させます。

教科書

はじめて出会う会计学: 有斐閣アルマ, 川本淳ほか, 有斐閣, 新, 2015, 978-4-641-22061-4

教科書コメント

良書ですので、何度も読み返しをしてほしいと思います。

参考文献コメント

適宜指示します。

履修上の注意

第1学期の授業の内容は、より実践的な内容を学習する第2学期の授業の基礎となります。単位を取得するためにも、しっかりと学習してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220108301	科目ナンバリング	022A162
講義名	会計総論Ⅱ（経営学科）		
英文科目名	Accounting Ⅱ		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西5－B1		

授業概要

会計学の基礎概念について学びます。会計総論Ⅰ（経営学科）の内容を踏まえ、財務分析や連結会計、監査、粉飾会計、ディスクロージャー等について学習します。授業内容の進行に合わせて、直近の新聞記事を紹介し、時事問題を論じます。

到達目標

- (1)会計学に関する基礎知識を身につける。
- (2)会計に関する新聞記事を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	財務分析(1) 有価証券報告書
第2回	財務分析(2) 収益性分析 (ROE分析)
第3回	財務分析(3) 収益性分析 (ROA分析)
第4回	財務分析(4) 効率性分析
第5回	財務分析(5) 安全性分析
第6回	財務分析(6) 事例分析
第7回	会計単位(1) 連結財務諸表
第8回	会計単位(2) 親子会社間取引
第9回	会計情報の役立ち(1) ディスクロージャー
第10回	会計情報の役立ち(2) 効率的資本市場
第11回	監査と粉飾
第12回	財務報告制度の歴史
第13回	会計キャリアセミナー
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ

授業計画コメント

会計総論Ⅰ（経営学科）を履修済みであることを前提とする。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- 予習: 事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。
- 復習: 教科書ならびに配布資料を用いて、授業内容を確認すること(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

解説を行います。

教科書

はじめて出会う会計学,川本淳、他,有斐閣,新,2015,978-4-641-22061-4

参考文献コメント

適宜、指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220109101	科目ナンバリング	022A170
講義名	マーケティング(経営学科)		
英文科目名	Marketing		
担当者名	青木 幸弘		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西5－B1		

授業概要

マーケティングの全体像を理解すると共に、現代マーケティングの基礎的・基本的な諸概念を体系的に学んでいく。第1学期においては、マーケティングの基本プロセスや競争対抗戦略、カテゴリー創造やマーケティングの今日的課題につき講述し、第2学期においては、それを受けて、消費者行動、マーケティング・リサーチ、新製品開発などをはじめとして、マーケティングの各論について取り上げる。

到達目標

マーケティングにおける基礎的知識を修得すると共に、それらを具体的事例と関連づけることで、マーケティング課題解決のための分析能力を身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業の概要と全体のプレビュー
第2回	消費社会の成立とマーケティング
第3回	マーケティングと消費者理解
第4回	マーケティングの基本プロセス
第5回	セグメンテーションとターゲティング
第6回	差別化とポジショニング
第7回	マーケティング・ミックス
第8回	マーケティングと競争対抗①:競争上の地位類型
第9回	マーケティングと競争対抗②:戦略ドメイン
第10回	マーケティングとカテゴリー創造①:カテゴリー創造の意義
第11回	マーケティングとカテゴリー創造②:ブルーオーシャン戦略
第12回	マーケティングの今日的課題(1):脱コモディティ化とブランド構築
第13回	マーケティングの今日的課題(2):経験経済と価値共創
第14回	マーケティングの今日的課題(3):デジタル・マーケティング
第15回	振り返り
第16回	消費者行動(1):消費者行動とは何か
第17回	消費者行動(2):消費者行動の分析フレーム
第18回	消費者行動(3):購買行動とブランド選択
第19回	マーケティング・リサーチ①
第20回	マーケティング・リサーチ②
第21回	新製品開発①
第22回	新製品開発②
第23回	プライシング
第24回	マーケティング・コミュニケーション
第25回	流通チャネル
第26回	ブランド構築とコミュニケーション(1):コモディティとブランド
第27回	ブランド構築とコミュニケーション(2):ブランド構築の枠組み
第28回	ブランド構築とコミュニケーション(3):ブランド・コミュニケーション
第29回	ブランド構築とコミュニケーション(4):ロングセラー・ブランド化
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

第1学期に基礎的概念の紹介し、第2学期には、各論や発展的な話題を取り上げていく。

授業方法

(1)提出されたコメント・ペーパーによる前回授業内容の復習と補足、(2)配付資料に基づく基礎的概念や枠組についての説明、(3)映像資料等を用いた関連事例の紹介、という3部構成で授業を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回配布する講義内容のプリントや関連資料に目を通した上で出席し(予習30分)、また、講義を受けての気づきや疑問、重要と思うポイントをコメント・ペーパーにまとめ、manaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によって提出すること(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	20 %	各学期末にレポート。10点×2回=20点
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	manabaによるコメント・ペーパーの提出
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学年末試験:30%(論述式試験によって基礎概念や基本的枠組みについての理解度を確認)、レポート:20%(各学期末に課すレポートにより現実的問題への応用力を確認)、コメント・ペーパー:50%(コメント・ペーパーによって、毎回の授業内容についての理解度を確認)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によりフィードバック

教科書コメント

プリントを配付。

参考文献

ケースに学ぶマーケティング,青木幸弘編著,有斐閣,2015,9784641184268

消費者行動の知識,青木幸弘,日本経済新聞出版社,2000,9784532112226

入門・マーケティング戦略,池尾恭一,有斐閣,2016,9784641164861

1からのマーケティング,石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著,中央経済社,4,2020,9784502327711

参考文献コメント

その他の参考文献については、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

あICカード・リーダーを用いた毎回の出席確認、manabaによる毎回のコメント・ペーパーの提出、responを用いた授業中アンケートを行う(詳しくは、初回の授業で説明)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220110101	科目ナンバリング	022A210
講義名	経営管理論		
英文科目名	Theory of Management		
担当者名	竹内 倫和		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 西2-402		

授業概要

経営学の研究領域は、経済社会の中で果たす企業の役割の大きさに伴って、広範囲かつ多元的なものになってきています。具体的には、企業経営における組織の問題(経営組織論)、従業員の管理の問題(人的資源管理論)、経営における戦略の問題(経営戦略論)など多くの専門分野を挙げることができます。その中で、本講義では経営学の個別専門分野について学習する前段階として、経営学に関する基礎的かつ重要事柄について講義をしていきたいと思います。特に、後半では企業の経営管理において重要なモチベーションやリーダーシップなどの組織の中で働く従業員の態度・行動について検討していきます。

到達目標

本講義を通して、経営学の基本的考え方ならびにマネジメントについての体系的知識を習得することを目標としています。また、モチベーションやリーダーシップの理論を理解することによって、それらの理論をもとにどのように実践に生かすことができるのかを考えられるようになることを目標としています。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:本講義のねらい、授業方針、成績評価について
第2回	経営学とは(1):経営学の対象及び基本的性格
第3回	経営学とは(2):経営学の個別専門領域
第4回	企業とは(1):所有関係に基づく分類
第5回	企業とは(2):コーポレートガバナンス
第6回	企業とは(3):企業規模に基づく分類
第7回	企業とは(4):中小企業のマネジメント
第8回	テイラーの科学的管理法(1)
第9回	テイラーの科学的管理法(2)
第10回	フォードシステム(1)
第11回	フォードシステム(2)
第12回	科学的管理法とフォードシステムの総合的考察
第13回	ホーソン実験と人間関係論(1)
第14回	ホーソン実験と人間関係論(2)
第15回	ホーソン実験と人間関係論(3)
第16回	ホーソン実験と人間関係論(4)
第17回	モチベーション論(1):定義と理論分類
第18回	モチベーション論(2)内容理論の具体的説明(1)
第19回	モチベーション論(3):内容理論の具体的説明(2)
第20回	モチベーション論(4):過程理論の具体的説明(1)
第21回	モチベーション論(5):過程理論の具体的説明(2)
第22回	モチベーション論(6):過程理論の具体的説明(3)
第23回	リーダーシップ論(1):リーダーシップの定義
第24回	リーダーシップ論(2):組織とリーダーシップ
第25回	リーダーシップ論(3):特性理論の具体的説明
第26回	リーダーシップ論(4):行動理論の具体的説明(1)
第27回	リーダーシップ論(5):行動理論の具体的説明(2)
第28回	リーダーシップ論(6):コンティンジェンシー理論の具体的説明(1)
第29回	リーダーシップ論(7):コンティンジェンシー理論の具体的説明(2)
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

基本的な講義計画は、上記のとおりです。しかし、受講生の反応を見ながら、授業を展開していくため、実際の授業内容及び進度には変更があると思います。

授業方法

授業方法

講義形式による授業方法です。しかし、授業中に受講生に対して意見を求めたり、質問を投げかけたりするなど、双方向の講義を適宜行いますので、受講生の積極的な参加を求めたいと思います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に参考書等の該当箇所を読むこと(約30分) 前回の授業内容を必ず復習すること(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	95 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価の詳細について初回講義時に説明しますので、必ず出席して下さい。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時間において各課題の重要なポイントについて説明する。

参考文献

マネジメントの心理学,伊波和恵・高石光一・竹内倫和,ミネルヴァ書房,2014

参考文献コメント

初回授業時に、教科書及び参考文献についての詳細は説明致します。 講義の中でも適宜関連する参考書を提示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業時における携帯電話等の使用(メールを含む)、他の受講生の迷惑となる行為(私語、途中出入りなど)は、一切禁止します。そのような行為に対しては、厳しい態度で臨むと同時に、そのような行為を行った受講生には一切単位を認定しません。大人としての最低限のルールを守って授業に参加して下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220111201	科目ナンバリング	022A224
講義名	経営戦略Ⅰ（経営学科）		
英文科目名	Corporate strategyⅠ		
担当者名	深見 嘉明		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西2－402		

授業概要

企業にとって成長や利益の獲得は最も重要な経営目標の一つです。こうした経営目標を達成していくために、企業には綿密な戦略の立案と実行が求められます。自社を取り巻く経営環境や自社の資源・能力を分析し、自社の事業の範囲をどのように定めるか、その下で新製品・サービスの開発や新規事業の開発、市場の開拓・拡大をどのように行っていくか、そのためにどんな資源をどのように活用していくのか、さらにライバル企業との競争にどう対応すべきかなど、企業の経営者・管理者が考えなければならない問題は数多くあります。

この講義では、このような企業の成長と利益の獲得に向けた経営戦略上の課題と対応を、できるだけ具体的な事例を交えながら解説していきます。

到達目標

この講義を通じて、①経営戦略に関する主要な理論や概念を体系的に理解すること、②戦略的に考えるとはどういうことなのかという「戦略思考」を身に付けること、③現実の企業の成長や競争優位の源泉を具体的な事例に即して理解できる能力を身に付けることの三つを到達目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス(授業の内容、スケジュール、参考文献、評価基準等に関する案内)
第2回	経営戦略の概念と体系
第3回	外部環境分析
第4回	内部資源・能力分析
第5回	外部環境と内部資源・能力の包括的分析
第6回	企業のあるべき姿の決定:企業ドメインを中心に
第7回	製品ライフサイクルと企業成長
第8回	成長戦略の類型
第9回	市場浸透戦略
第10回	製品開発と市場開発の戦略
第11回	多角化の戦略
第12回	垂直統合の戦略
第13回	相補効果と相乗効果
第14回	PPM分析
第15回	まとめ

授業計画コメント

戦略立案の基礎となる外部環境や自社資源・能力の分析、事業範囲の決定、および企業成長のための基本戦略等について解説します。

授業方法

授業は、大教室において講義形式で行われますが、できるだけ学生に質問を投げかけ、それについて考えてもらうという形での双方向のやり取りを大切にします。

また、必要に応じて、関連するビデオの視聴や企業の戦略部門の管理者等をゲストとして招き、経営戦略の現実的課題の理解を図りたいと思います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にホームページにアップする講義資料に目を通し、どのような内容が講義されるのかを確認すること(約30分)。上記の講義資料のほかに、補足資料がある場合には、事前に精読して付随する設問等について考えておくこと(約1～1.5時間)。

各回の授業終了後に、講義で説明した理論や概念を再確認し、次の授業で質問すべき疑問点等を整理すること(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		授業での発言点を加算します

成績評価コメント

学年末試験は、経営戦略に関する概念・理論等の理解度、及びそれらの応用可能性に関する考察力・論理展開力について評価します。

小テストは、講義で解説した内容に関する基礎知識の習得度について評価します(年4～5回程度)。必要に応じて、小テストの代わりにレポートを科すことがあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学年末テストの結果は、翌年度初めに、Web上に成績階層別の人数比という形で成績が掲示されます。

また、小テストの結果は、各テスト後に平均点と得点分布を示し、講義の中で正解について解説します。小テストの答えは、マークシートによる場合を除いて、すべて学生に返却します。

教科書コメント

教科書は特に指定しません。事前に私のホームページに講義資料をアップし、それに沿って授業を展開していきます。

参考文献

経営戦略入門, 網倉久永、新宅純二郎, 日本経済新聞社, 第1版, 2011

参考文献コメント

その他の参考文献については授業の中で紹介します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220111301	科目ナンバリング	022A225
講義名	経営戦略Ⅱ（経営学科）		
英文科目名	Corporate strategy Ⅱ		
担当者名	深見 嘉明		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2－402		

授業概要

企業にとって成長や利益の獲得は最も重要な経営目標の一つです。こうした経営目標を達成していくために、企業には綿密な戦略の立案と実行が求められます。自社を取り巻く経営環境や自社の資源・能力を分析し、自社の事業の範囲をどのように定めるか、その下で新製品・サービスの開発や新規事業の開発、市場の開拓・拡大をどのように行っていくか、そのためにどんな資源をどのように活用していくのか、さらにライバル企業との競争にどう対応すべきかなど、企業の経営者・管理者が考えなければならない問題は数多くあります。

この講義では、このような企業の成長と利益の獲得に向けた経営戦略上の課題と対応を、できるだけ具体的な事例を交えながら解説していきます。

到達目標

この講義を通じて、①経営戦略に関する主要な理論や概念を体系的に理解すること、②戦略的に考えるとはどういうことなのかという「戦略思考」を身に付けること、③現実の企業の成長や競争優位の源泉を具体的な事例に即して理解できる能力を身に付けることの三つを到達目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	競争戦略の考え方
第2回	ポジショニング戦略の視点
第3回	三つの基本戦略(コスト・リーダーシップ、差別化、集中)
第4回	市場地位別の戦略
第5回	資源ベース戦略と競争優位性
第6回	ゲーム論的戦略と学習プロセス戦略
第7回	ブルーオーシャン戦略の視点
第8回	ビジネスモデル戦略の考え方
第9回	フリービジネスの戦略
第10回	メーカーのサービス化
第11回	オープン・イノベーションとユーザー・イノベーション
第12回	グローバル戦略とリバース・イノベーション
第13回	地域創生の戦略
第14回	企業の経済性と社会性:CSVの視点
第15回	総括:戦略的思考とは何か

授業計画コメント

競争戦略と企業の利益に焦点を当て、さらにブルーオーシャン戦略やビジネスモデル戦略、グローバル戦略等、より発展的な内容について解説します。

なお、講義内容及びスケジュールは、進捗等により変更の可能性があります。

授業方法

授業は、大教室において講義形式で行われますが、できるだけ学生に質問を投げかけ、それについて考えてもらうという形での双方向のやり取りを大切にします。

また、必要に応じて、関連するビデオの視聴や企業の戦略部門の管理者等をゲストとして招き、経営戦略の現実的課題の理解を図りたいと思います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にホームページにアップする講義資料に目を通し、どのような内容が講義されるのかを確認すること(約30分)。上記の講義資料のほかに、補足資料がある場合には、事前に精読して付随する設問等について考えておくこと(約1～1.5時間)。

各回の授業終了後に、講義で説明した理論や概念を再確認し、次回の授業で質問すべき疑問点等を整理すること(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		授業での発言点を加算します

成績評価コメント

学年末試験は、経営戦略に関する概念・理論等の理解度、及びそれらの応用可能性に関する考察力・論理展開力について評価します。

小テストは、講義で解説した内容に関する基礎知識の習得度について評価します(年4～5回程度)。必要に応じて、小テストの代わりにレポートを科すことがあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学年末テストの結果は、翌年度初めに、Web上に成績階層別の人数比という形で成績が掲示されます。

また、小テストの結果は、各テスト後に平均点と得点分布を示し、講義の中で正解について解説します。小テストの答えは、マークシートによる場合を除いて、すべて学生に返却します。

教科書コメント

教科書は特に指定しません。事前に私のホームページに講義資料をアップし、それに沿って授業を展開していきます。

参考文献

経営戦略入門, 網倉久永、新宅純二郎, 日本経済新聞社, 第1版, 2011

参考文献コメント

その他の参考文献については授業の中で紹介します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220112201	科目ナンバリング	022A212
講義名	人的資源管理論 I		
英文科目名	Human Resource Management I		
担当者名	守島 基博		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西5－B1		

授業概要

企業にとって、人材というのはもっとも重要な経営資源のひとつである。人材無しでは、企業は戦略や事業目標を達成できないし、また企業が競争力を獲得、維持するのも人材の働きにかかっているからである。この授業では、組織や企業が、組織の目的をより効果的に達成し、企業の強みを維持していくためには、どう人材を活用すればよいのかを学ぶ。この活動は通常、人材マネジメントまたは人的資源管理(Human Resource Management、略してHRM)と呼ばれ、この授業では、前期・後期をかけて、この分野の基礎を全般的に網羅する。特に今年度前期は、働く人(皆さん方)の視点から、企業の行う人的資源管理がどう見えるかを考えたい。

到達目標

この授業では、
 ①採用から退職までの人的資源管理プロセスの関する基本的な知識を得、
 ②それが働く人の視点で考えた場合、どう見えるのかを理解し、
 ③また人的資源管理と皆さんの働き方が現在どう変わっているのかについての理解を得る。
 ことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業のオリエンテーション
第2回	人的資源管理とは
第3回	企業経営の一部としての人的資源管理
第4回	人から見た人的資源管理
第5回	モチベーションをどう考えるか
第6回	社員区分と雇用契約
第7回	非正規という働き方
第8回	採用:その変遷と未来
第9回	入社してから組織人になる
第10回	配置転換とキャリア形成
第11回	給与などの報酬
第12回	企業を辞める時:退職と解雇、定年
第13回	定年後の人生
第14回	まとめ
第15回	予備日

授業方法

講義が主だが、可能な限りディスカッションを取り入れたい。指名して答えてもらうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・各回の内容とテキストの必読部分は初回授業で説明しますので、その部分を授業前に読んでくること(2時間程度)。
- ・教科書の内容は多くの内容が解り難い場合は、自分で図書館やインターネットを利用して、調べること(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の結果は、後日掲示などの方法で知らせ、夏休み中にフィードバックを行います。

教科書

新しい人事労務管理(第6版):有斐閣アルマ,佐藤博樹・藤村博之・八代充史,有斐閣,6,2019,4641221448

教科書コメント

テキストの必読部分は初回授業で説明します。毎週必ず読んで授業に来ること。

参考文献

『人材マネジメント入門』: 日経文庫, 守島基博, 日本経済新聞出版社, 初, 2004, 4532110017

履修上の注意

学期中2回、従業中に、出欠確認を兼ねた、簡単なレポートを課す予定である。いつになるかは事前には知らせない。レポートの質はあまり問わないが、出ているかどうかで成績の10%(合計20%)を決める予定である。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220112301	科目ナンバリング	022A213
講義名	人的資源管理論Ⅱ		
英文科目名	Human Resource ManagementⅡ		
担当者名	守島 基博		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西5－B1		

授業概要

企業にとって、人材というのはもっとも重要な経営資源のひとつである。人材無しでは、企業は戦略や事業目標を達成できないし、また企業が競争力を獲得、維持するのも人材の働きにかかっているからである。この授業では、組織や企業が、組織の目的をより効果的に達成し、企業の強みを維持していくためには、どう人材を活用すればよいのかを学ぶ。この活動は通常、人材マネジメントまたは人的資源管理(Human Resource Management、略してHRM)と呼ばれ、この授業では、前期・後期をかけて、この分野の基礎を全般的に網羅する。特に今年度後期は、企業が行う人事管理の施策の代表的なものを紹介し、それらの変化の方向性も考えたい。

到達目標

この授業では、
 ①採用から退職までの人的資源管理プロセスの関する基本的な知識を得、
 ②企業が行う具体的な施策を理解し、
 ③それが環境の変化に合わせて、どう変化しているのかについての理解を得る。
 ことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	労働時間と賃金
第2回	働き方改革といわれる動き
第3回	人材育成とキャリア開発
第4回	従業員の自律的成長とその問題点
第5回	人事評価(人事考課)とその問題点
第6回	成果主義と公平性
第7回	昇進と昇格:これまでと新たな動き
第8回	女性の活用とその課題
第9回	ワークライフ・バランス
第10回	福利厚生そとの新たな動き
第11回	労使関係と労働組合
第12回	経営のグローバル化と人材
第13回	業務委託とフリーランス
第14回	まとめ
第15回	予備日

授業方法

講義が主だが、可能な限りディスカッションを取り入れたい。指名して答えてもらうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・各回の内容とテキストの必読部分は初回授業で説明しますので、その部分を授業前に読んでくること(2時間程度)。
- ・教科書の内容は多くの内容が解り難い場合は、自分で図書館やインターネットを利用して、調べること(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の結果は、後日掲示などの方法で知らせ、2月中にはフィードバックを行います。

教科書

新しい人事労務管理(第6版):有斐閣アルマ,佐藤博樹・藤村博之・八代充史,有斐閣,6,2019,4641221448

教科書コメント

テキストの必読部分は初回授業で説明します。毎週必ず読んで授業に来ること。

参考文献

『人材マネジメント入門』: 日経文庫, 守島基博, 日本経済新聞出版社, 初, 2004, 4532110017

履修上の注意

学期中2回、従業中に、出欠確認を兼ねた、簡単なレポートを課す予定である。いつになるかは事前には知らせない。レポートの質はあまり問わないが、出ているかどうかで成績の10%(合計20%)を決める予定である。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220115101	科目ナンバリング	022A260
講義名	経営財務 I		
副題	企業の財務的意思決定入門		
英文科目名	Managerial Finance I		
担当者名	小山 明宏		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 南3－201		

授業概要

大学入学後1年間経営学を勉強した学生に、企業の意思決定の重要なコンポーネントである財務について、入門的な講義を行う。1年間勉強してはじめて、「入門」ができたことになる。

到達目標

生産・販売・財務という企業の3大意思決定は経営学の基本中の基本である。「経営学科を卒業した」と言える資格があるのは財務諸表の基本的な見方を理解している学生のみである。そして財務的意思決定の基本を最低限理解しないと社会へ出てから大変な苦労にみまわれることになる。そういうことがないことを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	全体の展望について
第2回	経営財務入門
第3回	投資の意思決定(確定性下)基礎
第4回	投資の意思決定(確定性下)資本コストと割引率
第5回	投資の意思決定(確定性下)評価方法
第6回	投資の意思決定(確定性下)全体的評価
第7回	投資の意思決定(不確定性下)リスクの概念
第8回	投資の意思決定(不確定性下)ポートフォリオセレクション
第9回	投資の意思決定(不確定性下)資本市場理論
第10回	投資の意思決定(不確定性下)モデル分析
第11回	企業評価・財務諸表
第12回	企業評価・財務分析
第13回	企業評価・定性的総合評価
第14回	企業評価・定量的総合評価
第15回	第1学期のまとめ
第16回	資金調達・資本コストの概念
第17回	資金調達・伝統派の理論
第18回	資金調達・モディリアーニ&ミラーの理論
第19回	資金調達・現代の理論
第20回	成果配分・配当政策
第21回	成果配分・ステークホルダーの理論
第22回	エージェンシー理論・入門
第23回	エージェンシー理論・応用
第24回	コーポレート・ガバナンス・利害関係の調整
第25回	コーポレート・ガバナンス・経済分析
第26回	コーポレート・ガバナンス・各国のシステム
第27回	コーポレート・ガバナンス・日本のシステム
第28回	わが国企業の財務・バブル経済まで
第29回	わが国企業の財務・バブル経済以降
第30回	第2学期のまとめ

授業計画コメント

この科目は履修者が授業に出ていることを前提に進めているので、授業中に指示を出しても「授業に出ていなかったので知りませんでした」等という言い訳は、4年生も含めて絶対に通用しないのを知っておくこと。

授業方法

教科書にしたがって、解説を行う。授業中に履修者名簿を見て、指名して答えてもらうことがあるが、それを必須としているわけではない。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

1年次での会計総論の知識を忘れないこと。またインターネットの経済記事に目を向け、授業で学んだことと対応させる習慣をつけること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

第1学期(学期末試験):40%(授業で勉強したことの理解度の確認である。)、第2学期(学年末試験):40%(授業で勉強したことを最終的に正しく理解しているかを確認する。)、小テスト:10%(計算問題などの練習問題をやる。正答を解説し、試験対策を行う。)レポート:10%(4月末か5月初めに第1回のレポートを課す。)
授業に出席しちゃんとノートをとっていること。それなら期末試験問題に正しく答えることができます。授業に出ているといっても、手ぶらで来てただ座っているだけでは欠席と変わらない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

教科書

経営財務論(新訂第5版),小山 明宏,創成社,新訂第5,2019
企業評価の総合的方法,小山 明宏,創成社,2019,978-4-7944-2533-1

教科書コメント

1冊目の教科書は、昨年春に出た新版です。2016年春に出た新訂第4版をさらに改訂した新訂第5版ですので、注意するように。書籍は試験で持ち込み可能です。

参考文献

現代経営学再入門―経営学を学び直すための基礎-最新理論,上田、小山、手塚、米山,同友館,2010
新制度派経済学による組織入門―市場・組織・組織間関係へのアプローチ,ピコー、ディートル、フランク,白桃書房,2007
コーポレート・ガバナンスの日独比較,小山 明宏,白桃書房,2008,9784561264811

参考文献コメント

授業中に言及するこれらの参考書は、試験に持ち込み可能である。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

年に何回か、レポートを課す。また、授業中に練習問題(正答解説)をやったり、アンケートをとったりするので、授業に出ていない学生には不利になる。名簿を見て授業中にあてたりすることもあるが、正答でなくても加点している。経験では、過去この科目で不可となる学生は、古い版の教科書を使っている人が多いようである。必ず最新版を持参するように。去年は特にこれが原因で不可となる学生が多かった。また、授業にすべて出席し、課題をすべてこなしていても、試験の点数が悪いと不可になる。ただし、授業に「出席」とするといっても、手ぶらで来て教室に「いる」だけでは欠席と変わらず、そういう学生は結果として「落ちる」ことが多いようである。普通に授業に出ていれば、試験で悪い点をとることはない。なお、時に出席をとるが、出席票を配る時に、「友達の名も下さい」などと平気で不正行為を行おうとする愚か者がいる。そういう学生はその場で即座に連帯で不可をつけるので気をつけること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220116201	科目ナンバリング	022A222
講義名	ビジネス・エコノミクス I		
英文科目名	Business Economics I		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 南3－401		

授業概要

本授業では、ミクロ経済学をもとに、企業が利益をあげる仕組みについて考察する。消費者と企業、それぞれの立場から意思決定を考えながら、価格設定、市場参入と退出、ネットワークビジネスなどについて学習する。多くの業界で現れる典型的なビジネス課題を取り上げ、各課題を分析可能なモデルとして表して本質を見抜けるように分析する。合理的意思決定、簡単な微分、不確実性下の意思決定やゲーム理論（相互依存下の意思決定理論）などの分析ツールも紹介する。

到達目標

経済学を使って事業を分析する、そして事業の損益を決める要因を明確にするスキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション 取引の利益： 前期担当 渡邊真理子
第2回	合理的意思決定の原理
第3回	消費者の意思決定
第4回	需要の価格弾力性
第5回	企業の意思決定 価格設定の原理 異なる費用と異なる意思決定
第6回	取引の利益と競争戦略(1) 消費者余剰均等の原理
第7回	取引の利益と競争戦略(2) コスト優位戦略と差別化優位戦略
第8回	垂直統合化か外部調達か
第9回	交渉 1対1の価格決定(1) 外部機会と交渉力
第10回	契約 1対1の価格決定(2) ロイヤルティ契約、歩合制、フランチャイズ
第11回	オークション 1対複数の際の価格決定
第12回	価格戦略 複数対複数(1) 価格差別 クーポン 二部価格制 同質化競争 価格差別の限界
第13回	製品戦略 複数対複数(2) 品質とバラエティ 水平的差別化 垂直的差別化 市場細分化
第14回	製品戦略 複数対複数(3) つづき 模倣と差別化 製品差別化のもたらす効果
第15回	総括 過去問題の解題など
第30回	総括

授業方法

講義形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前期については、毎回小問題を解くことをもとめ、次週に提出してもらいます。後期についても、練習問題を適宜宿題にし、解答の確認をします。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	100%	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期については、毎回小問題を解き提出することを求めます。次週に回答を配布するので、自分で採点と復習をしてください。後期についても適宜宿題が課されるので、講義中の解説で理解を深めてください。

参考文献

レヴィット ミクロ経済学 基礎編 発展編,レビット、グールズビー、サイバーソン,東洋経済新報社 ,2017,978-4-492-31495-1
経営の経済学 第3版,丸山雅祥,有斐閣,2016,978-4-641-1616495-5
経営戦略のゲーム理論,ジョン・マクミラン,有斐閣,1995,978-4-641-06754-7

ミクロ経済学の第一歩,安藤至大,有斐閣,2013,978-4-641-15005-8

ひたすら読むエコノミクス,伊藤秀史,有斐閣,2012,978-4-641-16397-3

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220116301	科目ナンバリング	022A223
講義名	ビジネス・エコノミクスⅡ		
英文科目名	Business Economics Ⅱ		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 南3－401		

授業概要

本授業では、ミクロ経済学をもとに、企業が利益をあげる仕組みについて考察する。消費者と企業、それぞれの立場から意思決定を考えながら、価格設定、競争、ネットワーク効果などについて学習する。多くの業界で現れる典型的なビジネス課題を取り上げ、各課題を分析可能なモデルとして表して本質を見抜くように分析する。デシジョンツリー、期待値、限界と微分、ゲーム理論などの応用領域が広い分析ツールを紹介する。

到達目標

経済学を使って事業を分析する、そして事業の損益を決める要因を明確にするというスキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	デシジョンツリー (リスクとリターンの両面を重視する意思決定方法)
第2回	逆選択 (中古品販売における品質低下)
第3回	逆選択 (無担保ローンの金利上昇)
第4回	逆選択 (自動車保険の保険料設定)
第5回	価格設定 (独占および寡占)
第6回	寡占の主要3モデル (Cournot, Stackelberg, Bertrand)
第7回	ゲーム理論紹介 (ゲームツリー、利得行列、ナッシュ均衡)
第8回	経営目標選択 (利益を増やすために利益ではなく収入を追求すべきか)
第9回	コンテスト (飽和市場と広告費)
第10回	競売 (価格設定を買い側に任せる)
第11回	ネットワーク商品 (一面型・通信アプリ)
第12回	ネットワーク商品 (二面型・決済カード)
第13回	小売業 (最低価格保証およびポイント制の意外の働き)
第14回	価格差別 (同一商品を色々な価格で販売する)
第15回	総括

授業方法

講義形式、質疑応答あり

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

前回の講義資料を参考に小問題を解く

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	100%	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小問題を解きながら学ぶというプロセスの中でフィードバックを提供する

参考文献

レヴィット ミクロ経済学 基礎編,レビット、グールズビー、サイバーソン,東洋経済新報社 ,2017,978-4-492-31495-1
ミクロ経済学の力,神取道宏,日本評論社,2014,978-4-535-55756-7
経営戦略のゲーム理論,ジョン・マクミラン,有斐閣,1995,978-4-641-06754-7
ミクロ経済学の第一歩,安藤至大,有斐閣,2013,978-4-641-15005-8
ひたすら読むエコノミクス,伊藤秀史,有斐閣,2012,978-4-641-16397-3

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220117101	科目ナンバリング	022A270
講義名	消費者行動		
副題	消費者行動分析の理論と応用		
英文科目名	Consumer Behavior		
担当者名	青木 幸弘		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西2－201		

授業概要

本講義では、過去の消費者行動研究から得られた科学的知見に基づき、消費者行動を理解し予測する上で必要となる分析上の視座や枠組みを提供する。加えて、それらのマーケティング戦略上の含意や応用についても検討していく。具体的には、まず第1学期に、消費者行動分析の意味と意義、分析枠組みや基礎概念について講述する。続く第2学期では、消費様式の選択メカニズムや購買意思決定プロセスについて説明した後、ブランド戦略やコミュニケーション戦略への応用について検討する。

到達目標

消費者行動に関する基礎知識を習得すると共に、具体的事例と関連づけることで、マーケティング課題解決のための分析能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:講義概要と全体のプレビュー
第2回	消費者行動とは何か(1):消費の諸相
第3回	消費者行動とは何か(2):消費者と選択
第4回	消費者行動とは何か(3):消費者選択の階層性
第5回	消費者行動研究の歴史(1):学説史的検討の意味
第6回	消費者行動研究の歴史(2):消費者行動研究の諸領域
第7回	消費者行動研究の歴史(3):モチベーション・リサーチの系譜
第8回	消費者行動研究の歴史(4):最近の展開
第9回	消費者行動の分析フレーム(1):消費者行動の集計水準
第10回	消費者行動の分析フレーム(2):消費者選択の階層性
第11回	消費者行動の分析フレーム(3):使用行動とシェアリング
第12回	消費者行動の分析フレーム(4):時間配分と消費様式選択
第13回	消費者行動の分析フレーム(5):買物出向と空間行動
第14回	消費者行動の分析フレーム(6):消費者行動の分析技法
第15回	振り返り
第16回	消費様式の選択メカニズム(1):分析単位としての家族と家計
第17回	消費様式の選択メカニズム(2):ライフサイクル、ライフコース、ライフスタイル
第18回	消費様式の選択メカニズム(3):消費様式の選択プロセス(時間配分の理論)
第19回	消費様式の選択メカニズム(4):消費プロセスの変容と市場への影響
第20回	購買意思決定プロセス(1):購買意思決定と情報処理
第21回	購買意思決定プロセス(2):消費者の情報処理モデル
第22回	購買意思決定プロセス(3):購買前の情報処理
第23回	購買意思決定プロセス(4):購買時の情報処理
第24回	購買意思決定プロセス(5):購買後の情報処理
第25回	消費者行動分析と製品・ブランド戦略(1):購買行動におけるブランドの役割
第26回	消費者行動分析と製品・ブランド戦略(2):消費者のブランド知識構造
第27回	消費者行動分析と製品・ブランド戦略(3):ブランド戦略の事例研究
第28回	消費者行動分析とコミュニケーション戦略(1):メディア環境の変化と消費者行動
第29回	消費者行動分析とコミュニケーション戦略(2):クロス・メディア戦略の事例研究
第30回	理解度の確認

授業方法

(1)コメント・ペーパーによる前回授業内容の復習と補足、(2)テキストおよび配布資料に基づいた基礎的な概念や分析枠組みについての説明、(3)映像資料を用いた関連事例の紹介、という3部構成で授業を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当部分や配布資料に目を通した上で出席し(予習30分)、また、講義を受けての気づきや疑問、重要と思うポイントをコメント・ペーパーにまとめ、毎回、manaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によって提出すること(復習1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	20 %	各学期末にmanabaにより提出(10%×2回)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	manabaによるコメント・ペーパーの提出(毎回)
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の授業内容に関してコメント・ペーパーにより意見・質問等を求め、次回の授業の冒頭においてフィードバックする。従って、毎回の授業に参加することが重要である。また、レポートについては、授業内容を十分に踏まえているか、必要な資料を収集しているか、独自の視点で分析しているか、など点を重視して採点する。更に、学年末試験においては、基礎的・基本的な概念や枠組みが十分に理解できているかについて確認する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によってフィードバックする。

教科書

消費者行動の知識, 青木幸弘, 日本経済新聞出版社, 2010, 978453211226

教科書コメント

テキスト・参考文献に加えて、授業中に適宜プリントや関連資料を配布する。

参考文献

消費者行動論, 青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司, 有斐閣, 2012, 9784641124639

参考文献コメント

他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

①本講義に先立って専門基礎科目の「マーケティング」を履修しておくことが望ましい。②ICカード・リーダーを用いた毎回の出席確認、manabaによる毎回のコメント・ペーパーの提出、responを用いた授業中アンケートを行う(詳しくは、第1回の授業で説明する)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220118101	科目ナンバリング	022A271
講義名	プロダクト・マネジメント		
英文科目名	Product Management		
担当者名	杉田 善弘		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 2時限 中央－301		

授業概要

市場は成熟期を迎え、企業間の競争は激しくなるばかりです。市場にどのような製品をいつ・どのような形で投入するかという製品に関する意思決定はマーケティング・ミックスの中でも高コスト・高リスクなだけに高い精度が求められます。この授業では、精度の高い製品(特に新製品)に関する意思決定を行う前提となる知識を習得すること目的とします。

到達目標

新製品開発・戦略の基礎となる知識を習得することを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介
第2回	なぜ新製品開発か
第3回	先発の優位
第4回	先発優位の理論(経験曲線)
第5回	先発優位の理論(切り替えコストなど)
第6回	先発優位とブランド
第7回	新製品の成功率
第8回	新製品開発と消費者行動
第9回	消費者情報処理理論
第10回	消費者の目標、ニーズと製品の特徴
第11回	代替ブランドの評価
第12回	アイデアルベクトルモデル
第13回	アイデアルポイントモデル
第14回	まとめ
第15回	1学期試験
第16回	2学期紹介
第17回	消費者間の相互作用(ロコミ)
第18回	後発の優位
第19回	リーダーの戦略・後発の戦略
第20回	新製品開発プロセス(市場機会の発見と選択)
第21回	市場選択と成功率
第22回	コンセプト創造
第23回	新製品アイデアの特徴と成功率
第24回	コンセプト評価
第25回	開発とテスト
第26回	テスト実施のための意思決定ツリー
第27回	新製品のトライアル購買の予測(ロコミなし)
第28回	新製品のトライアル購買の予測(ロコミあり)
第29回	新製品開発プロセスの現状と課題
第30回	2学期試験

授業方法

講義形式です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の初めに前回の講義のまとめをします。まとめを聞いて、講義内容がつかめているか、確認できるように事前に講義の復習をしてください。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業各回の講義内容を掴むだけではなく、互いの関連性を把握するようにしてください。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1学期試験の内容について2学期にコメントします。

教科書コメント

特にありません。資料を用意します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220202101	科目ナンバリング	022B160
講義名	○簿記入門ⅠA		
英文科目名	Introduction to BookkeepingⅠ		
担当者名	石原 雄大		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 南3－201.第1学期 火曜日 4時限 南3－201		

授業概要

＜年間目標＞
 企業経営者は、株主・債権者を中心とする利害関係者に対して会計責任を負っている。会計責任を果たすために作成させるものが「財務諸表」であり、作成される過程で必要になるルール・技術が簿記である。
 本講義では、「財務諸表」を作成する過程で必要になる簿記のルール・仕組みを解説し、日商簿記検定試験3級および2級に対応できるよう講義を進めていく。
 さらに、簿記の学習を通じて会計が実際の企業経営やコンサルティングの世界でどのような役割を果たしているか実務的な理解を深める。

到達目標

個人事業・株式会社で広く用いられる簿記会計構造を理解し、財務諸表を作成するための基礎的な計算ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	＜3級テキスト商業簿記編＞ 簿記の基礎知識 / 日常の手続き / 商品売買①(三分法)
第2回	商品売買②(商品有高帳他)/ 現金 / 当座預金
第3回	小口現金 / 手形 / その他の取引Ⅰ(未払金ほか)
第4回	その他の期中取引Ⅱ・Ⅲ/ 試算表の作成Ⅰ・Ⅱ
第5回	決算の手続きⅠ・Ⅱ
第6回	決算の手続きⅢ・Ⅳ・Ⅴ
第7回	決算の手続きⅥ(帳簿の締切)/ 伝票式会計
第8回	＜2級商業簿記編＞ 簿記一巡 / 損益計算書と貸借対照表 / 商品売買
第9回	現金及び預金 / 債権債務 / 有価証券
第10回	有形固定資産Ⅰ・Ⅱ / リース会計
第11回	株式の発行 / 剰余金の配当と処分 / 決算手続 / 収益・費用の認識基準
第12回	課税所得の計算と税効果会計 / 本支店会計 / 合併会計と事業譲渡
第13回	連結会計Ⅰ/ 連結会計Ⅱ
第14回	連結会計Ⅲ / 製造業会計
第15回	『1学期の総括』『理解度の確認』

授業方法

- ・企業内で行われている簿記会計の実態など、エピソードを加えながら講義を進める。
- ・各自電卓を打ちながら理解を進めていくこと。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回の授業までに練習問題集「トレーニング」で3～4問程度復習することを推奨する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:30%(平常点には、出席率・授業態度・検定試験の得点等を含める。)
 第1学期(学期末試験):70%(3級商業簿記の計算問題を中心に出题する。)
 成績評価は、上記配分をもとに総合的に判断する。※日商簿記3級を6月に受験する者の可否は加味する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

日商簿記3級検定試験を受験する履修者には、主催者側から、総合得点ならびに各設問の得点が通知される。

教科書

過去問題集 日商簿記3級:2020年6月試験向け,TAC簿記検定講座,TAC出版,9784813279457

合格トレーニング 日商簿記2級 商業簿記:よくわかる簿記シリーズ,TAC簿記検定講座,TAC出版,Ver.14.0,9784813285656

合格テキスト 日商簿記2級 商業簿記:よくわかる簿記シリーズ,TAC簿記検定講座,TAC出版,Ver.14.0,9784813285571

合格トレーニング 日商簿記3級:よくわかる簿記シリーズ,TAC簿記検定講座,TAC出版, Ver.11.0,9784813285649

合格テキスト 日商簿記3級:よくわかる簿記シリーズ,TAC簿記検定講座,TAC出版, Ver.11.0,9784813285564

履修上の注意

履修者数制限あり。(400名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

・履修希望者は、4月に実施される「簿記クラスガイダンス」に必ず出席してください。簿記入門ⅠAと簿記入門ⅠBは基本的に同じ内容ですが、教室の収容定員の関係から、G-Port上での抽選によって履修者を事前に決定します。止むを得ず抽選に参加できなかった場合には、履修者数に余裕があるクラスのみを対象とした追加募集に申し込んで下さい。抽選方法及び追加募集の詳細については、「簿記クラスガイダンス」で説明します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220202102	科目ナンバリング	022B160
講義名	○簿記入門ⅠB		
副題	本気で簿記3級を取ろう！		
英文科目名	Introduction to BookkeepingⅠ		
担当者名	根岸 利行		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 西2－402.第1学期 火曜日 4時限 西2－402		

授業概要

「簿記」は企業の活動を数値化して記録するスキルです。世界各国で用いられている万国共通の言語ともいえるでしょう。日本商工会議所主催の民間資格「日商簿記検定」は、その簿記についての知識を示す資格です。この日商簿記検定の資格取得を通じ、より高い目標に向かっていきましょう。簿記入門ⅠBでは、6月に日商簿記検定3級の合格を目指し、さらに日商簿記検定2級の内容に踏み込みます。

到達目標

日商簿記検定3級の合格を通して、企業活動を理解し、自ら考え、将来を見通せることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	3級商業簿記①オリエンテーション、簿記の目的、簿記一巡
第2回	3級商業簿記②簿記一巡、商品売買
第3回	3級商業簿記③現金および預金、手形
第4回	3級商業簿記④債権債務の処理、試算表の作成
第5回	3級商業簿記⑤決算整理
第6回	3級商業簿記⑥決算整理
第7回	3級検定対策①、2級商業簿記①現金預金
第8回	3級検定対策②、2級商業簿記②債権債務、棚卸資産
第9回	3級検定対策③、2級商業簿記③有価証券
第10回	2級商業簿記④有価証券
第11回	2級商業簿記⑤固定資産、債務保証、引当金
第12回	2級商業簿記⑥収益と費用、税金
第13回	2級商業簿記⑦為替換算会計、純資産、決算
第14回	2級商業簿記⑧企業結合会計、連結会計
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

講義日程とは別に補講を行う予定です。

授業方法

講義及び演習となります。講義内でも各自電卓を打ち、演習を繰り返します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は基本的に必要ありませんが、その回の復習として、課題(1回当たり3時間分の演習問題)を解答して、次回の講義にて提出してもらいます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

6月の日商簿記検定試験の結果(点数等)も「平常点」に加味します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト、課題等は授業内で解説等を行います。

教科書

ALFA3級商業簿記テキスト、問題集、解答集

ALFA2級商業簿記テキスト、問題集、解答集

日商3級総まとめ商業簿記

日商2級総まとめ商業簿記

合格のための総仕上げ「過去問題集 日商簿記3級」

履修上の注意

履修制限あり(400名)

その他

①履修希望者は4月1日(水)に実施される「簿記入門クラスガイダンス」に必ず出席願います。簿記入門ⅠBと簿記入門ⅠAは基本的に同じ内容ですが、教室の収容定員の関係から、G-Port上での抽選によって履修者を事前に決定します。止むを得ず抽選に参加できなかった場合には、履修者数に余裕があるクラスのみを対象とした追加募集に申し込んで下さい。抽選方法及び追加募集の詳細については、「簿記クラスガイダンス」で説明します。

②講義日程とは別に補講及び学習面談を定期的実施する予定です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220203101	科目ナンバリング	022B161
講義名	○簿記入門ⅡA		
英文科目名	Introduction to Bookkeeping Ⅱ		
担当者名	石原 雄大		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 南3－201.第2学期 火曜日 4時限 南3－201		

授業概要

簿記入門Ⅰ-Aに続き、2学期は株式会社のうち主に製造業（メーカー）で用いられる工業簿記の講義を行う。なお11月に実施される日商簿記2級の試験範囲の解説が一通り終わるように配慮しながら講義を進める。11月中旬以降は、税務会計（主に所得税）の入門講義を実施する。
さらに、簿記の学習を通じて会計が実際の企業経営やコンサルティングの世界でどのような役割を果たしているか実務的な理解を深める。

到達目標

- ＜期間目標＞
1. 株式会社のうち、製造業（メーカー）で行われている工業簿記の構造が理解できるようになる。
 2. 製品原価の計算を主な目的とする原価計算及び管理会計の基本を理解できるようにする。
 3. 税務会計の基本的な計算原理が理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	工業簿記の基礎 / 材料費Ⅰ・Ⅱ
第2回	労務費 / 経費 / 個別原価計算Ⅰ・Ⅱ
第3回	部門別原価計算Ⅰ・Ⅱ
第4回	総合原価計算Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
第5回	総合原価計算Ⅳ・Ⅴ・財務諸表
第6回	標準原価計算Ⅰ・Ⅱ
第7回	直接原価計算Ⅰ・Ⅱ
第8回	本社工場会計と総復習
第9回	税法概論
第10回	各種所得の計算①
第11回	各種所得の計算②
第12回	課税標準の計算・損益通算等・所得控除①
第13回	所得控除②・税額計算
第14回	法人税・住民税・事業税
第15回	『2学期の総括』・『理解度確認』

授業方法

- ・企業内で行われている簿記会計の実態など、エピソードを加えながら講義を進める。
- ・講義形式で行われる。各自電卓を打ちながら理解を進めていくこと。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、次回の授業までに練習問題集「トレーニング」の指定された問題3～4問程度(各10～15分:合計30～60分)を実施することを推奨する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:30%(※平常点には、出席・授業態度・検定試験の得点等を含める。
第2学期(学年末試験):70%(2級商業簿記と工業簿記の問題を中心に出题する。)
上記評価配分をもとに総合的に判断する。
※日商簿記2級を11月に受験する者の可否は加味する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

日商簿記検定試験2・3級受験者には、総合得点ならびに各設問の得点が、主催者側から通知される。

教科書

過去問題集 日商簿記2級:2020年11月試験向け,TAC簿記検定講座,TAC出版

タックスプランニング,TAC株式会社内部教材,TAC株式会社内部教材

合格トレーニング 日商簿記2級 工業簿記:よくわかるシリーズ,TAC簿記検定講座,TAC出版,Ver.8.0,9784813261605

合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記:よくわかるシリーズ,TAC簿記検定講座,TAC出版,Ver.8.0,9784813261582

履修上の注意

履修者数制限あり。(400名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修希望者は、4月1日に実施される「簿記クラスガイダンス」に必ず出席してください。簿記入門ⅡAと簿記入門ⅡBは基本的に同じ内容ですが、教室の収容定員の関係から、G-Port上での抽選によって履修者を事前に決定します。止むを得ず抽選に参加できなかった場合には、履修者数に余裕があるクラスのみを対象とした追加募集に申し込んで下さい。抽選方法及び追加募集の詳細については、「簿記クラスガイダンス」で説明します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220203102	科目ナンバリング	022B161
講義名	○簿記入門ⅡB		
副題	本気で簿記2級を取る！		
英文科目名	Introduction to Bookkeeping Ⅱ		
担当者名	根岸 利行		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 西2－402.第2学期 火曜日 4時限 西2－402		

授業概要

ビジネスマン(社会人)として身に付けておかなければならない会計知識である日商簿記検定2級の合格を11月に目指し、同時にビジネスマン(社会人)としての礼儀・所作等に関しても身に付けてもらうことを目的とします。

到達目標

日商簿記検定2級の勉強・合格を通して、社会のしくみを把握し、自ら考えて、将来の方向性を判断することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	2級工業簿記①工業簿記の基礎、材料費会計
第2回	2級工業簿記②労務費会計、経費会計、製造間接費会計
第3回	2級工業簿記③個別原価計算、部門別計算、工場会計、工企業の財務諸表
第4回	2級工業簿記④総合原価計算
第5回	2級工業簿記⑤標準原価計算、直接原価計算
第6回	2級検定対策①
第7回	2級検定対策②
第8回	2級検定対策③
第9回	会計と社会
第10回	会計と税務
第11回	会計と金融
第12回	会計と法律
第13回	会計と経営
第14回	公会計
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

講義日程とは別に補講を行う予定です。

授業方法

講義及び演習となります。講義内でも各自電卓を打ち、演習を繰り返します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

基本的に予習は必要ありませんが、毎回の復習として、課題(1回当たり3時間分の演習問題)を解答して、次回の講義にて提出してもらいます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

11月の検定試験の結果(点数等)も「平常点」に加味します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト・課題等には、授業内にて解説等を行います。

教科書

ALFA2級工業簿記テキスト、問題集、解答集
日商2級総まとめ工業簿記

合格のための総仕上げ「過去問題集 日商簿記2級」

履修上の注意

履修制限あり(400名)

その他

- ①履修希望者は4月1日(水)に実施される「簿記入門クラスガイダンス」に必ず出席願います。簿記入門ⅡBと簿記入門ⅡAは基本的に同じ内容ですが、教室の収容定員の関係から、G-Port上での抽選によって履修者を事前に決定します。止むを得ず抽選に参加できなかった場合には、履修者数に余裕があるクラスのみを対象とした追加募集に申し込んで下さい。抽選方法及び追加募集の詳細については、「簿記クラスガイダンス」で説明します。
- ②講義日程とは別に補講及び学習面談を定期的実施する予定です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220204201	科目ナンバリング	022B242
講義名	生産システム I		
英文科目名	Manufacturing System I		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 西2－201		

授業概要

企業活動において生産の立場から経営全体を向上させる知恵としての生産システムの意義を理解します。市場のグローバル化や顧客ニーズの多様化により競争激化が避けられない中であって、より安く、より良い製品を生産するために、生産システムの果たす役割はますます重要性を増している。生産システムと聞くと馴染みが薄い印象を持つかもしれませんが、実は皆さんの生活と密接に関わっている。本講義では、身近な材料を通して企業活動における生産システムを考えるとともに、今ある現実に対して常に問題意識を持つ姿勢、課題を発見する目を養う。本講義で学習する様々な方法論を、課題解決のためのヒントとしてほしい。

到達目標

- ・身近な生産システムにおける企業活動を意識する
- ・現実に対して、常に問題意識を持つ姿勢、課題を発見する目を持つ
- ・課題解決のため、生産システム側面からの知識を持つ
(キーワードのインデックスを記憶する)

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生産計画と統制のシステム:生産システムを理解するフレームワーク
第3回	需要管理
第4回	在庫管理
第5回	生産と調達の計画(1)MRP
第6回	生産と調達の計画(2)演習問題とMRPII
第7回	現場管理(1)日程計画とスケジューリング
第8回	現場管理(2)現場の効率化とカイゼン活動
第9回	品質管理
第10回	トヨタ生産システム
第11回	システムの目標を最大化するという考え方(TOC:制約理論)
第12回	モノづくりからコトづくりへ
第13回	サービスシステムのふるまい
第14回	事例講義
第15回	まとめと復習

授業計画コメント

講義の内容や時間配分は、履修者の理解度に応じて変更することがある。

授業方法

講義形式を中心とし、必要に応じて、グループワークなどの演習を交えて行う。ゲスト講師を招くこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の最後に次のレジュメを配布するので、事前にその目を通し、キーワードについて調べておくこと(約30分)。また、毎回の授業内容について、配布資料などを参考にして授業ノートを作成し、復習すること(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	学期末試験に対する評価
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	学期中数回課すレポートに対する評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	加点課題、不規則に行う出席調査など、学期中、状況に応じて複数回機会を設けるイベントへの評価
その他(備考欄を参照)		その他、普段の授業の中での発言や参加度などを加味して、積極的に加点していく。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートにはコメントを付与の上返却する。課題の種類によっては、授業内に解説を行う。

参考文献

オペレーションズ・マネジメントの基礎:経営システム工学ライブラリー,圓川隆夫,朝倉書店,2009,9784254275315

サービス・マネジメントー統合的アプローチ<上>,白井 義男 (監修), バート・ヴァン ローイ他 (編集),ピアソンエデュケーション,2004,4894716771

Manufacturing Planning and Control for Supply Chain Management: The CPIM Reference,. Robert Jacobs, William L. Berry ほか,McGraw-Hill,2,2018,1260108384

Inventory management and production planning and scheduling,Silver,E.A. Pyke,D.F. and Peterson, R,Wiley,3,1998,0471119474

履修上の注意

第2学期の生産システムIIとあわせて履修することを推奨する。
2019年度までに生産システムの単位を取得済みの者は履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220204301	科目ナンバリング	022B243
講義名	生産システムⅡ		
英文科目名	Manufacturing System Ⅱ		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 1時限 西2－201		

授業概要

本講義では、社会システムをモノの流れの面から支えるサプライ・チェーン・マネジメント(SCM)の意義を理解する。我々の日々の便利さ、快適さは、血液が滞りなく体内を循環するように、モノが滞りなく流れているからこそ実現されている。このようにモノを生産して消費者に届けるための、企業内の部門から部門、企業から企業、企業から市場への需要と供給の連鎖をサプライチェーンという。昔から補給線が戦いの勝敗を握ってきたように、現代においても、サプライチェーンの設計と管理はビジネスの勝敗を左右する直接的な要因になっている。本講義においては、サプライチェーンの複雑性、コントロールの難しさと、企業間協働の重要性を実感として捉えつつ、様々な企業の先進事例を通して、SCMの可能性について考える。さらに、複雑なサプライチェーンの管理と効果的な運用に不可欠である、情報システムについても学ぶ。現場で起こる様々な事象は、情報システムを通して単なるデータから管理者が活用される有益な情報へと変換される。本講義では、情報システム開発の入り口である、要件定義のために必

到達目標

- ・企業同士のつながりと広がり(サプライチェーン)の存在を知る
- ・SCMの概念と社会的な重要性、企業横断的な取り組みの意義を理解する
- ・情報システムの概念と企業経営における意義を理解する
- ・要件定義の重要性を理解し、そのための業務分析を使うことができる

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:“システムとしての生産”
第2回	サプライチェーン・ゲーム(1):サプライチェーンの複雑さを知る
第3回	サプライチェーン・ゲーム(2):サプライチェーンの戦略を考える
第4回	ゲームの振り返りとサプライチェーン・マネジメント(SCM)の概念
第5回	SCMの基本構造
第6回	SCMを企業事例から学ぶ
第7回	企業システム、社会システムの全体最適(S&OP, SDGs)
第8回	複雑なシステムのふるまい
第9回	IoT時代のモノづくり・コトづくり
第10回	データを情報、知識に変換する情報システム
第11回	情報化のためのビジネスプロセスモデリング
第12回	情報化のためのデータモデリング
第13回	ビジネスプロセス分析演習
第14回	事例講義
第15回	まとめと復習

授業計画コメント

講義の内容や時間配分は、履修者の理解度に応じて変更することがある。

授業方法

講義形式を中心とし、必要に応じて、グループワークなどの演習を交えて行う。 ゲスト講師を招くこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の最後に次のレジュメを配布するので、事前にその目を通し、キーワードについて調べておくこと(約30分)。
また、毎回の授業内容について、配布資料などを参考にして授業ノートを作成し、復習すること(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	学期末試験に対する評価
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	学期中数回課すレポートに対する評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	加点課題、不規則に行う出席調査など、学期中、状況に応じて複数回機会を設けるイベントへの評価
その他(備考欄を参照)		その他、普段の授業の中での発言や参加度などを加味して、積極的に加点していく。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートにはコメントを付与の上返却する。課題の種類によっては、授業内に解説を行う。

参考文献

サプライチェーン・エクセレンス-SCORモデルによる改革活動ハンドブック,ピーターボルストフ、ロバートローゼンバウムほか
(著) 日本ビジネスクリエイト(翻訳),JIPMソリューション,2005,4889562761

経営情報学入門,木嶋恭一、岸真理子,放送大学教育振興会,2019,4595319517

Operations Management -Processes and Supply Chain-,Lee J. Krajewski, Manoj K. Malhotra, Larry P. Ritzman,McGraw-Hill,11,2015,0133872467

Operations and Supply Chain Management,F. Robert Jacobs, Richard Chase,McGraw-Hill,15,2017,1259666107

履修上の注意

第1学期の生産システムIとあわせて履修することを推奨する。
2019年度までに生産システムの単位を取得済みの者は履修不可。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220205101	科目ナンバリング	022B260
講義名	簿記論A		
副題	日商簿記2級レベル特化型講義		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Bookkeeping and Accounting)		
担当者名	石原 雄大		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 南3－201		

授業概要

本講義では、日商簿記検定2級レベルの商業簿記・工業簿記に特化した講義を行う。
簿記入門ⅠⅡで2級の講義を受けている学生の履修が望ましいが、簿記3級合格レベルにある者は2級初学者でも履修可能。
また、簿記の学習を通じて会計が企業経営やコンサルティングの世界でどのような役割を果たしているか理解を深める。

到達目標

6月・11月・2月に実施される日商簿記2級試験の合格レベルの【実践力(計算力)】を養成することを目標とし、財務会計・管理会計の理解の向上を図る。

授業内容

実施回	内容
第1回	＜商業簿記編＞ 簿記一巡の手続／損益計算書と貸借対照表
第2回	商品売買／現金及び預金
第3回	債権債務／有価証券
第4回	有形固定資産Ⅰ・Ⅱ
第5回	リース会計
第6回	無形固定資産と研究開発費
第7回	引当金／外貨換算会計
第8回	税金／株式の発行／剰余金の配当と処分
第9回	決算手続き／収益と費用の認識基準
第10回	課税所得の算定と税効果会計
第11回	本支店会計／合併と事業譲渡
第12回	連結会計Ⅰ(資本連結Ⅰ)
第13回	連結会計Ⅱ(資本連結Ⅱ)
第14回	連結会計Ⅲ(成果連結)・製造業会計
第15回	「理解度確認」
第16回	＜工業簿記編＞ 工業簿記の基礎／材料費／労務費／経費
第17回	個別原価計算Ⅰ・Ⅱ／部門別個別原価計算
第18回	総合原価計算Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
第19回	総合原価計算Ⅳ・Ⅴ
第20回	財務諸表／標準原価計算Ⅰ
第21回	標準原価計算Ⅱ／直接原価計算Ⅰ
第22回	直接原価計算Ⅱ
第23回	本社工場会計
第24回	工業簿記 過去問題の解法①(工業簿記)
第25回	工業簿記 過去問題の解法②(工業簿記)
第26回	商業簿記 過去問題の解法①(商業簿記)
第27回	商業簿記 過去問題の解法②(商業簿記)
第28回	商業簿記 過去問題の解法③(商業簿記)
第29回	年間の総まとめ
第30回	「理解度確認」

授業方法

電卓を持参し、講義中に電卓を叩きながら理解していくようにする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、復習として練習問題集「トレーニング」の指定された問題3～5問程度(各10～15分:合計30～60分)を実施することを推奨する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:30%(平常点には、出席・授業態度を含める。)

第1学期(学期末試験):35%(商業簿記の計算問題)

第2学期(学年末試験):35%(工業簿記の計算問題)

上記配分を目安に総合的に評価する。

※日商簿記簿記検定2級を6月・11月に受験する者の合否は加味する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

日商簿記検定試験2級受験者には、総合得点ならびに各設問の得点が主催者側から通知される。

教科書

過去問題集:よくわかる簿記シリーズ(2020年11月試験向け),TAC株式会社,TAC株式会社

合格トレーニング日商簿記2級工業簿記:よくわかるシリーズ,TAC株式会社,TAC株式会社,Ver.8.0,9784813261605

合格テキスト日商簿記2級工業簿記:よくわかるシリーズ,TAC株式会社,TAC株式会社,Ver.8.0,9784813261582

合格トレーニング日商簿記2級商業簿記:よくわかる簿記シリーズ,TAC株式会社,TAC株式会社,Ver.14.0,9784813285656

合格テキスト日商簿記2級商業簿記:よくわかる簿記シリーズ,TAC株式会社,TAC株式会社,Ver.14.0,9784813285571

履修上の注意

履修者数制限あり。(300名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修希望者は、4月に実施される「簿記クラスガイダンス」に必ず出席してください。簿記論Aと簿記論Bは基本的に同じ内容ですが、教室の収容定員の関係から、G-Port上での抽選によって履修者を事前に決定します。止むを得ず抽選に参加できなかった場合には、履修者数に余裕があるクラスのみを対象とした追加募集に申し込んで下さい。抽選方法及び追加募集の詳細については、「簿記クラスガイダンス」で説明します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220205102	科目ナンバリング	022B260
講義名	簿記論B		
副題	簿記2級を確実に取得する！		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Bookkeeping and Accounting)		
担当者名	早坂 仁志		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 西2－301		

授業概要

ビジネスマン(社会人)として身に付けておかなければならない会計知識を習得することを主目的とし、同時にビジネスマン(社会人)としての礼儀・所作等に関しても身に付けてもらうことを目的とします。講義形式＋徹底した実践演習を通して、この社会で通用する人間になってもらいます。

到達目標

日商検定簿記2級の取得、その後の税理士・公認会計士等への基本の習得

授業内容

実施回	内容
第1回	簿記一巡の手続、財務諸表、現金預金、債権・債務
第2回	棚卸資産、有価証券①売買目的有価証券
第3回	有価証券②満期保有目的債券・その他の有価証券等
第4回	固定資産①有形固定資産
第5回	固定資産②リース会計、無形固定資産、ソフトウェア、投資その他の資産
第6回	債務保証、引当金
第7回	収益と費用、為替換算会計
第8回	株式会社の純資産
第9回	企業結合、税金、税効果会計
第10回	決算、本支店会計
第11回	連結会計①支配獲得日の連結手続き
第12回	連結会計②支配獲得後の連結手続き
第13回	連結会計③連結会社相互間取引の相殺消去等
第14回	連結会計④未実現損益の消去、連結株主資本等変動計算書
第15回	理解度の確認(定期試験)
第16回	工業簿記の基礎・記帳体系(個別原価計算)、材料費会計
第17回	労務費会計、経費会計、製造間接費会計
第18回	部門別計算、工場会計、単純個別原価計算
第19回	工企業の財務諸表、工業簿記の記帳体系(総合原価計算)、総合原価計算①単純総合原価計算等・工程別総合原価計算
第20回	総合原価計算②組別・等級別総合原価計算、減損及び仕損、標準原価計算
第21回	原価・営業量・利益関係の分析、直接原価計算
第22回	直前答案練習1回
第23回	直前答案練習2回
第24回	会計と税務
第25回	会計と金融
第26回	会計と社会
第27回	会計と経営
第28回	会計と法律
第29回	公会計
第30回	理解度の確認(定期試験)

授業計画コメント

講義日程とは別に補講を行う予定です。

授業方法

講義ではプロジェクター投影により映像を使い説明を行う場面もあります。投影(又は板書)する内容はレジュメを配布しますので、ノートを取る手間がかからない分、講師の説明に集中できます。また、豊富な実践演習も行いますので、着実に会計知識が身に付き

ます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

3級、2級の内容を忘れている方は、予め授業前にテキストの該当箇所を確認し、不明な点をピックアップしておくこと(1～2時間)。また、その回の復習として、課題(1回当たり3時間分の問題演習)を解答して、次の講義にて提出してもらいます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

11月の検定試験の結果(点数等)も「平常点」に加味します。また、既に検定試験に合格している人については、11月の検定試験合格者と同等の評価をします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト・課題等については、授業内で解説等を行います。

教科書

ALFA2級商業簿記テキスト・問題集・解答集

ALFA2級工業簿記テキスト・問題集・解答集

日商2級総まとめ(商業簿記)

日商2級総まとめ(工業簿記)

合格のための総仕上げ「過去問題集 日商簿記2級」

教科書コメント

第1回講義日に販売致します。販売の詳細については経済学部掲示板にて事前にお知らせ致します。

履修上の注意

履修制限あり(300名)／第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

①簿記入門Ⅰ-A、Ⅱ-A若しくは簿記入門Ⅰ-B、Ⅱ-B履修済みの者又は日商簿記2級の勉強を一通り修了している者を前提とします。

②履修希望者は、4月1日に実施される「簿記クラスガイダンス」に必ず出席してください。簿記論Bと簿記論Aは基本的に同じ内容ですが、教室の収容定員の関係から、G-Port上での抽選によって履修者を事前に決定します。止むを得ず抽選に参加できなかった場合には、履修者数に余裕があるクラスのみを対象とした追加募集に申し込んで下さい。抽選方法及び追加募集の詳細については、「簿記クラスガイダンス」で説明します。

③講義日程とは別に補講及び学習面談を定期的実施する予定です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220207101	科目ナンバリング	022B261
講義名	財務会計Ⅰ		
英文科目名	Financial AccountingⅠ		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西2－302		

授業概要

企業の財務報告について、標準的なテキストを用いて講義を行う。

到達目標

企業の財務報告について理解し、自らの意見を持ち、自分の言葉で説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	財務会計の機能と制度
第3回	利益計算の仕組み
第4回	会計理論と会計基準
第5回	利益測定と資産評価の基礎概念
第6回	現金預金と有価証券
第7回	売上高と売上債権
第8回	棚卸資産と売上原価
第9回	有形固定資産と減価償却
第10回	無形固定資産と繰延資産
第11回	負債
第12回	株主資本と純資産
第13回	財務諸表の作成と公開
第14回	連結財務諸表
第15回	理解度の確認

授業方法

講義形式。適宜、小テストを実施。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んで予習をするのが望ましい。(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストを実施した次回講義の冒頭で、受講者の解答内容についてコメントする。

教科書

財務会計講義,桜井久勝,中央経済社,第20,2019,9784502302817

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220208101	科目ナンバリング	022B262
講義名	財務会計Ⅱ		
英文科目名	Financial Accounting Ⅱ		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西2－302		

授業概要

財務諸表分析について標準的なテキストを用いて講義を行う。受講者は実際の上場企業を1社ずつ担当し、講義内容に基づいて分析を実践していく。

到達目標

財務諸表分析の理論や手法を理解し、基本的な分析が実践できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	財務諸表の役割と仕組み
第3回	財務諸表の入手方法
第4回	貸借対照表と損益計算書の見方
第5回	キャッシュ・フロー計算書の見方
第6回	会計方針の注記
第7回	財務分析の視点と方法
第8回	収益性の分析
第9回	生産性の分析
第10回	安全性の分析
第11回	不確実性によるリスク分析
第12回	成長性の分析
第13回	投資意思決定有用性
第14回	株式価値評価モデル
第15回	理解度の確認

授業方法

講義形式。適宜、小テストを実施。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。(2時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト:40% レポート:60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストを実施した次回講義の冒頭で、受講者の解答内容についてコメントする。

教科書

財務諸表分析,桜井久勝,中央経済社,第7,2017,9784502223518

参考文献

京都企業-歴史と空間の産物-,徳賀芳弘,中央経済社,2016,9784502185519

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220209201	科目ナンバリング	022B265
講義名	原価会計Ⅰ		
英文科目名	Cost AccountingⅠ		
担当者名	平井 裕久		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 西2－402		

授業概要

原価計算は、目的に対する手段の体系であると考えられる。本講義では、財務諸表を作成するために必要な原価資料と、利益管理に必要な原価資料を提供することを目的とした原価計算について、基本的計算技法と理論についての解説をおこなう。

到達目標

原価概念および原価計算の理論体系を理解し、それらについて説明できるようになる。原価計算中級程度の問題を解くことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	原価計算の意義と目的
第2回	種々の原価概念
第3回	費目別原価計算、材料費とは
第4回	費目別原価計算、材料費の計算と処理
第5回	費目別原価計算、労務費、経費の計算
第6回	費目別原価計算、製造間接費の計算
第7回	部門別原価計算(1)部門別計算の目的と意義、原価部門
第8回	部門別原価計算(2)部門別計算の方法
第9回	個別原価計算(1)個別原価計算の意義、手続、製造間接費の配賦計算
第10回	個別原価計算(2)作業屑、仕損費の処理
第11回	総合原価計算(1)総合原価計算の意義、単純総合原価計算
第12回	総合原価計算(2)組別総合原価計算、等級別原価計算
第13回	総合原価計算(3)工程別総合原価計算、連産品
第14回	総合原価計算・演習
第15回	理解度の確認、まとめ、総括

授業方法

原価会計に関する体系、概念、計算構造および手続きについて講義を行うとともに、必要に応じ計算演習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事業前に予め教科書の該当箇所を読み、疑問点をまとめておくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	20 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では、随時実施する問題演習への取り組み状況も評価の対象とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

随時実施する問題演習での学生からのコメントについては、授業への反映を行う。

教科書

テキスト原価計算入門,浅田 孝幸,中央経済社,2011,978-4502435409

参考文献

原価計算セミナー,片岡洋一,中央経済社,2015,978-4502142918
 原価計算の基礎:理論と計算(第2版),上埜・長坂・杉山,税務経理協会,第2,2008,978-4419051051

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220209301	科目ナンバリング	022B266
講義名	原価会計Ⅱ		
英文科目名	Cost AccountingⅡ		
担当者名	平井 裕久		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 西5－201		

授業概要

原価計算は、目的に対する手段の体系であると考えられる。本講義では、財務諸表を作成するために必要な原価資料と、利益管理に必要な原価資料を提供することを目的とした原価計算について、応用的計算技法と原価管理についての解説をおこなう。

到達目標

原価計算および原価管理の理論体系を理解し、それらについて説明できるようになる。原価計算中級程度の問題を解くことができ、原価管理を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	原価計算の意義と目的
第2回	標準原価計算(1)標準原価計算の目的と意義、標準原価、原価標準
第3回	標準原価計算(2)原価差異の計算と分析
第4回	直接原価計算(直接原価計算の目的と意義)
第5回	原価予測とCVP分析(1)固定費・変動費の分解、CVP関係の分析
第6回	経営意思決定のための原価概念
第7回	意思決定会計(1)経営意思決定における原価概念、差額原価・収益分析
第8回	意思決定会計(2)投資決定、投資案評価の技法
第9回	意思決定会計(2)投資決定、投資案評価の技法
第10回	トヨタ生産とスループット会計
第11回	原価改善のための原価情報(原価維持、原価改善)
第12回	製品・サービス企画のための原価情報(原価企画)
第13回	品質原価計算およびライフサイクル・コストニング
第14回	原価情報の活用
第15回	理解度の確認、まとめ、総括

授業方法

原価会計に関する体系、概念、計算構造および手続きについて講義を行うとともに、必要に応じ計算演習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事業前に予め教科書の該当箇所を読み、疑問点をまとめておくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト	20 %	
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では、随時実施する問題演習への取り組み状況も評価の対象とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

随時実施する問題演習での学生からのコメントについては、授業への反映を行う。

教科書

テキスト原価計算入門,浅田 孝幸,中央経済社,2011,978-4502435409

参考文献

原価計算セミナー,片岡洋一,中央経済社,2015,978-4502142918
原価計算の基礎:理論と計算(第2版),上埜・長坂・杉山,税務経理協会,第2,2008,978-4419051051

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220210201	科目ナンバリング	022B267
講義名	管理会計Ⅰ		
英文科目名	Managerial AccountingⅠ		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 中央－403		

授業概要

企業経営と密接な関係のある管理会計について基礎的な概念を理解し、実際に道具として使えるようになることを目標とする。特に前提とする授業はないが、初歩的な会計の知識はあることが望ましい。

到達目標

管理会計の手法について理解し、企業経営の現場で応用できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	コース・ガイダンス 管理会計と企業組織
第2回	コストビヘイビアとCV関係の基礎(1)
第3回	コストビヘイビアとCV関係の基礎(2)
第4回	コストビヘイビアの測定(1)
第5回	コストビヘイビアの測定(2)
第6回	コスト管理システムとABC(1)
第7回	コスト管理システムとABC(2)
第8回	関連情報と意思決定:販売の意思決定(1)
第9回	関連情報と意思決定:販売の意思決定(2)
第10回	関連情報と意思決定:生産の意思決定(1)
第11回	関連情報と意思決定:生産の意思決定(2)
第12回	総合予算
第13回	変動予算と差異分析
第14回	理解度の確認、まとめ、総括
第15回	振り返り、到達度確認

授業方法

講義形式で授業を進める。また、授業中に教科書の問題を解いてもらう予定である。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にパワーポイントの該当箇所を読んでおくこと。(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	95 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	5 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験結果については授業時にコメントを行います。
管理会計の基礎的な概念を理解し、基礎的な数的理解ができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験の結果については授業中に説明を行う。

教科書コメント

教科書は特に指定しない。

参考文献

管理会計レクチャー(基礎編),門田安弘編著,税務経理協会,2008
マネジメント・アカウンティング,TAC出版,第2版,2004

その他

初めて授業に出席する学生はアンケートの提出を忘れないこと。授業に関する連絡事項はG-portおよび掲示板を使用することがあるので注意のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220210301	科目ナンバリング	022B268
講義名	管理会計Ⅱ		
英文科目名	Managerial AccountingⅡ		
担当者名	王 志		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2－401		

授業概要

管理会計とは、企業内部の経営管理者に彼らが意思決定や業績管理などを行うのに役立つ情報を提供する会計である。管理会計論Ⅱは、「管理会計Ⅰ」の履修を前提とし、製品原価計算、責任会計そして企業予算をその中心内容とする。

到達目標

管理会計の手法について理解し、企業経営の現場で応用できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	コース・ガイダンス
第2回	製品原価計算－変動費・固定費
第3回	製品原価計算－原価配賦
第4回	製品原価計算－全部原価計算
第5回	製品原価計算－直接原価計算
第6回	製品原価計算－個別原価計算・総合原価計算
第7回	責任会計－組織の分権化
第8回	責任会計－事業部制
第9回	責任会計－振替価格
第10回	責任会計－アメーバ経営システム(1)
第11回	責任会計－アメーバ経営システム(2)
第12回	企業予算－変動予算
第13回	企業予算－資本予算(NPV法&IRR法&回収期間法)
第14回	理解度の確認、まとめ、総括
第15回	振り返り、到達度確認

授業方法

講義形式で授業を進める。また、授業中に課題(練習問題)をグループで解いてもらうことがある。

準備学習(予習・復習)

毎回の講義前・後に自主的に予習・復習することを望む(所要時間:1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	なお、履修人数によって、評価基準を変更すること
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワーク中心の授業のため、都度授業内で各グループに対してコメントを行う。

参考文献

Introduction to Management Accounting, Horngren, C. T., G. L. Sundem, J. O. Schatzberg, D. Burgstahler, Pearson, 16th edition, 2013, 0133058786

管理会計, 岡本清, 尾畑裕, 広本敏郎, 挽文子, 中央経済社, 2008

『マネジメント・アカウンティング』, 渡邊俊輔 編, TAC出版, 第2, 2004

カリキュラムマップ

以下URLを参照 <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220211101	科目ナンバリング	022B241
講義名	システム科学Ⅰ		
副題	システム思考入門		
英文科目名	Systems ScienceⅠ		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西1－305		

授業概要

経営課題や社会現象をシステムとして捉え、分析を行うための様々な考え方や手法を学ぶ。このようなシステム的なものの見方ーいわゆるシステム思考ーは、AI(人工知能)が台頭する近年において、AIや機械に代替されない人間の大局的な意思決定、あるいは問題発見や構造化のツールとしても注目されている。特に、代表的なシステム思考の方法論である因果ループ図およびソフトシステム方法論を中心に引き上げ、グループ演習も通じて、そのエッセンスを体得する。なお、システム科学II(第2学期)が定量的な分析に重点を置くのに対して、本科目は定性的な分析手法を中心に引き上げる。

到達目標

システム思考の考え方や分析手法を習得して、様々な社会課題をシステムとして捉え、改善・解決に役立てる視座を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:システムとは
第2回	論理思考とシステム思考
第3回	因果ループ図ー因果関係の全体像をとらえる
第4回	因果ループ図(グループ演習)
第5回	因果ループ図(発表)
第6回	因果ループ図の分析事例
第7回	定量的な因果ループの分析ーシステム・ダイナミクス
第8回	ソフトシステムアプローチ
第9回	ソフトシステム方法論1:現状把握と課題発見(第9～12回はグループ演習含む)
第10回	ソフトシステム方法論2:問題の定義
第11回	ソフトシステム方法論3:理想的な行為の設計
第12回	ソフトシステム方法論4:実行可能な改革案の導出
第13回	ソフトシステム方法論(発表)
第14回	システムズ・インテリジェンス
第15回	まとめ

授業計画コメント

講義の内容や時間配分は、履修者の理解度や演習の進捗に応じて変更することがある。

授業方法

講義とグループ演習の両方を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回復習を30分程度行うこと。演習成果の発表に向けてはよく準備すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	期末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席点およびグループ演習への貢献度
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループ演習については、講義中に解説や講評を行う。

教科書コメント

教科書は使用しない。講義資料を配布する。

参考文献

実践システム・シンキングー論理思考を超える問題解決のスキル,湊宣明,講談社,2016,978-4061573055

ホリスティック・クリエイティブ・マネジメント,木嶋恭一他,丸善,2007,978-4621078433

履修上の注意

必ず第1回の授業に出席すること。

グループ演習を円滑に行うため、履修者数を制限する場合がある。その場合、経営学科の学生を優先する。

グループ演習の回は特に受講者の積極的な参加が重要なので、(やむを得ない場合を除き)毎回出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220212101	科目ナンバリング	022B341
講義名	システム科学Ⅱ		
英文科目名	Systems Science Ⅱ		
担当者名	高橋 裕		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 西2－303		

授業概要

システム思考・システムズアプローチの考え方に基づく、コンピュータ・シミュレーションの技法である「システム・ダイナミクス」を、実習を通して学ぶ。

到達目標

システム・ダイナミクスのシミュレーションモデルの作成手順及びシミュレーション結果の評価の方法がわかるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	システム思考とは何か
第2回	シミュレーションの体験
第3回	モデリングソフトウェアの操作導入
第4回	モデリングの方法論
第5回	モデル作成の実践
第6回	モデルの検証
第7回	シミュレーション結果の評価と利用
第8回	シナリオ分析
第9回	遅れの概念とモデル化
第10回	遅れを伴ったモデルの作成
第11回	非線形な関係のモデル化
第12回	非線形な関係を伴ったモデルの作成
第13回	感度分析
第14回	授業のまとめ
第15回	ふりかえり

授業計画コメント

受講者の理解度に合わせて、順番と項目を入れ替える可能性がある。

授業方法

コンピュータを使った実習を中心に進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習として、教科書の該当部分を読んでおく(15分程度)。復習としてモデルの構造と数式の意味について確認する(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出物は返却しない。各種提出物に関するコメントは講義時に行う。

教科書

システム・ダイナミクス, 田中伸英, サンウェイ出版, 2017, 9784883890484

教科書コメント

ソフトウェアの操作方法を含むので、必ず携帯すること。

参考文献

システム思考がモノ・コトづくりを変える, 稗方 和夫・高橋 裕, 日経BP, 2019, 9784822289768

参考文献コメント

システム思考の基礎がわかるので、ぜひ読んでおいてほしい。

履修上の注意

実習が中心になるので、欠席した場合は必ず他の履修者に内容を確認して次の出席時までにはフォローアップすること。就職活動やクラブ活動をはじめとする諸理由による救済は行わない。

その他

履修希望者が一定の数を超えた場合には、人数を制限することがあるので、履修希望者は、必ず掲示の手続きに従って履修希望を提出すること。掲示の期間は4月上旬である。履修希望を提出しても履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220213101	科目ナンバリング	022D340
講義名	経営統計Ⅰ		
英文科目名	Business StatisticsⅠ		
担当者名	横田 真秀		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 中央－505		

授業概要

統計学は実際に観測されたデータからその傾向を分析する学問です。経営の分野においてもデータの分析及びそれに基づく行動決定が求められる局面は多く、統計学の素養を持った人材の重要性は高まる一方です。一方で統計学はとかく誤謬の起きやすい分野でもあり、「いい加減な統計」が蔓延している現状もあります。その現状に鑑み、本講義ではまず統計を扱う際の注意点を学び、その後に回帰分析、検定など、数理統計において基本的とされる手法を学びます。

到達目標

- 以下の3点を達成することを目標とします。
- ・統計を取る際に注意すべき点(各種バイアスの存在など)を理解すること。
 - ・仮説を立て、それを検証する手順を設定し、適切にデータ収集が行えること。
 - ・収集したデータに対し統計的手法を用いて分析、検定が行えること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	データ収集の手順・注意点(1)
第3回	データ収集の手順・注意点(2)
第4回	演習:調査票作成
第5回	主な統計量の取り扱い
第6回	相関関係(1)
第7回	相関関係(2)
第8回	単回帰分析・最小二乗法(1)
第9回	単回帰分析・最小二乗法(2)
第10回	重回帰分析(1)
第11回	重回帰分析(2)
第12回	検定の考え方・各種検定の概要
第13回	演習:データ分析
第14回	最終プレゼンテーション前の準備
第15回	最終プレゼンテーション

授業方法

講義形式。ただし演習として、各人の関心のあるテーマについて、実際に仮説を立て調査を行い解析するという一連の結果を最終回で発表してもらう予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

不明点が解消される程度の復習は各人で行うこと。また、最終プレゼンテーションに関しては、試験に相当するものであるから調査の実施から発表準備に至るまで、十分に準備を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	60 %	最終プレゼンテーション

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中に出題される演習等については原則その回のうちに解説・講評を行います。

参考文献

社会調査法入門, 盛山和夫 , 有斐閣 , 2004, 978-4641183056

計量経済学の第一歩ー実証分析のススメ,田中隆一 ,有斐閣 ,2015,978-4641150287

参考文献コメント

統計を扱う際の注意点については[1]が、数理統計的な考え方、実際にデータを統計処理する手法については[2]が詳しいです。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220214101	科目ナンバリング	022D341
講義名	経営統計Ⅱ		
英文科目名	Business Statistics Ⅱ		
担当者名	矢島 猶雅		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央－504		

授業概要

近年、経済学・経営学などを中心に様々な社会科学研究領域でデータを用いた実証分析の重要性が増しています。また、ビジネス分野においても、データを利用して顧客の動向を探ることに関心が集まっています。本講義は、データ分析の方法・理論の学習と実習を通して、実社会のデータの見方及びそこから因果関係を分析するために必要な知識・実践的な力を身につけることを目的とします。

到達目標

本講義は、以下のことを目的とします。第一に、データを用いて因果関係を明らかにするための考え方を理解します。第二に、因果関係を明らかにする上での様々な問題、それを解決するための方法を理解します。第三に、統計分析ソフトウェアの簡単な使い方を学びます。

授業内容

実施回	内容
第1回	回帰分析の基礎と因果推論:因果推論とは何か、回帰分析の考え方の復習
第2回	重回帰分析:複数の変数を用いた回帰分析の復習
第3回	回帰分析の実際:回帰分析で生じる様々な問題と応用的手法の必要性
第4回	データによる実習(1):Stataの基本的な使い方
第5回	パネルデータ分析(1):パネルデータの利点、理論
第6回	パネルデータ分析(2):パネルデータを用いた分析
第7回	パネルデータ分析と政策効果:差の差分析
第8回	データによる実習(2):最小二乗法、パネルデータなど
第9回	中間テスト
第10回	操作変数法(1):操作変数法の考え方
第11回	操作変数法(2):操作変数法による分析
第12回	データによる実習(3):操作変数法など
第13回	発展的トピック(1):マッチング法
第14回	発展的トピック(2):回帰不連続デザイン(RDD)と自然実験
第15回	総括

授業方法

講義と統計分析ソフトウェアの実習による複合形式の講義を行います。データ分析に必要な考え方や前提となる理論を、実例や実際の研究などを通して学びます。また、統計分析ソフトStataを用いて実践的な応用力を身につけます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

統計学の基礎的な知識は、講義中では扱いません。また、因果推論・回帰分析の基本的な考え方を一度学んでおくことより内容の理解が深まります。森田果(2014)『実証分析入門:データから「因果関係」を読み解く方法』などを一読しておくことをお勧めします。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	30 %	
レポート	30 %	授業中盤で告知
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

本講義では、“考え方を身に着けること”を目的とします。テスト・レポートはそれを前提とし、数学的問題よりも考え方を主に問う内容とする予定です。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テスト・レポートは返却の上コメントをします。Stataによる実習の際には、学生の進捗状況に合わせてサポートをします。

また、コメントペーパーを配布し、適宜授業内容に反映します。

教科書

計量経済学の第一歩—実証分析のススメ,田中隆一,有斐閣,2015,978-4-641-15028-7

Stataによるデータ分析入門 : 経済分析からパネルデータ分析まで,松浦寿幸,東京図書株式会社,2,2015,978-4-489-02218-0

参考文献

実証分析入門: データから「因果関係」を読み解く作法,森田果,日本評論社,2014,978-4535557932

参考文献コメント

その他、参考文献を講義中で適宜紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。また、必須ではありませんが「経営統計Ⅰ」の履修を前提とします。関連する科目として、「情報数理解析入門1・A」、「情報数理解析入門1・C」、「情報数理解析入門1・D」、「情報数理解析入門2・C」などの履修もお勧めします。なお、履修者は30人(Stataのライセンス上限)を超えないこととします。

その他

授業内容についての質問があれば、教員メールアドレスに遠慮なく連絡してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2202151Z1	科目ナンバリング	022D360
講義名	◇経営財務Ⅱ		
副題	コーポレート・ファイナンス		
英文科目名	Managerial Finance Ⅱ		
担当者名	徳島 勝幸		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2－306		

授業概要

コーポレート・ファイナンス(資本構成、投資戦略、株主還元)に関する基本的な知識を身につけ、企業価値とは何か、企業価値を向上させるために何をなすべきかを学ぶ。また、そのために必須な数学的理解力を深めることを目的とする。平易なテキストを基に基礎的な内容から理解を深めていくように進めるが、現代的な問題も含め広い範囲のトピックスについて触れていきたい。レポート作成に際しては、単なるウェブ上にある情報の切り貼りではなく、個々人が自ら考えて結論を出す訓練になるような課題を予定する(なお、経営財務Ⅱとなっているが、特に履修の前提とする科目はなく、基礎から講義を行う予定である)。

到達目標

NPV法に基づく企業の意思決定理論の基礎を理解し、資本調達・投資の両面から企業財務の考え方を理解することができるようになる。企業等に就職した場合の、考え方の基本を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ファイナンスと財務担当者
第2回	現在価値、企業の目的とコーポレート・ガバナンス
第3回	現在価値の計算
第4回	債券と株式の価値
第5回	純現在価値が最善の投資決定基準となる理由
第6回	純現在価値ルールによる投資判断
第7回	リスク、リターン、資本コスト入門
第8回	リスクとリターン
第9回	資本支出予算とリスク
第10回	プロジェクトはブラックボックスにあらず
第11回	戦略と資本投資決定
第12回	エージェンシー問題、経営報酬、業績評価
第13回	企業の資金調達と市場の効率性に関する教訓
第14回	企業の資金調達の概要
第15回	理解度の確認
第16回	企業はどのように証券を発行するか
第17回	利益還元政策
第18回	負債政策は重要か
第19回	企業はどれだけ借り入れるべきか
第20回	資金調達と評価
第21回	オプションを理解する
第22回	オプションの価値評価
第23回	国債の評価
第24回	信用リスク
第25回	多様な負債
第26回	リース等
第27回	リスク管理
第28回	国際的なリスク管理
第29回	財務分析と計画
第30回	総括・理解度の確認

授業計画コメント

授業内容は予定であり、学生の希望や実際の環境変化に応じ、実際に講義を行う中で順序及び内容の変更を行う場合がある。

授業方法

講義形式で授業を進める。また、授業中に適宜、小テストを実施し、問題を解いてもらうことで出欠確認に替える。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、講義終了後に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約30～60分)。
また、疑問や興味のあるトピックについては、参考文献を参照するとともに、関連する時事問題についても理解しておくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	第1学期末
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	講義中に実施する小テストを含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学年末試験は講義内容の習熟度を確認するものであり、実社会での対応を模擬的に行うものであるから、基本的に持ち込みを可能とする予定。第1学期末のレポートについては、逆に、独自の思考を問うものである。講義中に随時実施する小テストは出席の確認を兼ねるもので、理解を支援する内容を予定。なお、講義に出席せず、レポート提出・試験だけで、合格点を与えることはない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中に実施する小テストは、適宜答案を返却し、フィードバックを行う。
第1学期終了後に作成したレポートについては、コメントを付記して返却する。
学年末試験の結果については、G-Portもしくはメール経由で通知する。

教科書

コーポレートファイナンス入門<第2版>,砂川伸幸,日本経済新聞出版社,第2,2017,9784532113681
ざっくり分かるファイナンス,石野雄一,光文社,2007,9784334033972

教科書コメント

講義に関しては、講師作成の資料を主として利用するため、教科書を講義に持参する必要はない。

参考文献

コーポレートファイナンス上,ブリーリー・マイヤーズ他,日経BP社,第10,2014,9784822248604
コーポレートファイナンス下,ブリーリー・マイヤーズ他,日経BP社,第10,2014,9784822248611

参考文献コメント

その他の参考文献については、適宜授業中に指示する。

履修上の注意

第1回目の講義に必ず出席すること。出席できなかった場合は、早めに連絡すること。
授業に関する連絡事項は、G-Portを経由して行うので注意のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220217101	科目ナンバリング	022B381
講義名	企業者論		
英文科目名	Functions of the Evolution		
担当者名	佐々木 聡		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 中央－404		

授業概要

企業者史学的アプローチから、企業者の構想や行動の足跡を紹介し、「革新」(innovation)とその意義について考察することにした。日本の企業者活動の足跡が中心となるが、比較・対照のために海外の企業者の活動についてもふれる予定である。

到達目標

日本経営史上の代表的な革新とその担い手について説明できるようになること。さらに、それをふまえて近未来の日本のあるべき企業家像を展望できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	企業者と企業者史学
第2回	企業者の主体的条件と客体的条件
第3回	幕末・維新期の企業者活動(1)安田善次郎・浅野総一郎・大倉喜八郎
第4回	幕末・維新期の企業者活動(2)岩崎弥太郎・弥之助(三菱)と渋沢栄一
第5回	明治期の企業者活動(1)初代長瀬富郎(花王)と2代鈴木三郎助(味の素)
第6回	明治期の企業者活動(2)岩垂邦彦(NEC)
第7回	明治期～大正期の企業者活動 小林富次郎(ライオン)と福原有信(資生堂)
第8回	大正期～昭和戦前期の企業者活動(1)鮎川義介(日産)と豊田喜一郎(トヨタ)
第9回	大正期～昭和戦前期の企業者活動(2)小林一三(阪急・東宝)と堤康次郎(西武)
第10回	戦後の企業者活動(1)本田宗一郎(ホンダ)
第11回	戦後の企業者活動(2)盛田昭夫(ソニー)
第12回	戦後の企業者活動(3)中内功(ダイエー)と鈴木敏文(セブンイレブン)
第13回	戦後の企業者活動(4)飯田亮(セコム)と田口利八(西濃運輸)
第14回	理解度の確認
第15回	予備日

授業方法

講義に加えて、VTRやDVDを補助教材として使用する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと(約60分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験:40% 小テスト:30%,平常点20%の割合で最終的な成績を評価する。小テストを受験しない場合は、自動的に単位取得不可となる。毎回、出欠を確認します。3分の1以上欠席した場合は、単位取得は難しい。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題レポート(小テスト)の内容の評価については、学生の求めに応じて個別に対応する。

教科書

- 日本の企業家群像Ⅲ,佐々木聡,丸善,2011,9784621083499
- 日本の企業家群像Ⅱ,佐々木聡,丸善,2003,4621072307
- 日本の企業家群像,佐々木聡,丸善,2001,4621048856
- 丸田芳郎:日本の企業家第9巻,佐々木聡,PHP研究所,2017,9784569834290
- 暮らしを変えた美容と衛生:情熱の日本経営史3,佐々木聡,芙蓉書房,2009,9784829504437

参考文献

日本の戦後企業家史,佐々木聡,有斐閣,2001,4641280673

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。私語は厳禁とする。授業中に1回でも、私語により退出を指示された場合は、それ以降、本講義の受講を不可とする。

その他

履修希望者は必ず第1回目の授業に参加すること。出席していない学生は履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220218101	科目ナンバリング	022B320
講義名	多国籍企業論 I		
英文科目名	Multinational Enterprises I		
担当者名	和田 哲夫		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 南1－302		

授業概要

一般常識でいう「企業の海外進出」には、ライセンス/フランチャイズのように、定義上は多国籍企業化すること(＝直接投資)に当てはまらない場合も少なくありません。また、直接投資に該当する場合であっても、進出先国における合併パートナー企業の役割が重要な場合も多く存在します。例えば、シェイクシャックの日本進出では、サザビリーグという日本企業が契約当事者になっていて、この日本企業はスターバックス日本進出のときにも合併パートナーとして重要な役割を果たしました。シェイクシャックの例でいえば、米国内ではフランチャイズ権を他企業に与えていませんが、海外では他企業と組んで事業展開していて、日本進出に関して(現時点では)定義上は「多国籍企業化」をしていない、ということになります。多角化した多国籍企業は一朝一夕にはなく段階的に、また各国で時間差をおいて発達してゆきますが、その過程ではこのように異なる組織構造を使い分けています。長い目でみれば、多国籍企業の内部組織には様々な共通傾向があります。この法則性に関する理論や基礎概念に関し、具体例と文献を通じて学ぶことがこの講義の主な内容になります。最近の事例の紹介と理論研究・実証研究を織り交ぜて説明を進めるため、講義順序は年度当初に改めて説明し、かつ必要に応じて学期中も項目を調整していきます。事例に関しては、日本に存在する外資系企業、日本企業と海外企業との国内外での資本提携、日米企業の海外進出過程などから主に選びます。

到達目標

企業の海外進出とは何か、なぜ・いつ如何にして起こるか、に関する基礎的事項は、多国籍企業の発達に関する研究で明らかにされてきました。この基礎概念・原理を具体例とともに学び、企業の海外進出に関する基礎的な思考方法を身につけ、受講者が個別ケースへの当てはめが自らできるようになることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	海外「進出」と海外直接投資の違い、直接投資の具体例、国際フランチャイズ
第2回	海外展開の諸段階、バリューチェーン上の位置
第3回	直接投資の場所、直接投資受入れ国の市場と政策口
第4回	国際合併パートナーの役割
第5回	合併の得失、所有比率の決定要因、ライセンス/フランチャイズとの対比、国際提携の様々な事例・類型口
第6回	海外展開の諸段階、合併の発生から消滅過程
第7回	直接投資を説明する内部化理論の概念基礎、OLIフレームワークの一部としての内部化の優位
第8回	OLIフレームワーク(2):所有の優位
第9回	OLIフレームワーク(3):地理的条件
第10回	ハイマーの古典的な洞察
第11回	多国籍企業の「グローバル統合」とは
第12回	グローバル統合と国際的アービトラージの共通点・違い
第13回	OLIフレームワークの限界、トランスナショナル企業の発想
第14回	多国籍企業の研究開発管理
第15回	理解度の確認

授業方法

パワーポイント・スライドを使った講義。事前課題を配布し、それに対する単なる解説を省いて教室での討論を中心とする場合もあります。クラス内の小テストも何度か実施します。時間が許せば、参加者によるミニ研究発表も一部取り入れる予定。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

基本的には毎回、次回の資料を事前配布します。それを読んでくる、など事前の課題について対応してきてください(平均約1時間)。国際ビジネス事例を読んで理解する観点は色々ありますので、なるべく皆さんの解釈からスタートしたいと考えています。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	10 %	
レポート	35 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)及び中間テスト:45%(出席を必須前提として、授業内での発言参加を求めて評価に加味します。不足がみられた場合に中間テストを課す場合があります。) 第1学期(学期末試験):20%(レポートで受講者全員が異なる

企業に取り組み知識応用することを予定しますが、受講者数に依存するため、多数の場合は試験による知識確認を併用します。) 講義は暗記項目の説明ではなく、教室で考え、議論に参加してもらうことを特に重視します。出席は当然の前提で厳格にチェックされ、学期の早い段階で単位認定不可となるケースもあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート対象企業の選択に際して、最初に下調べを求め、結果により可否を通知します。レポート内容に応じ、優れた例にあつては教室での発表を求めコメントする場合もあり、また内容不足の例に対して数度の書き直しを要求する場合があります。

教科書

国際ビジネス(1／2／3),チャールズ・W・L・ヒル,楽工社,2013

コア・テキスト国際経営:ライブラリ 経営学コア・テキスト,大木清弘,新世社,2017,978-4-88384-266-7

参考文献

グローバル経営入門,浅川和宏,日本経済新聞社,2003

Multinational Enterprises and the Global Economy,John H. Dunning, Sarianna M. Lundan,Addison Wesley,2nd Edition,2008

多国籍企業の組織と所有政策,J.M.ストップフォード、L.T.ウエルズ,ダイヤモンド社,1976

国際経営論,竹田志郎,中央経済社,1994

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220221101	科目ナンバリング	022B323
講義名	新興国企業論Ⅱ		
副題	(各国経済編 中国経済・企業論)		
英文科目名	Firms in Developing and Emerging EconomiesⅡ		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西5－302		

授業概要

中国経済をはじめとする新興国経済の産業発展のプロセスおよび企業の戦略の特徴について、企業経済学、経営戦略論、制度経済学の視点から分析する講義を行う。本年は、中国経済を対象とする。

到達目標

中国経済など新興国の企業戦略、産業発展のプロセスを、制度経済学、経営戦略論の枠組みで分析する思考に慣れる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:講義の概要、新興国情報の集め方
第2回	中国はどのように発展してきたのか： 中華人民共和国設立以降の略史
第3回	中国の国家体制の特徴と経済活動(1) 中央集権体制の政治的ジレンマ
第4回	雁行形態論とアジアの発展
第5回	雁行形態論を崩した中国
第6回	破壊的イノベーションと新興国市場
第7回	破壊的イノベーションと中国企業
第8回	オープンソース、モジュール化、破壊的イノベーション、競争がある
第9回	プラットフォームの経済学(1) ネットワークの外部性
第10回	プラットフォームの経済学(2) いちばとアリババ
第11回	プラットフォームの経済学(3) プラットフォームから生まれるイノベーション
第12回	パクリ、シャンザイとイノベーション (1)パクリ経済、イミテーション、イノベーション
第13回	持続的イノベーションとリバースイノベーション
第14回	中国の国家体制と経済活動の特徴(2) 負の外部性、再分配
第15回	ゲスト講演 もしくは 総括

授業方法

講義形式で授業を行う。参加者の人数によっては、グループディスカッションなども行う。

準備学習(予習・復習)

授業中に指示をする。主にその日学んだ概念などに関するレポートの形で復習を行う(各回約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 各回での講義の内容を理解し、それを評価する小レポートで、理解度などを評価する。レポート:50%(授業中に指示したテーマについてレポートと最終レポートの提出を求める。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントシートなどを通じて得たコメントや質問へのフィードバックを講義の中で触れるようにします。

教科書コメント

配布資料のなかで適宜指定する。

参考文献コメント

適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220223101	科目ナンバリング	022B382
講義名	公益企業論		
副題	現代公益事業の課題と展望		
英文科目名	Public Enterprise		
担当者名	武井 孝介		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 中央－303		

授業概要

公益事業とは、エネルギーや水道、通信、交通など、私たち国民・住民が日常生活や経済活動を営む上で必要不可欠な財・サービスを提供する一連の産業群である。従来、公益事業はその「公共性」と「独占性」の高さゆえ、政府によってさまざまな規制や公的関与が行われてきたが、近年では規制緩和や自由化、民営化に伴う市場競争の激化や人口減少時代における需要の減少、さらには政府部門の財政状況の悪化など、公益企業を取り巻く経営環境も大きく変化している。このため今後も公益事業の各サービスを安定的かつ低廉な価格で維持・提供していくためには、解決しなければならない様々な課題が山積している状況にある。

このように新しいビジネスモデルの構築が求められている公益事業について、本講義では新聞記事や映像資料なども活用して実例を数多く取り入れながら、「理論」と「実証」の両面より幅広く分析・検討することとする。

到達目標

公益事業が置かれている現状と課題を「理論」と「実証」の両面より学習することを通じて、受講生が私たちの暮らしや経済活動に必要な不可欠なライフラインや公共サービスの今後のあり方について、自分なりの意見や考え方を持てるようにすることが、この授業の到達目標である。

- ・資本主義市場経済の社会における政府部門の役割について説明できる。
- ・公益事業や公共サービス供給における「公民(官民)パートナーシップ」について説明できる。
- ・公益事業における規制緩和や民営化の目的・内容とその効果や影響について説明できる。
- ・各公益事業の規制改革や事業展開の方向性を理解し、自分自身でその望ましいあり方を提起できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(講義のねらい・概要、スケジュール、成績評価の方法等)
第2回	公益事業の概念とその社会的役割
第3回	公益事業における経済学的考察
第4回	公益事業における「経済的規制」の理論
第5回	公益事業における「社会的規制」の理論
第6回	公益事業を取り巻く環境の変化と規制緩和・民営化
第7回	公益企業における新しい料金設定方式の考察
第8回	公益事業の経営形態と公企業
第9回	公企業の課題・問題点と公企業改革
第10回	民営化の定義・手法とその類型①－民営化の概念とその背景・目的－
第11回	民営化の定義・手法とその類型②－所有移転型・PPP型民営化－
第12回	水道事業経営の現状と民間的経営手法の導入
第13回	鉄道事業の現状と地域鉄道を取り巻く経営環境
第14回	地域鉄道の維持・活性化方策と上下分離方式
第15回	第1学期の学習内容の取りまとめと理解度の確認
第16回	一般路線バス事業の現状と公営バスの民営化
第17回	地域バス交通の維持・確保と官公民パートナーシップ
第18回	高速バス・貸切バス事業の現状と今後の課題
第19回	タクシー事業における規制緩和とその見直し
第20回	物流事業を取り巻く環境の変化とモーダルシフト
第21回	競争時代を迎えた航空輸送事業の課題と展望
第22回	空港経営の現状と今後の方向性
第23回	郵政事業の歴史とその社会的役割
第24回	民営・分社化と今後の郵政事業の課題と展望
第25回	電気・ガス事業経営の現状と「エネルギーシステム改革」
第26回	高度情報社会における公益企業
第27回	民営化・規制緩和とユニバーサル・サービスの確保
第28回	災害に強いライフラインの構築とまちづくり
第29回	今後の公益事業の課題と展望

授業方法

基本的にはパワーポイントを用いた講義形式であるが、必要に応じてDVD等のマルチメディア教材を活用しながら授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

公益事業の各分野は日々の変化が激しく、また国民・住民の日常生活や経済活動に密着した産業であるため、ほぼ毎日のようにニュースや新聞等で取り上げられている。受講生には授業の準備学習(予習)として、公益事業に関する最新のニュースや動向を新聞やテレビ、インターネット等で幅広く収集し、その内容を十分に理解・認識しておくことを求める(毎回の予習にかかる時間の目安は概ね1.5時間程度)。

また、授業中に学習した理論や知識が、現実の公益事業の運営に具体的にどのように活かされているかを意識しながら、配布されるレジュメをもとにノートを取りまとめ、きちんと復習しておくこと(毎回の復習にかかる時間の目安は概ね2.5時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート	15 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(授業中の発言やコメント、授業への積極的な参加):25%

夏休み明けに提出するレポート:15%

第2学期(学年末試験):60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各回の授業の際に出された「質問」や「意見・感想」など(出席票の裏面等を活用)について、次回以降の授業時に解説・講評を行う。

教科書コメント

特定の教科書は使用せず、適宜、講義内容に沿ったレジュメや資料等を配布する。

参考文献コメント

講義の理解に役立つ文献や資料等については随時、授業中に紹介する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220225201	科目ナンバリング	022B332
講義名	日本経営史 I		
英文科目名	Business History of Japan I		
担当者名	大石 直樹		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西2-401		

授業概要

近代以降の日本企業の歩みについて、どのような新たな挑戦を繰り返してきたのか、その過程で日本企業はどのような変遷を辿ってきたのか、数々の試行錯誤の軌跡を振り返ることで、先人たちが生み出してきたモノ(あるいは挫折した挑戦)を、現代の視点から歴史的に考える。

到達目標

日本の企業経営について、歴史的視点をふまえた、客観的な見方や多角的な思考が可能な能力を身につけることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	企業の寿命ー近代化150年の素描ー
第3回	会社の誕生
第4回	財閥の形成
第5回	新興コンツェルンの登場
第6回	都市化と私鉄経営
第7回	ブームと恐慌
第8回	戦時下の企業統制
第9回	高度成長と「日本的」経営
第10回	ケース①ホンダ
第11回	ケース②ダイエー
第12回	ケース③任天堂
第13回	ケース④ファーストリテイリング
第14回	日本経営史の最前線
第15回	総括

授業方法

講義形式により授業を進める

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前にあらかじめ教科書の該当箇所を読み、論点の整理をして講義にのぞむこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価は、学期中に行う小テストと期末レポートの合計で判定する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストについては、次の講義の時間に解説を行う。

教科書

ケースに学ぶ日本の企業,加藤健太、大石直樹,有斐閣,初,2013,978-4-641-18408-4

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220225301	科目ナンバリング	022B333
講義名	日本経営史Ⅱ		
英文科目名	Business History of JapanⅡ		
担当者名	北浦 貴士		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 中央－405		

授業概要

戦前から戦後にかけての日本の著名な企業家6名(松下幸之助、本田宗一郎、出光佐三、鳥井信治郎、松永安左エ門、土光敏夫)を取り上げ、彼らが革新的な経営を実行できたのはどうしてなのかを勉強します。

到達目標

日本企業の経営者による革新的な経営を日本経営史の観点から理解し、革新的な経営が可能となる条件を他者と議論したり、経営課題に対する具体的な解決策を提示したりすることができるようになることを目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:日本企業における革新的経営とは
第2回	松下幸之助と松下電器産業(パナソニック)
第3回	松下幸之助は、どうして「経営の神様」と呼ばれたのでしょうか？
第4回	本田宗一郎と本田技研工業(ホンダ)
第5回	本田宗一郎は、どうして「オヤジさん」と呼ばれたのでしょうか？
第6回	出光佐三と出光興産
第7回	出光佐三は、どうして「民族系石油会社の雄」と呼ばれたのでしょうか？
第8回	鳥井信治郎とサントリー
第9回	鳥井信治郎は、どうして「やってみなはれ」と言ったのでしょうか？
第10回	松永安左エ門と東邦電力
第11回	松永安左エ門は、どうして「電力の鬼」と呼ばれたのでしょうか？
第12回	土光敏夫と石川島播磨重工業(IHI)・東芝
第13回	土光敏夫は、どうして「メザシの土光さん」と呼ばれたのでしょうか？
第14回	理解度の確認、まとめ、総括
第15回	振り返り、到達度確認

授業方法

講師による講義・解説に加えて、グループワークの実施、授業内での議論、参加者によるディスカッションを行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:あらかじめ指定した課題について、調査し、自分の見解を整理してください(2時間)

復習:授業で取り扱った内容を、ノートなどを用いて、復習してください(2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

日本企業における革新的な経営とその条件について、文献などを用いて分かった点を踏まえて、自分の見解を論理的に説明できているかどうかをチェックします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループでの作業に対する評価は、都度授業内にグループに対してコメントを行います。
レポートについては、提出後に総評を行います。

履修上の注意

履修希望者が一定の数を超えた場合には、履修人数を制限する場合があります。また、第1回目の授業において、授業進行方法について、説明するので、必ず出席するようにしてください。

その他

履修希望者が一定の数を超えた場合には、人数を制限することがあるので、履修希望者は、必ず掲示の手続きに従って履修希望を提出すること。掲示の期間は 4 月上旬 である。履修希望を提出しても履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220226201	科目ナンバリング	022B334
講義名	西洋経営史Ⅰ		
英文科目名	Business History of Europe and AmericaⅠ		
担当者名	新川 徳彦		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西2－201		

授業概要

あなたが手に取る商品はなぜそのような形、色、図柄なのだろうか。メーカーはどのようにして商品のデザインを決定してきたのだろうか。企業はどのようにして消費者のニーズに対応してきたのだろうか。どのようにして自分たちの製品やブランドを売り込んでいったのだろうか。本講では18世紀から20世紀における欧米の消費財産業の事例を中心に、企業が製品・デザイン・ブランドを創造、確立した過程を、社会経済史的な背景とともに検討する。「西洋経営史Ⅰ」では歴史を概観した上でファッションと陶磁器産業の経営史を考察する。

到達目標

身の回りにあるモノをひとつの手掛かりとして、そのようなモノを生み出した社会のニーズ、ニーズに対応し、また新たなニーズを生み出してきた企業の歴史を考える視点を持つ。

授業内容

実施回	内容
第1回	企業経営と商品のデザイン(1) イントロダクション
第2回	企業経営と商品のデザイン(2) 工業化の影響
第3回	企業経営と商品のデザイン(3) 模倣の問題
第4回	企業経営と商品のデザイン(4) 産業振興:日本の場合
第5回	企業経営と商品のデザイン(5) 産業振興:欧米の場合
第6回	ファッション(1) オートクチュールの誕生
第7回	ファッション(2) ポール・ポワレ
第8回	ファッション(3) ココ・シャネル
第9回	ファッション(4) マリメッコ
第10回	陶磁器(1) 陶磁の東西交流
第11回	陶磁器(2) 大陸ヨーロッパ
第12回	陶磁器(3) イギリス
第13回	陶磁器(4) イギリス消費社会とウェッジウッド
第14回	陶磁器(5) 日本の陶磁器輸出とアメリカ・マーケット
第15回	まとめ

授業方法

講義を中心とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義で取り上げる企業の経営史、社史を予習・復習しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:講義コメントシートの内容で評価。
レポート:課題に対して講義に即した視点で書かれているかどうかを重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントシートの内容に対して講義の際にフィードバックする。

参考文献

コーポレート・アイデンティティ戦略ーデザインが企業経営を変える,中西元男,誠文堂新光社,2010,978-4416610138
欲望のオブジェ:デザインと社会1750年以後,エイドリアン・フォーティ著、高島平吾訳,鹿島出版会,新装

版,2010,9784306094093

ザ・ブランドー世紀を越えた起業家たちのブランド戦略,ナンシー・F・ケーン,翔泳社,2001,9784798101453

参考文献コメント

そのほか、関連文献は講義時に指示する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220226301	科目ナンバリング	022B335
講義名	西洋経営史Ⅱ		
英文科目名	Business History of Europe and AmericaⅡ		
担当者名	新川 徳彦		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 西2－201		

授業概要

あなたが手に取る商品はなぜそのような形、色、図柄なのだろうか。メーカーはどのようにして商品のデザインを決定してきたのだろうか。企業はどのようにして消費者のニーズに対応してきたのだろうか。どのようにして自分たちの製品やブランドを売り込んでいったのだろうか。本講では18世紀から20世紀における欧米の消費財産業の事例を中心に、企業が製品・デザイン・ブランドを創造、確立した過程を、社会経済史的な背景とともに検討する。「西洋経営史Ⅱ」では、自動車産業、家庭用品、事務機器、コーポレート・アイデンティティの事例を検討する。

到達目標

身の回りにあるモノをひとつの手掛かりとして、そのようなモノを生み出した社会のニーズ、ニーズに対応し、また新たなニーズを生み出してきた企業の歴史を考える視点を持つ。

授業内容

実施回	内容
第1回	自動車(1)自動車の技術的発展
第2回	自動車(2)スタイリングの変化
第3回	自動車(3)フォード
第4回	自動車(4)GM
第5回	家電・家庭用品(1)デザイン家電
第6回	家電・家庭用品(2)衛生と清潔さのイメージ
第7回	家電・家庭用品(3)ユニリーバ
第8回	家電・家庭用品(4)携帯電話
第9回	オフィスと事務機器(1)ホワイトカラーの生産性
第10回	オフィスと事務機器(2)事務機器の変遷
第11回	オフィスと事務機器(3)タイプライター
第12回	コーポレート・アイデンティティ(1)書体の持つイメージ
第13回	コーポレート・アイデンティティ(2)企業とCIの歴史
第14回	コーポレート・アイデンティティ(3)ロンドン市交通局
第15回	まとめ

授業方法

講義を中心とする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講義で取り上げる企業の経営史、社史を予習・復習しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:講義コメントシートの内容で評価。
 レポート:課題に対して講義に即した視点で書かれているかどうかを重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントシートの内容に対して講義の際にフィードバックする。

参考文献

コーポレート・アイデンティティ戦略ーデザインが企業経営を変える,中西元男,誠文堂新光社,2010,978-4416610138
 欲望のオブジェ:デザインと社会1750年以後,エイドリアン・フォーティ著、高島平吾訳,鹿島出版会,新装

版,2010,9784306094093

ザ・ブランドー世紀を越えた起業家たちのブランド戦略,ナンシー・F・ケーン,翔泳社,2001,9784798101453

参考文献コメント

そのほか、関連文献は講義時に指示する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220228101	科目ナンバリング	022B350
講義名	情報マネジメント		
英文科目名	Data Management		
担当者名	KHUZAIMAH BINTI		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 南2－200		

授業概要

データベース管理技術の基礎を学び、実用的なデータベースを自ら設計・構築できるよう、知識と技術を身に着ける。汎用ソフトウェアを用いた実習とデータベース実装を行う。

到達目標

データベース管理技術(国際基準)の基礎を身に着け、自身の設定したトピック/テーマ/目的に応じたデータベースを設計し、組織・コミュニティ内で共有・活用可能なオリジナルの実用的データベースおよびWebアプリケーションを構築できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義の概要説明
第2回	データベース管理技術の概要、リレーショナルデータベース設計について
第3回	リレーショナルデータベースの設計(ER図)、テーブルの作成とデータの格納、リレーションシップの作成
第4回	リレーションシップの作成と参照整合性、クエリの基礎
第5回	クエリによるデータの加工
第6回	演算・関数関連のクエリ作成
第7回	フォームの作成、フォームによるデータ入力、フォームの活用
第8回	クエリ作成における様々な演算子・関数の活用(1)
第9回	クエリ作成における様々な演算子・関数の活用(2)、アクションクエリと不一致クエリ
第10回	レポートの作成、メイン・サブレポート、レポートの活用
第11回	正規化理論、Web対応機能、エクスポート・インポート、ファイルの最適化・保護
第12回	正規化理論と実習、総合問題1
第13回	総合問題2、最終レポート用データベース実装
第14回	総括、最終レポート発表
第15回	予備日

授業方法

毎回の授業の前半は、基礎的な知識に関する講義、後半は、実習方式で進めます。すべての課題に対して、サンプル教材を用意しています。サンプルをアレンジしながら自分のペースで課題を進め、学習することができます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:シラバスに提示された教科書の該当項目(章)について予め読んでおくこと(約10分)。復習:毎回の講義で提示された実習課題について、時間が足りず授業時間内に回答を提出できなかった場合、一週間以内にオンラインシステム(g-port)を用いて追提出すること(約30分～1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(毎回、講義時間内に実習課題を提示しますので、その回答をオンライン提出してもらいます。回答は講義時間内に間に合わなくても、一週間以内であれば提出可能です。)授業で学習した範囲内でレポート課題を提示します。対象トピックは自由です。レポート内容について、講義最終回で口頭発表(5-10分)してもらいます。レポート:50%(講義内で学習した知識・技術を基に、自分なりに設定したトピックに応じて独自のデータベースを設計・構築できているかどうか、その有効性・実用性について報告してもらいます。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業毎に提示する課題について、回答作成時に不明点やエラーが発生した場合は、授業内での個別質問へ対応、授業外でのメールでの個別質問への返答・改善策の提案を行います。

教科書

よくわかるMicrosoft Access 2010 (2013/2016) 基礎,FOM出版,2010

参考文献

リレーショナルデータベース入門 - データモデル・SQL・管理システム,増永良文,サイエンス社,2013

履修上の注意

第一回の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220229101	科目ナンバリング	022B351
講義名	ネットワーク論		
英文科目名	Information Network		
担当者名	高橋 裕		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 西2－301		

授業概要

通信技術の発展とコンピュータの普及は、これまでの社会を文化的な側面まで劇的に変化させている。とりわけ、インターネットの影響は大きい。この講義ではインターネットの社会的・技術的なトピックを説明し、インターネットを能動的に理解し利用するための知識と考え方を学ぶ。

到達目標

インターネットについて、社会的・技術的な背景・動向を理解・説明できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	なぜ情報通信技術を学ぶのか(科学と技術を知ることについて)
第2回	インターネットの要素技術
第3回	日本のネット環境
第4回	日本のインターネット政策
第5回	World Wide Web
第6回	グローバル社会とローカル文化
第7回	コンテンツとデバイス
第8回	標準化
第9回	データ通信の方法
第10回	通信メディア
第11回	階層型アーキテクチャ
第12回	IPv6
第13回	インターネットガバナンス
第14回	まとめ
第15回	自主研究

授業計画コメント

受講者の理解度によって、トピックスを変更する場合がある。

授業方法

講義による。コンピュータで実験すべきところについてはその都度指示するので、各自空き時間に試しておくこと。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

インターネットのサービス(電子メールやWWW)について利用経験があること。
 講義の前に当日のトピックについての世の中の動きを新聞記事で検索して予備知識を得るkと(30分程度)。また、講義後には学習した内容をまとめ、疑問点を抽出しておくこと(1時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	学期末に指示する。
小テスト	30 %	予告なしで複数回実施する。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートについては論述式であり、文献引用を適切に行いながら題意に合致した文書を作成するものであり、多くの、また多様な立場の見解を引用し、合理的な結論や自らの主張を導きだしているものが高評価となる。小テストは実施回の次の回の講義で解答・解説を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出物は返却しない。講義時に解説を行う。

教科書コメント

教科書は指定しないが、関心に応じて参考文献を読むこと。

参考文献

インターネットの基礎,村井 純,角川学芸出版,2014,9784046538819

履修上の注意

毎回の講義は前回までの理解を前提として進められるので、疑問があればその日のうちに質問してほしい。また、欠席をした場合は、必ず他の受講者に講義内容(必要があれば資料やノート)を確認して、各自自分で補っておくこと。予習として、教科書の各回の説明に該当するページまたは前の回の講義時に指示した資料を読んでおくこと(想定される所要時間は約1時間)。復習として、各回の学習内容に対応する新聞記事や雑誌記事を探して読んでおくこと(想定される所要時間は約30分)レポート提出は、ワードプロセッサやWWWブラウザなどを利用する。

その他

履修希望者数が一定の数を越えた場合には、人数を制限することがあるので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加すること。出席していない学生は履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220230101	科目ナンバリング	022B342
講義名	マルチメディアと数学Ⅰ		
副題	統計を可視化して見る		
英文科目名	Mathematics by MultimediaⅠ		
担当者名	白田 由香利・島村 道代		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 中央－506		

授業概要

実生活の中で役に立つ数学を教えます。金利計算，リボ払い，住宅ローンの借り換えなどの金融数学も含みます。実際の電車のつり広告にあるような複利法の問題を文章題にして，その数学計算の仕組みをビジュアルに教えます。統計も含みます。統計の最も重要な定理「中心極限定理」も，グラフィクスで見れば，簡単に分かります。少人数の面授による演習です。日本の数学は，目の前の数学問題を急いで解く，という科目になっていますが，このクラスは異なります。先生と対話しながらグラフィクスを見ながら，数学をゆっくり考えながら解いていきます。テキストは独自にこの科目用に作成したものを使います。また，すべての項目に独自に作成したグラフィクスが付きます。家でも使えます。高校までの数学評価とは別の次元の数学能力を養成するクラスです。高校までの数学とは違う数学を体験してみたい人，数学ができるようになりたい人，経営数学のセンスを身に着けたい人，いらしてください。

到達目標

経営で必要な統計の知識が修得できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	指数関数で予測する
第3回	対数関数で予測する
第4回	当たる確率を計算しよう
第5回	〃
第6回	確率モデルと統計的推測:確率分布
第7回	確率モデルと統計的推測:正規分布
第8回	確率モデルと統計的推測:中心極限定理
第9回	仮説検定
第10回	t検定
第11回	χ^2 乗検定
第12回	分散分析
第13回	ベキ乗則
第14回	ベキ乗則:株価の大暴落の頻度
第15回	総復習

授業方法

前半は講義を行い，後半は演習を行います。演習は教師とTAが手伝います。コンピュータは一人1台，少人数でゆったりした時間の中で数学を考え理解することができます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所を読むこと(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは返却しない。レポートの内容についての講評は行う。

教科書

大学生のための役に立つ数学, 白田由香利、他, 共立出版, 2014

参考文献

悩める学生のための経済経営数学入門, 白田由香利, 共立出版, 2009

履修上の注意

履修者数制限あり。(40名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本講義内容はすべてWEBから参照できます。学内からのみ参照可能。 <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/2020/lecture/> 自習用に各種のWeb教材を提供しています。 <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/> 以下のサイトにあるようなグラフィクス教材を描きます。(家からも使えます。)

カリキュラムマップ

以下URLを参照 <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220231101	科目ナンバリング	022B340
講義名	マルチメディアと数学Ⅱ		
副題	サステナブルな社会のための数学		
英文科目名	Mathematics by Multimedia Ⅱ		
担当者名	島村 道代		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 中央－506		

授業概要

人類の活動が地球環境に大きな影響を与えるようになった21世紀は、「環境の世紀」とも言われています。地球温暖化や人口増加を乗り越え「サステナブル(持続可能)な社会」を創るためには、科学技術やイノベーションが重要です。しかし、持続可能な開発やESG投資のような経済行動こそが、その効果を最大化するために最も必要とされています。マルチメディアと数学Ⅱでは、サステナブルな社会のために、現状を理解し、新たな課題解決を考えるための道具=数学を教えます。このため授業は少人数の演習形式で、先生と対話し、グラフィクスを見ながら、数学をゆっくり考え、楽しみながら解いていきます。テキストは独自にこの科目用に作成したものを 사용합니다。また、すべての項目に独自に作成したグラフィクスが付きます。

到達目標

未来志向=サステナブルな経営学に必要な行列の本質を視覚的に理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	気候変動とサステナビリティ
第3回	世界は意外と簡単だ:線形と非線形の違いを見てみよう
第4回	演習1
第5回	アフィン変換と主成分分析
第6回	演習2
第7回	固有値と固有ベクトル
第8回	演習3
第9回	固有方程式
第10回	演習4
第11回	ESG企業:SVDでテキストからトピックス抽出
第12回	演習5
第13回	ESG投資:SVDで株価を考える
第14回	演習6
第15回	総復習:サステナブルな社会のために

授業方法

諸問題の科学的根拠を理解するため、講師がわかりやすいレクチャーを行います。また課題解決のツールとしての数学を修得するため、グラフィクスを中心とした数学的説明と身近な問題を用いた演習で構成します。コンピュータは一人1台、少人数でゆったりした時間の中で学びます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

日頃からニュースなどに目を通し、社会で起きている問題に興味を持ちましょう。講義では関係する資料をお配りしますので、予習は不要ですが、毎回最低30分は復習を行って下さい。また必要に応じてデータを集めていただくことがあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(出席、クラス参加、グループ作業等の成果等):60%、レポート:40%
個別の計算ができるか否かより、本質的に重要な事項の理解を優先します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則的にレポートは返却しませんが、講義の際にレポートの内容に講評を行いフィードバックします。

履修上の注意

履修者制限あり(最大30名)。

第1回授業はオリエンテーションですので、必ず出席して下さい。

その他

質問等は講義後、受け付けます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220232201	科目ナンバリング	022B364
講義名	会計監査 I		
英文科目名	Auditing I		
担当者名	木村 晃久		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西2－506		

授業概要

この講義では、財務諸表監査の手続き一巡について簡潔に説明したのち、財務諸表監査に必要な、会計処理方法の裁量性や財務諸表分析の利用法について説明する。

到達目標

この講義の到達目標は、財務諸表監査がどのようにおこなわれているのか、また、財務諸表監査をおこなうにあたり、会計上のどのような点に注意しなければならないかについて、受講生が説明できるようになることである。
また、受講生が、財務諸表監査のどの場面で、どのように財務諸表分析を利用すればよいかについて説明できるようになることも、本講義の到達目標である。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	財務諸表監査の必要性
第3回	財務諸表の監査一巡
第4回	複式簿記と監査要点
第5回	着服・横領と現金実査
第6回	架空取引と立会・確認
第7回	棚卸資産の評価と配分の裁量性
第8回	有形固定資産の評価と配分の裁量性
第9回	引当金評価の裁量性
第10回	有価証券評価の裁量性
第11回	分析的手続と財務諸表分析
第12回	監査のための財務諸表分析
第13回	監査意見の形成と表明
第14回	総まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

スライドを用いて解説をおこなう。なお、会計処理や財務諸表分析について、講義中に問題演習をおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習として、参考書の該当箇所を読んだうえで、わからない点については各自で調べてみること(1～2時間)。
復習として、参考書とスライドの内容をまとめ、オリジナルのレジュメを作成すること(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	100%	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

このほかに、小テストを講義の中で2回おこなう。
小テストは学期末試験による評価が「不可」となる場合に、加点対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストは、回収後に解説をおこなう。

参考文献

監査論テキスト,山浦久司,中央経済社,6,2015,9784502141911
財務会計講義,桜井久勝,中央経済社,20,2019,9784502302817

実践財務諸表分析,新田忠誓, 善積康夫, 辻峰男, 木村晃久, 中村亮介, 木村将之, 池川穰治 ,中央経済社,2017,2,9784502219313

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220232301	科目ナンバリング	022B365
講義名	会計監査Ⅱ		
英文科目名	AuditingⅡ		
担当者名	木村 晃久		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2－506		

授業概要

この講義では、財務諸表監査のリスク・アプローチとそれを理解するために必要な統計学の基礎について説明をおこなうとともに、財務諸表監査に必要となる、会計処理方法の裁量性について、会計監査Ⅰよりも複雑な取引を例に説明する。

到達目標

この講義の到達目標は、財務諸表監査のリスク・アプローチがどのようにおこなわれているのか、また、財務諸表監査をおこなうにあたり、会計上のどのような点に注意しなければならないかについて、受講生が説明できるようになることである。
また、受講生が、リスク・アプローチの基礎となる統計理論について説明できるようになることも、本講義の到達目標である。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	リスク・アプローチと試査
第3回	統計の基礎:記述統計
第4回	統計の基礎:推測統計
第5回	統計の基礎:仮説検定
第6回	資金循環と循環取引
第7回	工事収益認識の裁量性
第8回	リース会計の裁量性
第9回	事業負債会計の裁量性
第10回	評価損・減損の裁量性
第11回	連結の範囲とのれんの裁量性
第12回	統計の基礎:2変量の分析
第13回	会計不正と株価
第14回	総まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

スライドを用いて解説をおこなう。なお、会計処理や統計処理について、講義中に問題演習をおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習として、参考書の該当箇所を読んだうえで、わからない点については各自で調べてみること(1～2時間)。
復習として、参考書とスライドの内容をまとめ、オリジナルのレジュメを作成すること(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	100%	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

このほかに、小テストを講義の中で2回おこなう。
小テストは学期末試験による評価が「不可」となる場合に、加点対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストは、回収後に解説をおこなう。

参考文献

監査論テキスト,山浦久司,中央経済社,6,2015,9784502141911
財務会計講義,桜井久勝,中央経済社,20,2019,9784502302817
入門経済のための統計学,加納悟,浅子和美,竹内明香,日本評論社,3,2011,9784535555657

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220233101	科目ナンバリング	022B361
講義名	国際会計 I		
英文科目名	International Accounting I		
担当者名	木村 晃久		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 西2－506		

授業概要

この講義では、下記の教科書をベースに、財務諸表の情報内容、財務諸表分析の各指標の意味と、分析指標を株式投資意思決定に利用する方法について説明する。日本基準と国際会計基準の差異により、分析や評価にどのような差異が生じるようになるのかについても説明する。

到達目標

本講義の到達目標は、受講生が、財務諸表分析の各指標の意味と、それが株式投資意思決定にどのように利用されるのかについて、またそれが日本基準と国際会計基準でどのように異なるかについて説明することができるようになることである。
 実際の財務諸表データを用いて主要な財務分析指標を計算し、株式投資意思決定ができるようになることもまた、本講義の到達目標である。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	貸借対照表
第3回	株主資本等変動計算書
第4回	損益計算書
第5回	キャッシュ・フロー計算書
第6回	財務諸表分析の基礎
第7回	収益性分析:資産利益率
第8回	収益性分析:マージンと回転率
第9回	安全性分析:資本構成と利息負担
第10回	安全性分析:運転資本
第11回	株価倍率
第12回	成長性分析
第13回	将来予測と感応度分析
第14回	総まとめ
第15回	到達度確認

授業方法

テキストとスライド、補足資料を用いて説明する。講義中に各指標や株式価値の計算演習をおこなう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習として、授業前に教科書の該当箇所を読み、不明な点は各自調べておくこと。(1～2時間)。
 復習として、テキストの記述とスライドを組み合わせ、各回の内容についてレジュメを作成しておくこと(1～2時間)。
 その他、余裕があれば各自が関心をもっている企業の財務諸表を用いて、分析や評価をおこなってみること(1～2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	100%	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

講義中におこなう問題演習については、その場で解答を発表し、解説もおこなう。

教科書

実践財務諸表分析,新田忠誓, 善積康夫, 辻峰男, 木村晃久, 中村亮介, 木村将之, 池川穰治,中央経済社,2,2017, 9784502219313

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220234101	科目ナンバリング	022B362
講義名	国際会計Ⅱ		
英文科目名	International AccountingⅡ		
担当者名	板橋 雄大		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 東2－104		

授業概要

この授業は講義形式であるが、適宜内容確認の質疑応答を行う。本講義では、国際財務報告基準IFRSに基づく財務会計について学習する。多国籍企業の実際の財務報告書について学ぶとともに、欧米及びアジア、日本におけるIFRSの現状を紹介し、日本の会計基準とIFRSがどのように異なるのか、それは両者が持つどのような考え方から生まれた違いなのかを学習する。IFRSにおける財務諸表の構成、資産・負債の認識と評価、収益認識、利益（純利益、包括利益及びその他の包括利益）の諸概念と認識・測定について、そうした考え方の違いがどのように影響を与えているのかを理解し、IFRSについて体系的な知識を身につける。

到達目標

国際会計基準によって作成された財務報告を理解できるようになること。財務会計学の基礎的知識を前提として、国際社会における事実上の標準となりつつある国際財務報告基準についての理解を深め、多国籍企業における会計について実践的な知識を涵養する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	収益認識
第3回	収益認識(応用)
第4回	セグメント情報
第5回	法人所得税
第6回	キャッシュ・フロー計算書
第7回	理解度の確認テスト
第8回	企業結合
第9回	連結会計
第10回	無形資産
第11回	資産の減損
第12回	引当金、偶発負債・資産
第13回	従業員給付
第14回	IFRSの初年次適用
第15回	まとめ

授業方法

講義形式で行うが、重要な内容については毎回質疑応答を通して理解の確認を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

本講義は、標準的な財務会計学の知識を前提として、国際会計学の知識を獲得するものである。そのため、毎回の授業の準備として、財務会計学の知識の確認が必要になるであろう。また、講義内容については、理解していることを前提として、講義を進めてゆくので、毎回の授業の復習も必要である。事前・事後学習として、おおよそ2－3時間が必要となるであろう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	60 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:40%(授業への積極的参加が必要) 小テスト:60%(中間とまとめの2回行う)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

質疑応答については、その場でフィードバックを行う。中間試験のフィードバックは講義の中でおこなう。まとめのフィードバックは、オンラインで行う。

教科書コメント

教科書については使用せず、教員作成のレジユメ等を利用する。

履修上の注意

ガイダンスを行うので、第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

毎回の講義中に質疑応答を行う。この質疑応答は評価上非常に重要なので、毎回の出席と、毎回の授業準備をきちんと行い、努力の跡が見られる回答が出来るように希望します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220235201	科目ナンバリング	022B366
講義名	企業評価論 I		
副題	コンピュータによる財務分析		
英文科目名	Valuation Theory I		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 西2－303		

授業概要

現代企業の多様な側面を考慮しつつ、優れた企業とはどのような企業かをさぐる。特にその財務的な側面に注目する。毎回コンピュータ実習を伴うので、その心がまえが必要である。

到達目標

経営財務 I で勉強した知識を基に、財務データをコンピュータで処理する技術を学ぶ。持っている知識を目で見える形で利用するので、会計総論で勉強した知識も動員して学ぶ必要がある。最終的には財務データの具体的な意味を理解できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	全体の展望
第2回	企業の絶対的評価について
第3回	FCFとはなにか
第4回	DCF法の基礎1
第5回	DCF法の基礎2
第6回	M&Aとはなにか
第7回	EXCELによる企業評価の基礎1
第8回	EXCELによる企業評価の基礎2
第9回	EXCELによる企業評価の基礎3
第10回	事例による企業の絶対的評価1
第11回	事例による企業の絶対的評価2
第12回	事例による企業の絶対的評価3
第13回	事例による企業の絶対的評価4
第14回	事例による企業の絶対的評価5
第15回	まとめと第1学期課題の解説

授業方法

PCに向かい、毎回作業と課題をこなす授業である。履修登録後、4週にわたってレポート提出アカウントの登録を行う。レポートはすべて、計算機センターのレポート提出システムによるので、この期間内に登録できなかった学生はレポート提出が不可能となり、「アウト！試合終了！」となる。また、授業で扱った内容を、その日の授業終了(14:30)までにレポートシステムへ提出してもらうことが多い。このため、授業にあまり出席できない学生は、不可となることが多い。この意味で、4年生は、この授業をとらないことをすすめる(事実上無理！)。また、友達のをを写して授業終了後、出したりするレポートには、0点をつけている。なお、未完成のレポートを出す学生は、そのレポートに－40点をつけています。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

財務諸表の見方、財務諸表分析の考え方と技術、財務データの意味と扱い方、EXCELの財務での利用、SPSSの操作方法、統計学の基本的知識、企業評価の全体像の理解、というテーマを扱うので、授業での指示に従って予習、復習が必要である。課題を出すのでそれを必ず出すことが要件となる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):70%(授業中に課題を課す。年間20回程度である。)レポート:30%(第1学期、第2学期それぞれ期末レポートを課す。)第1学期末と第2学期末にレポートを課します。また、授業中に行った内容をその日14:30までに提出してもらいます。これがおよそ10回ある。前述の通り、14:30までに提出されても、未完成のレポートを出す学生は、そのレポートに－40点をつけています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させます。

教科書

企業評価の総合的方法, 小山 明宏, 創成社, 2019, 978-4-7944-2533-1

教科書コメント

この教科書(2019年・刊)がないと授業にはついていけないので、注意すること。教科書の例題を私が入力し、画面に従って学生が入力することが多いが、全く入力せず、教科書を読むだけで入力してもらうことも多いので。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

教科書を必ず教室に持参して、授業を受けること。教科書なしで何とか誤魔化そうとして、何人が落ちたかわかりません。特に第1学期のテーマは、教科書がないと、完全に脱落します。教科書なしにただ教室にいて、教員が入力するスクリーンを見て、機械的に入力している学生は、全員に不可がつきます。なお、他学科の学生には、経験的に、単位をとるのは難しい科目のようなので、注意が必要である。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220235301	科目ナンバリング	022B367
講義名	企業評価論Ⅱ		
副題	コンピュータによる財務分析Ⅱ		
英文科目名	Valuation Theory Ⅱ		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 西2－303		

授業概要

現代企業の多様な側面を考慮しつつ、優れた企業とはどのような企業かをさぐる。特にその財務的な側面に注目する。毎回コンピュータ実習を伴うので、その心がまえが必要である。

到達目標

経営財務Ⅰで勉強した知識を基に、財務データをコンピュータで処理する技術を学ぶ。持っている知識を目で見える形で利用するので、会計総論で勉強した知識も動員して学ぶ必要がある。最終的には財務データの具体的な意味を理解できるようになること。

授業内容

実施回	内容
第1回	第2学期の授業の展望
第2回	現代財務諸表分析1
第3回	現代財務諸表分析2
第4回	現代財務諸表分析3
第5回	企業の総合的な評価1
第6回	企業の総合的な評価2
第7回	企業の総合的な評価3
第8回	判別分析とは何か1
第9回	判別分析とは何か2
第10回	SPSSについて
第11回	例題に基づくSPSS(判別分析)による企業評価1
第12回	例題に基づくSPSS(判別分析)による企業評価2
第13回	例題に基づくSPSS(判別分析)による企業評価3
第14回	期末課題の検討1
第15回	期末課題の検討2

授業方法

企業評価論Ⅰの続きとして、PCに向かい、毎回作業と課題をこなす授業である。履修登録後、4週にわたってレポート提出アカウントの登録を行う。レポートはすべて、計算機センターのレポート提出システムによるので、この期間内に登録できなかった学生はレポート提出が不可能となり、「アウト！試合終了！」となる。また、授業で扱った内容を、その日の授業終了(14:30)までにレポートシステムへ提出してもらうことが多い。このため、授業にあまり出席できない学生は、不可となることが多い。この意味で、4年生は、この授業をとらないことをすすめる(事実上無理！)。また、友達のをものを写して授業終了後、出したりするレポートには、0点をつけている。なお、未完成のレポートを出す学生は、そのレポートに－40点をつけています。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

財務諸表の見方、財務諸表分析の考え方と技術、財務データの意味と扱い方、EXCELの財務での利用、SPSSの操作方法、統計学の基本的知識、企業評価の全体像の理解、というテーマを扱うので、授業での指示に従って予習、復習が必要である。課題を出すのでそれを必ず出すことが要件となる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(授業中に課題を課す。10回程度である。)レポート:60%(第1学期、第2学期それぞれ期末レポートを課す。)第1学期末と第2学期末にレポートを課します。また、授業中に行った内容をその日14:30までに提出してもらいます。これがおよそ15回ある。前述の通り、14:30までに提出されても、未完成のレポートを出す学生は、そのレポートに－40点をつけています。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させます。

教科書

企業評価の総合的方法, 小山 明宏, 創成社, 2018

教科書コメント

この教科書(2019年・刊)がないと授業にはついていけないので、注意すること。教科書の例題を私が入力し、画面に従って学生が入力することが多いが、全く入力せず、教科書を読むだけで入力してもらうことも多いので。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

教科書を必ず教室に持参して、授業を受けること。教科書なしで何とか誤魔化そうとして、何人が落ちたかわかりません。特に第1学期のテーマは、教科書がないと、完全に脱落します。教科書なしにただ教室にいて、教員が入力するスクリーンを見て、機械的に入力している学生は、全員に不可がつきます。なお、他学科の学生には、経験的に、単位をとるのは難しい科目のようなので、注意が必要である。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2202371Z1	科目ナンバリング	022D370
講義名	◇マーケティング・リサーチ		
英文科目名	Marketing Research		
担当者名	藤居 誠		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西2-202		

授業概要

マーケティングにおけるリサーチの基礎と役割を理解することを目的とします。マーケティングの分野に関わる調査の実施方法や分析手法の解説と習得が講義の中心的な内容となります。
 主な学習内容としては、①マーケティング・リサーチの基礎と役割の理解 ②統計的分析手法の学習と習得 ③PCを利用したデータ解析実習 ④グループ・ワークによるマーケティング・リサーチの企画立案と調査報告です。

到達目標

マーケティングにおけるリサーチの役割と、リサーチの一連の流れを理解する。
 ワークショップを通じた仮説の構築や共有方法を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業計画の説明
第2回	イントロダクション1: マーケティング・マネジメントとは何か
第3回	イントロダクション2: マーケティング・リサーチとは何か
第4回	マーケティング・リサーチの方法論(1)
第5回	マーケティング・リサーチの方法論(2)
第6回	マーケティング・リサーチの方法論(3)
第7回	マーケティング・リサーチの方法論(4)
第8回	データ集計と解析: データの「代表値」と「ちらばり」
第9回	データ集計と解析: 相関分析
第10回	データ集計と解析: 仮説検証①
第11回	データ集計と解析: 仮説検証② χ^2 二乗検定
第12回	データ集計と解析: 仮説検証③ t検定
第13回	データ集計と解析: 仮説検証④ 分散分析
第14回	データ集計と解析: 仮説検証⑤
第15回	第1学期の復習と第2学期の授業説明
第16回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析①
第17回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析②
第18回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析③
第19回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析④
第20回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析⑤
第21回	マーケティング・リサーチのためのデータ解析⑥
第22回	仮説から考えるリサーチデザイン①
第23回	仮説から考えるリサーチデザイン②
第24回	マーケティング・リサーチのためのワークショップ①
第25回	マーケティング・リサーチのためのワークショップ②
第26回	マーケティング・リサーチのためのワークショップ③
第27回	マーケティング・サイエンス・ワークショップ①
第28回	マーケティング・サイエンス・ワークショップ②
第29回	マーケティング・サイエンス・ワークショップ③
第30回	まとめ

授業計画コメント

データ解析にはエクセルの他、SPSSなど統計解析ツールの利用を予定しています。エクセルやSPSSなどに不慣れな学生でも大丈夫です。操作方法については、適宜解説していきます。
 またマーケティング・リサーチへの理解を深めるため、ワークショップの実施も計画しています。

授業方法

講義形式が中心の授業となりますが、統計的手法のパートについてはPCによる実習、市場調査の演習を行う際にはワークショップや

グループワークも行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時に配布したレジュメの必要部分は読み返し、疑問点をまとめる。
PCで実習した多変量解析の手法・操作については復習し操作になれておくこと。
発表時に受けたコメントや指摘事項は復習し、資料のブラッシュアップに努める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

講義内容の理解は勿論ですが、積極的な授業への出席と参加を希望します。
特にワークショップやグループワークでは途中からの参加ができません。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーをもとに、授業への反映や資料配布を行う。
ワークショップやグループワークによる成果物については、都度授業内でコメントを行う

教科書コメント

教科書は指定しません。授業時にレジュメを配布します。

参考文献コメント

参考文献は授業時に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(15名程度) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

本講義では統計解析ツールを利用した演習も計画していますが、統計に関する事前知識は基本的には必要ありません。
必要に応じて一緒に学習していきます。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220238201	科目ナンバリング	022B374
講義名	流通システム I		
副題	流通機能(流通の具体的なはたらき)を学ぶ		
英文科目名	Distribution System I		
担当者名	田島 博和		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 南1－201		

授業概要

商品の輸送や保管など流通の具体的なはたらきを、流通機能と呼びます。この授業では流通機能について学びます。

到達目標

商的流通や物的流通などの流通機能について理解する。また流通への関心を高め、自分で進んで勉強するようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション・用語の説明
第2回	流通チャネル上の4つの流れ(1) 製品の流れと権利の流れ
第3回	流通チャネル上の4つの流れ(2) 代金の流れと情報の流れ
第4回	生産と消費のギャップ(1) 人的ギャップと距離的ギャップと時間的ギャップ
第5回	生産と消費のギャップ(2) 量的ギャップと質的ギャップ
第6回	商的流通機能(1)
第7回	商的流通機能(2) 在庫リスク
第8回	商的流通機能(3) トレードオフ
第9回	物的流通機能(1)
第10回	物的流通機能(2) 最適輸送量
第11回	物的流通機能(3) SCM
第12回	情報流通機能(1)
第13回	情報流通機能(2) POSシステムとPOSデータ
第14回	情報流通機能(3) CRM
第15回	理解度の確認

授業方法

授業は講義形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

「教科書コメント」で説明するプリントで、しっかり予習・復習して下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験等でフィードバックします。

教科書コメント

講義に用いるパワーポイント資料を、事前に以下のページからダウンロードして下さい。
<http://web.tku.ac.jp/~htajima/lecture.html>

参考文献

新・流通と商業, 鈴木 安昭, 有斐閣, 6, 2016

カリキュラムマップ

以下URLを参照 <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220238301	科目ナンバリング	022B375
講義名	流通システムⅡ		
副題	流通機構(流通業者の活動)を学ぶ		
英文科目名	Distribution System Ⅱ		
担当者名	田島 博和		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 2時限 南1－201		

授業概要

この授業では小売業者や卸売業者などの流通業者について学びます。

到達目標

小売業者や卸売業者などの流通業者について理解する。また流通への関心を高め、自分で進んで勉強するようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション・用語の説明
第2回	流通機能
第3回	小売行為と再販売行為
第4回	小売業
第5回	小売業態
第6回	小売業の商圈(1) 商圈と競争の関係
第7回	小売業の商圈(2) 商圈の計算
第8回	小売業のマーケティング戦略(1) 製品戦略と価格戦略
第9回	小売業のマーケティング戦略(2) コミュニケーション戦略と流通戦略
第10回	小売業の進化
第11回	卸売業
第12回	小売業や卸売業の社会的意義
第13回	メーカーの流通戦略
第14回	国の流通政策
第15回	理解度の確認

授業方法

授業は講義形式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

「教科書コメント」で説明するプリントで、しっかり予習・復習して下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験等でフィードバックします。

教科書コメント

講義に用いるパワーポイント資料を、事前に以下のページからダウンロードして下さい。
<http://web.tku.ac.jp/~htajima/lecture.html>

参考文献

新・流通と商業, 鈴木 安昭, 有斐閣, 6, 2016

カリキュラムマップ

以下URLを参照 <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220239101	科目ナンバリング	022D380
講義名	医療システム論		
副題	医療・介護制度の現状と課題		
英文科目名	Health Economics and Policy		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 西2－306		

授業概要

少子高齢化の進展と経済成長の鈍化に直面する日本にとって、社会保障制度の改革が第一級の国内問題である。この講義では、日本の医療制度・介護制度の現状と課題を理解し、制度改革の在り方について学習する。

到達目標

医療制度、介護制度を理解し、医療制度改革の内容を適切に評価できるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	日本の医療提供体制1:医療機関の特徴
第3回	日本の医療提供体制2:医師・看護師の育成と労働市場
第4回	日本の医療保険制度1:医療費の構造と医療保険体系
第5回	日本の医療保険制度2:混合診療の禁止の是非
第6回	診療報酬制度の特徴:政策手段としての診療報酬
第7回	薬価基準制度の特徴:新薬開発インセンティブと薬剤費抑制
第8回	国民医療費の制御:診療報酬改定率と自己負担
第9回	日本の少子高齢化の動向
第10回	高齢化と医療1:医療費の増加と負担問題(全世代型社会保障)
第11回	高齢化と医療2:地域別の病床再編(地域医療構想)
第12回	介護保険制度1:介護保険制度の特徴
第13回	介護保険制度2:介護保険制度の課題
第14回	高齢化と地域包括ケア
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

医療や介護は若い人たちに関心は薄いかもしれないが、長寿化の著しい日本にとって祖父母、あるいは父母にとって深刻な問題である。また若い世代は、医療・介護の費用負担、労働力負担を負わなくてはならず、他人ごとではない。その意味で「全世代」共通の課題である。

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、復讐は必ず行うこと(1時間程度)。また、関連する書籍や新聞・雑誌を積極的に読むことを進める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	出席をとる
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験では事前に複数の課題を示し、その内2題を出題する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に毎回、質問を受けて課題の理解を深める。学期末試験については試験後に解答と点数分布を公表する。

教科書コメント

毎回、レジュメを配布し、教科書は使用しない。

参考文献コメント

授業中に適宜、紹介する。

履修上の注意

履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2203104Z1	科目ナンバリング	022D650
講義名	◇経営学特殊講義(Excelによるデータ操作とVBA)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Advanced Technique of Excel and VBA (Computer))		
担当者名	竹内 俊子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西1－205		

授業概要

パソコンを使いさまざまなデータ分析・数値解析を行なうことは、経営学の幅広い分野で必須の技術です。この授業では表計算ソフト Excelを駆使してデータ分析・数値解析を行ない、数量的な知見を得られるようになることを目的とします。最初に、分析前のデータの準備に重点をおき、Excelの各種機能について実習します。その後、Excelのさらなる高度な利用をねらい、VBAの初歩を学習します。

到達目標

Excelの機能を利用し、レポートやゼミ発表などに必要となるデータ整理及びデータ分析・数値解析ができるようになることを目標とします。さらに、Excelの標準機能にないさまざまな分析をVBAを用いてできるようになることを目指します。学部学生は問題解決能力を、大学院生は専門的な調査研究をする力を身につけます。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス Excel基本操作の確認
第2回	データの操作1 (外部データの読込、リストの作成)
第3回	データの操作2 (並べ替え、抽出)
第4回	データの加工1 (小計、統合)
第5回	データの加工2 (基本的な式、関数)
第6回	データの加工3 (式、関数、絶対参照)
第7回	データの加工4 (データ分析)
第8回	理解度の確認
第9回	総合練習
第10回	データの分析1 (データの整理)
第11回	データの分析2 (さまざまな関数)
第12回	データの分析3 (グラフの作成)
第13回	データの分析4 (ソルバー)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期の復習
第17回	マクロの記録
第18回	VBの文法1 (基本構造)
第19回	VBの文法2 (制御構造、繰り返し)
第20回	VBの文法3 (制御構造、条件分岐)
第21回	VBAの文法1 (Excel固有のオブジェクト)
第22回	VBAの文法2 (メソッドとプロパティ)
第23回	数値計算プログラム
第24回	ユーザーフォーム、副プログラム
第25回	ワークシート関数の作成
第26回	ワークシート関数の利用
第27回	プログラム作成1 (ワークシート操作)
第28回	プログラム作成2 (数値解析)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業方法

実習形式で行ないます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布した資料の内容を理解し、練習問題をすべて行い、次の授業に臨んでください(約4時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	50 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	練習問題
その他(備考欄を参照)	40 %	課題

成績評価コメント

データ整理及びデータ分析・数値解析の能力とあわせて、学部学生は自ら問題を解決する力を、大学院生は専門的な調査研究をする力を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストや課題の結果については、授業時に口頭、もしくはメールにてコメントします。

教科書コメント

適宜、授業時に資料を配布します。

参考文献コメント

授業開始時に紹介します。

履修上の注意

履修希望者が一定の数を超えた場合には、大学院生を優先し、人数を制限することがありますので、履修希望者は必ず第1回目の授業に出席して下さい。出席していない学生は履修を認められないことがありますので注意して下さい。

その他

Excelの基本操作を習熟していることが必要です。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220310601	科目ナンバリング	022B772
講義名	経営学特殊講義(マーケティングのための多変量解析)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Multi-variate Analysis for Marketing Research(Computer))		
担当者名	山中 寛子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2－303		

授業概要

本講義では、マーケティング・リサーチに必要となる主要な多変量解析の手法(因子分析、クラスター分析、回帰分析)を実習形式で学んでいく。この授業は、実習に重点を置くため、高度な数学や統計の知識がなくても受講が可能である。進め方は、①手法の概要の講義、②研究テーマの決定、③調査計画の作成、④調査の実施、⑤分析と結果の解釈、⑥発表となる。一連のステップは、すべてグループワークで行う。

到達目標

- ・アンケート用紙の作成方法、データの分析方法、分析結果の解釈の仕方を、実習を通じて具体的に学ぶことで、マーケティング・リサーチに関する理解を深める。
- ・統計ソフトの使い方を身に付けることができ、卒業論文をはじめとする研究活動に必要なデータ分析ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	多変量解析とは:多変量解析の概要と1年間で学ぶ分析手法について
第2回	調査票の作成と単純集計の手法、サンプルデータを使用した統計ソフトの操作実習
第3回	重回帰分析とは:重回帰分析の概要と分析方法
第4回	重回帰分析実習(班分けと調査計画の立案)
第5回	重回帰分析実習(調査目的の設定)
第6回	重回帰分析実習(調査票の作成と調査の実施)
第7回	重回帰分析実習(調査データ分析と分析結果の解釈)
第8回	重回帰分析実習(プレゼンテーション)
第9回	因子分析とは:因子分析の概要と分析方法
第10回	因子分析実習(班分けと調査計画の立案)
第11回	因子分析実習(調査目的の設定)
第12回	因子分析実習(調査票の作成と調査の実施)
第13回	因子分析実習(調査データ分析と分析結果の解釈)
第14回	因子分析実習(プレゼンテーション)
第15回	因子分析、重回帰分析実習(レポート執筆の方法)
第16回	前期学習内容の復習(重回帰分析、因子分析)
第17回	クラスター分析とは:クラスター分析の概要と分析方法
第18回	クラスター分析実習(班分けと調査計画の立案)
第19回	クラスター分析実習(調査目的の設定)
第20回	クラスター分析実習(調査票の作成と調査の実施)
第21回	クラスター分析実習(調査データ分析)
第22回	クラスター分析実習(分析結果の解釈)
第23回	クラスター分析実習(プレゼンテーション)
第24回	クラスター分析実習(レポート執筆の方法)
第25回	複数の手法を組み合わせた分析
第26回	複数の手法を組み合わせた分析実習(調査目的の設定)
第27回	複数の手法を組み合わせた分析実習(調査票の作成と実施)
第28回	複数の手法を組み合わせた分析実習(調査データ分析)
第29回	複数の手法を組み合わせた分析実習(分析結果の解釈)
第30回	自主研究

授業方法

各分析の初回は講義形式とする。分析についての一応の理解を得た後に、一層の理解を深めるため、小人数の班に分かれて自主的にテーマを決め、データを集め、分析を行う。分析結果については、班ごとにパワーポイントによる発表を行ってもらう。

使用言語

準備学習(予習・復習)

分析に必要なデータ収集するため、授業時間外にも調査票を配布・回収することがある。
分析結果の解釈の回では、授業内で終了しなかった内容は予習とする(最大2時間程度)。
分析結果の発表の回では、分析方法、結果の解釈について復習を要する(1時間程度)。
分析方法に対する理解度を高めるため、サンプルデータの分析結果を提出してもらう場合がある。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、学習した分析方法の(1)手順が適切かどうか(2)結果の解釈が妥当かどうかで評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワーク中心の授業のため、都度授業内で各グループに対してコメントを行う。
成績評価は、出席と班ごとの実習成果によって評価します。特に実習参加態度を重視する。

教科書コメント

特に定めませんが、必要に応じて授業時に指示します。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修希望者数が一定の数を越えた場合には、人数を制限することがあるので、履修希望者は必ず第一回目の授業に参加すること。出席していない学生は履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2203108Z1	科目ナンバリング	022D670
講義名	◇経営学特殊講義(現代消費論)		
副題	現代消費社会の構造変化を読み解く		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Aspects of Modern Consumption)		
担当者名	青木 幸弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 西2－201		

授業概要

この講義では、消費をめぐる様々な現象について、その歴史的な背景を含めて、多面的且つ構造的に理解するための視点と枠組みを提供する。加えて、求められる企業の対応(特に、マーケティング戦略上の対応)について検討していく。具体的には、まず第1学期に、現代消費社会の断面を幾つかの視点から切り取り、その特徴を整理した上で、消費主体の変化、消費プロセスの変容について検討していく。続く第2学期では、戦後日本の消費の歴史を経時的に概観し、今日に至る流れを理解した上で、消費を巡る最近の変化について議論する。尚、折に触れて、直近の消費実態や企業のマーケティング事例についても、紹介していく予定である。尚、この科目は、学部学生も受講することができる大学院科目であるが、到達目標および成績評価方法は、課程によって異なる。

到達目標

学部学生については、現代消費社会における様々な要因連鎖を体系的に理解し、マーケティング戦略上の対応を考える上での基本的な分析視角を身につける。加えて、博士前期課程の学生の場合は、各領域において重要となる論点や研究課題が指摘できるようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業概要と全体のプレビュー
第2回	現代日本の消費の諸相(1):消費主体を取り巻く環境要因の変化
第3回	現代日本の消費の諸相(2):情報メディア環境の変化と消費
第4回	現代日本の消費の諸相(3):流通(買物)環境の変化と消費
第5回	現代日本の消費の諸相(4):人口構造の変化と消費
第6回	現代日本の消費の諸相(5):経験価値とコト消費
第7回	現代日本の消費の諸相(6):シェアリング・エコノミーの台頭
第8回	消費主体の変化とその影響(1):家族の変化と消費
第9回	消費主体の変化とその影響(2):家計の変化と消費
第10回	消費主体の変化とその影響(3):ライフサイクルの長期化と消費
第11回	消費主体の変化とその影響(4):多様化するライフコースと消費
第12回	消費主体の変化とその影響(5):家事の外部化と消費
第13回	消費主体の変化とその影響(6):価値意識の変化と消費
第14回	消費主体の変化とその影響(7):「世代論」「若者論」再考
第15回	振り返り
第16回	戦後日本の消費の歴史(1):消費の戦後史を振り返る
第17回	戦後日本の消費の歴史(2):三種の神器と消費革命
第18回	戦後日本の消費の歴史(3):テレビの登場とその影響
第19回	戦後日本の消費の歴史(4):住宅・キッチンの変化と消費
第20回	戦後日本の消費の歴史(5):流通革命とその影響
第21回	戦後日本の消費の歴史(6):コンビニ、ファミレス、宅配便の登場
第22回	戦後日本の消費の歴史(7):バブルの発生と崩壊
第23回	戦後日本の消費の歴史(8):格差拡大と中間層の解体
第24回	戦後日本の消費の歴史(9):インターネットの登場とその発展
第25回	消費を巡る新たな変化(1):コンビニの進化と消費
第26回	消費を巡る新たな変化(2):メディアの進化と消費
第27回	消費を巡る新たな変化(3):ネットとリアルの融合
第28回	消費を巡る新たな変化(4):B2CからC2Cへ
第29回	消費を巡る新たな変化(5):新たな価値意識の台頭
第30回	到達度の確認

授業方法

出来得る限り、わが国における消費の実態(その歴史と直近の動向を含む)を多面的に理解してもらうために、映像資料を含む様々

な資料を多用する。また、コメント・ペーパーを用いて、毎回の授業内容に関する理解度を確認しつつ、できる限り双方向での授業を行っていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回配布する講義内容のプリントや関連資料に目を通した上で出席し(予習30分)、また、講義を受けての気づきや疑問、重要と思うポイントをコメント・ペーパーにまとめ、毎回、manaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によって提出すること(復習1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	20 %	各学期末にmanabaにより提出(10%×2)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	manabaによるコメント・ペーパーの提出(毎回)
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート20%(各学期末にレポートを課す。学部学生に対しては、授業内容を十分に踏まえた上で、必要且つ十分な資料を収集し議論を展開することが求められる。加えて、博士前期課程の院生に対しては、独自の視点から更なる研究課題を指摘することが求められる。コメント・ペーパー50%(学部学生に対しては、コメント・ペーパーにより各回の授業内容の理解度を確認する。加えて、博士前期課程の院生に対しては、当該分野に関して重要となる論点の指摘が求められる)。更に、学年末試験においては、基礎的・基本的な概念や分析枠組みが十分に理解できているかについて確認する(学部学生・博士前期課程院生共通)。毎回の授業内容に関してコメント・ペーパーにより意見・疑問等を求め、次回の授業の冒頭においてフィードバックする。従って、毎回の授業に最初から参加することが重要である。また、レポートについては、授業内容を十分に踏まえているか、必要な資料を収集しているか、独自の視点で分析しているか、などの点を重視し採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によりフィードバックする。

教科書コメント

教科書は用いず、毎回、プリントを配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。

参考文献

ライフコース・マーケティング,青木幸弘+女性のライフコース研究会,日本経済新聞出版社,2008,9784641124639

消費者行動の知識,青木幸弘,日本経済新聞出版社,2010,9784532112226

参考文献コメント

その他の参考文献については、授業中に適宜紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

①本講義は大学院(経営学研究科)の授業科目であることから、学部学生が受講する場合には、経営学科の専門基礎科目「マーケティング」および「消費者行動」の単位を修得していることを前提とする。尚、大学院進学に関する経営学研究科の学内推薦基準を満たさない学部学生については、履修が認められない場合がある(ここで言う学内推薦基準とは、『経済学部専門教育科目(専門基礎科目および専門応用科目。但し、演習は含まず)の総平均点が75点以上であること』を指す)。②ICカード・リーダーを用いた毎回の出席確認、manabaによる毎回のコメント・ペーパーの提出、responを用いた授業中アンケートを行う(詳しくは、第1回の授業で説明する)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220310901	科目ナンバリング	022B655
講義名	○経営学特殊講義(ITパスポート)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (IT Passport)		
担当者名	知見 光泰		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 中央－403.第1学期 木曜日 4時限 中央－403		

授業概要

国家資格である「ITパスポート試験」の学習を通じて、IT化された社会で働くすべての職業人に必要となる基本的能力であるIT力を習得するとともに、その成果として「ITパスポート試験」の合格を目指す。

到達目標

IT関連(ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系)の基本的知識を学ぶことで、経済産業省が主催する「ITパスポート試験」に合格できる知識を得る。

授業内容

実施回	内容
第1回	ITパスポート試験の概要・ITパスポート試験の合格のメリット・ITパスポート試験の申込方法
第2回	経営・組織論・OR
第3回	IE・会計・財務
第4回	知的財産権・セキュリティ関連法規・労働関連・取引関連法規・標準化関連・経営戦略手法・マーケティング・ビジネス戦略と目標・評価・経営管理システム
第5回	技術開発戦略の立案・ビジネスシステム・エンジニアリングシステム・e-ビジネス・民生機器・情報システム戦略・業務プロセス・ソリューションビジネス・システム化促進・評価・システム化計画・要件定義・調達計画・実施
第6回	ソフトウェア開発のプロセス・主なソフトウェア開発手法・主なソフトウェア開発モデル・共通フレーム
第7回	プロジェクトマネジメント・サービスマネジメント・サービスサポート・ファンリティマネジメント・システム監査・内部統制
第8回	基数変換・数値表現・文字の表現・集合・論理演算・順列・組合せ・統計
第9回	データ構造・アルゴリズム・その他の言語・プロセッサ・メモリ
第10回	システムの構成・システムの評価指標・オペレーティングシステム・ファイルシステム
第11回	開発ツール・オープンソースソフトウェア・ハードウェア・ヒューマンインタフェース技術・インタフェース設計・マルチメディア技術・マルチメディア応用
第12回	データベース方式・データベース設計・データ操作・ネットワーク方式・通信プロトコル・ネットワーク応用
第13回	情報セキュリティ・情報セキュリティ管理・情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術
第14回	総合演習
第15回	理解度の確認

授業計画コメント

経済産業省主催の「ITパスポート試験」を受験する学生のために、試験対策として4月11日(木)より毎週木曜の3・4時限を使い、講義、答案練習及び模擬試験を行います。

授業方法

講義はテキストの解説および問題演習を中心に行います。各单元ごとにミニテスト及び実力判定テストを実施、理解度をチェックします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習の必要はありませんが、復習として授業内容に該当する問題集の問題を解いてください(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	テキスト、問題集から抜粋した80問
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	12回のミニテストの平均点
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	30 %	4回の実力判定テストの平均点

成績評価コメント

上記各試験の点数にそれぞれの割合を掛けて合計した点数により成績評価を行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ミニテスト、実力判定テストで不正解が多かった問題は、授業内で解説を行います。

教科書

ITパスポート基礎講義実力判定テスト・解答解説集,資格の大原情報処理講座,大原出版,第6版,2019

ITパスポート基礎講義ミニテスト問題&解答解説集,資格の大原情報処理講座,大原出版,第6版,2019

得点アップITパスポートトレーニング問題集,資格の大原情報処理講座,大原出版,改訂4,2019,978-4-86486-637-8

はじめてのITパスポート合格テキスト&例題,資格の大原情報処理講座,大原出版,改訂4,2019,978-4-86486-636-1

履修上の注意

第1回目の授業にて教材の販売日時等を伝えますので、第1回目の授業に必ず参加してください。

なお、当日は3時限、4時限とも同一内容ですので、いずれか一方の参加で構いません。

その他

履修希望者数が一定の数を越えた場合には、人数を制限することがあるので、履修希望者は必ず第1回目の授業に参加すること。

出席していない学生は履修を認められないことがあるので注意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220311201	科目ナンバリング	022B675
講義名	経営学特殊講義(ブランド戦略の理論と実際)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Theory and Practice in Brand Strategy)		
担当者名	乳井 瑞代		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西5－302		

授業概要

本講義では、今や経営戦略の中核に位置づけられているブランド戦略について取り上げ、その基礎的概念と基本的枠組み、及び、手法等について解説していく。また、理論だけでなく、できるだけ具体的なブランド事例を交えながら、ブランド戦略の実務についての理解を促進していく。

到達目標

ブランド戦略に関する基礎的概念や基本的枠組みについて理解できるようになると共に、マーケティングやブランド・マネジメントの実務の一端に触れることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業のガイダンス
第2回	ブランドとは何か①(ブランドとは)
第3回	ブランドとは何か②(ブランドの起源と機能)
第4回	ブランドとは何か③(ブランドの階層性と体系)
第5回	ブランドとは何か④(ブランドと商品の違い)
第6回	ブランド構築の意義と意味①(ブランド構築の意義)
第7回	ブランド構築の意義と意味②(ブランド構築のステップ)
第8回	ブランド力(資産)の創出と活用①(強いブランドとは)
第9回	ブランド力(資産)の創出と活用②(ブランド・エクイティの構成要素)
第10回	ブランド力(資産)の創出と活用③(ブランド拡張)
第11回	ブランド力(資産)の創出と活用④(事例紹介)
第12回	マーケティング・リサーチの基礎概念(基本的なブランド評価指標)
第13回	マーケティング(広告)コミュニケーションの基礎概念
第14回	第1学期のまとめ
第15回	予備日
第16回	ブランド・コミュニケーションの基礎概念①(ブランド・コミュニケーションとは)
第17回	ブランド・コミュニケーションの基礎概念②(ブランド要素とVI戦略)
第18回	ブランド・コミュニケーションの基礎概念③(広義のブランド・コミュニケーション)
第19回	商品ブランド管理①(新規ブランドの構築)
第20回	同上(事例紹介)
第21回	商品ブランド管理②(ロングセラー・ブランドの維持育成)
第22回	同上(事例紹介)
第23回	商品ブランド管理③(特定市場におけるブランド戦略の実際)
第24回	企業ブランド管理①(企業価値経営と企業ブランド管理)
第25回	企業ブランド管理②(ブランド管理組織)
第26回	企業ブランド管理③(事例紹介)
第27回	ブランド戦略の今日的課題①(ブランド経験価値と顧客接点管理)
第28回	ブランド戦略の今日的課題②(グローバル・ブランド管理)
第29回	ブランド戦略の今日的課題③(ブランドを巡る環境変化)
第30回	第2学期のまとめ

授業方法

主として講義形式とするが、必要に応じてブランド事例や広告等の映像資料を用いる。また、第2学期に行うブランド事例紹介では、できるだけ実務家を招いたゲスト講義も行う予定。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

日頃から、国内外の主要なブランドの動向に関心を払うと共に、一消費者として、自分の消費行動やメディア接触行動を客観的に自

己分析しておくこと。毎回のプリントを復習しておくこと(30分程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート	15 %	夏休み明け提出(提出任意)
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	不定期でアンケートや感想文を課す
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

まずは、きちんと授業に出席し、授業の内容を理解すること。学年末試験では、その理解度を確認し、レポートでは、授業で習得した知識を応用し、自分自身でサーベイ・考察する能力を確認する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

上記の評価項目について、学年末に総合的に評価するため、学期途中でのテスト結果やレポート評価のフィードバックは行わない。但し、授業内で行うアンケートや感想文の結果については、逐次、授業の中でフィードバックしていく。

教科書コメント

特定のテキストは用いず、適宜プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業の中で紹介していく。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業中の私語・スマホ使用は厳禁。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220312001	科目ナンバリング	022B621
講義名	経営学特殊講義(ベンチャービジネス概論)		
副題	ベンチャー企業とは何か？		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Entrepreneurship and corporate finance)		
担当者名	水永 政志		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 西5－B1		

授業概要

ベンチャー企業経営の本質を理解すること、すなわち、ベンチャーを立ち上げ、戦略的に経営し、成長に必要なファイナンスをする。またはベンチャー企業に投資をするのに必要な理論的かつ実践的な知識を体系的に取得することを目指します。会社の作り方、ビジネスモデルの作り方、経営戦略上必要な知識、M&A、会社のバリュエーション、ベンチャー企業とファイナンス、資本政策、上場、といった実践的なトピックをとりあげ、総合的な知識を得ることを目的とします。実際の企業経営者、起業家をゲストスピーカーに招き、知識と実践の違いについての橋渡しも狙います。

到達目標

株式会社というものが、法的、経済的、実質的にどのようなフレームで成り立っているか理解し、経営に必要な基礎知識を身につける。実践的には就職して社会に出てから知っておくといわれる経営の知識全般を習得することを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の進め方について、ベンチャー企業概論
第2回	ベンチャー企業とは何か。ベンチャー企業は危険なのか？
第3回	会社を作る。コーポレートガバナンスの本質的な意義は何か。
第4回	ビジネスモデルと経営戦略。「戦略のない企業はない」
第5回	ベンチャー企業の組織論。成長する企業に必要な組織論、組織のリスクとは
第6回	ベンチャービジネスの資金調達。デットファイナンスとエクイティファイナンス
第7回	資本政策と上場、コーポレートガバナンス。「なぜ上場するのですか？」上場の仕組みと実務について
第8回	ベンチャーキャピタルとは？その役割とベンチャー企業側から見た注意点
第9回	企業価値の評価とM&A、MBO。「カインシャってどこで買えるんですか？」
第10回	創業経営者とエクジットストラテジー、日本のベンチャーはアメリカのベンチャーとどう違うのか
第11回	具体的事案(1)実際のベンチャーを分析
第12回	具体的事案(2)実際のベンチャーを分析
第13回	ベンチャーを企業するということ、体験談を含めて
第14回	授業の総括
第15回	予備日

授業計画コメント

ベンチャー企業を起業・経営するのに必要な知識を実践的に網羅します。FBによるコメントおよび質問の提出と、簡単なレポートを実施します。プレゼンテーションしてくれた学生は高く評価に反映します。

授業方法

講義形式とします。フェイスブックでの質疑応答などの交流も試験的に導入しています。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでくると尚良い。(30分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト	30 %	授業の中で案内します。簡単なドリル。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点:30%(出席、プレゼンテーション、発言を考慮します。) レポート:40%(出典を明記して引用可。期間内に提出することが必須。) 小テスト30%。レポート、授業やプレゼンテーションへの参加貢献で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に課題に関連する事項についてコメントします。

教科書

ベンチャーファイナンス実践講義,水永政志,ダイヤモンド社,第1版,2013,978-4-478-02133-0

教科書コメント

授業で使用します。図書館にも収蔵しています。講義にはなるべく持参してください。

参考文献コメント

授業時に指示します。

その他

オリエンテーションを実施しますので、なるべく第1回目授業には参加してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220312101	科目ナンバリング	022B650
講義名	経営学特殊講義(企業と情報システム)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Business and Information System)		
担当者名	砂口 洋毅		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 土曜日 1時限 南1－101		

授業概要

現在，世界が直面している第四次産業革命はあらゆる社会や産業に大きな変革をもたらす．これから社会で活躍する人材は，第四次産業革命がもたらす変革の本質を理解し，変革を実現するICT関連技術が創出する価値と意味について正しく知らなければならない．本講義を通じて，事例とともに第四次産業革命による変革について学び，各国政府の政策や企業の取り組みを知り，イノベーションを創造するための基礎知識を習得する．

到達目標

- ・第四次産業革命の競争優位について，具体的に説明することができる．
- ・第四次産業革命を牽引する代表的なICT関連技術について，概要を説明することができる．
- ・ディスカッションを通じて自分の考えを整理し，適切に伝えるスキルを習得する．

授業内容

実施回	内容
第1回	世界の経済動向と日本の現状
第2回	第一次，第二次，第三次産業革命がもたらした変革
第3回	第四次産業革命とはなにか
第4回	第四次産業革命を支える技術開発動向とビジョン(1) 通信技術・センシング技術・人工知能
第5回	第四次産業革命を支える技術開発動向とビジョン(2) セキュリティ・ソフトウェア
第6回	各国(日米欧中)政府および産業界の対応
第7回	IoT(Internet of Things)がもたらす変革とDX(デジタル・トランスフォーメーション)
第8回	CPS(Cyber-Physical System)がもたらすデータドリブン社会
第9回	「スマート・モビリティ」の現状とビジョン
第10回	「スマート・マニファクチャリング」の現状とビジョン
第11回	あたらしい産業構造(1) プラットフォーム・ビジネスとは
第12回	あたらしい産業構造(2) プラットフォーム・ビジネスの競争優位
第13回	あたらしい産業構造(3) サービタイゼーションとは
第14回	あたらしい産業構造(4) サービタイゼーションの競争優位
第15回	総括

授業計画コメント

基本的に，各回のテーマについて講師が説明をおこなった後，受講生はグループディスカッションと発表，全体討議をおこなう．

授業方法

毎回の講義では，与えられたテーマについてグループディスカッションをおこない，グループごとに発表する．

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の講義で与えるテーマについて，文献や図書，webなどから情報を収集し，自分の意見を整理して小レポートにまとめる．

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	小レポート(A4で1枚以内)を4回提出のこと
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点では，グループディスカッションに参加する積極性，発表への貢献度を評価する．

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワーク中心の授業のため，都度授業内で各グループに対してコメントをおこなう．

教科書コメント

教科書の指定はせず，毎回資料を配布する．

参考文献

第四次産業革命 ダボス会議が予測する未来, クラウス・シュワブ, 日本経済新聞出版社, 2016, 9784532321116

プラットフォーム・レボリューション PLATFORM REVOLUTION 未知の巨大なライバルとの競争に勝つために, ジェフリー・G・パーカー, マーシャル・W・ヴァン・アルスタイン, サンジート・ポール・チョーダリー, ダイヤモンド社, 2018, 9784478100035

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2203124Z1	科目ナンバリング	022D661
講義名	◇経営学特殊講義(税務戦略概論)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Outline on Tax Strategy)		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 東2－101		

授業概要

本年度も、「税金と企業経営」に関する英語文献講読を行い、その後履修者による報告・討議を行う。関連する分野の基礎的な概念を大学院レベルで理解することを目的としている。全ての授業に参加することが期待されている。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理も学ぶ。

到達目標

プランニングアプローチの基礎概念を理解する。個人にも法人にも適用可能な基礎的な概念を学び、税金について考慮した上での企業経営の分析力を身に付けることができる。学部簿記入門程度の知識を前提としている。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、担当決定など
第2回	タックスプランニング概論
第3回	租税法について
第4回	貯蓄形態によるリターンの違い
第5回	組織形態によるリターンの違い
第6回	暗黙の税金(IT)、特定の納税者の行動、アービトラージ、および制度上の規制と市場の摩擦
第7回	非租税コストとタックス・プランニング
第8回	限界税率の重要性とダイナミック・タックス・プランニング
第9回	報酬制度とタックスプランニング
第10回	多国籍企業のタックスプランニングー導入と投資判断
第11回	多国籍企業のタックスプランニングー外国税額控除とインカムシフティング
第12回	履修者による報告(1)
第13回	履修者による報告(2)
第14回	プランニングアプローチのトピック
第15回	総括

授業方法

報告者は担当箇所について要約・説明を行う。また、その後の質疑・応答についても中心的役割を担う。報告者は簡単なレジメを作成すること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	

成績評価コメント

出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する。:95%
大学院生(M)については、研究課題を探索できる基礎ができているか、口頭で試問を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表については授業中にコメントするなどしてフィードバックを行う。

教科書

Taxes and Business Strategy, A Planning Approach,Scholes, Wolfson, Erickson, Maydew and Shevlin,Prentice Hall,Fifth Edition,2015

教科書コメント

上記の洋書(第二版)の翻訳が「税務工学入門」として中央経済社から出版されているが、原書第五版とは異なる部分のあるので注意のこと。教科書以外の文献については適宜指示する。

参考文献コメント

参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

参加希望者は、開講日までに当方に連絡すること。なお、他学部他学科、他大学の学生の履修も歓迎する。なお、経営学研究科の学内推薦基準(※)を満たさない学部学生は履修を認められないことがある。 ※経済学部専門科目(専門基礎科目および専門応用科目。ただし演習は含まない。)の総平均点が75点 以上であること。詳細は当方まで相談のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220312701	科目ナンバリング	022B640
講義名	経営学特殊講義(経営数学入門A)		
副題	役に立つ数学		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Introduction to Business Mathematics)		
担当者名	白田 由香利.市川 収		
単位	1	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 中央－501		

授業概要

本講義では、経営数学1の演習を行なう。模試と解説という形式で行なう。経営数学1では、経営学科の学生が社会に出た際に役に立つ数学を教える。高校までに習った数学とは違い、応用分野と目的が明確であるので、興味をもって学習できると考える。また、昨年までの履修者もそのように評してくれている。講義はグラフィクス教材を用いてビジュアルに数学を説明しているので、分かり易い。

到達目標

指数対数関数を含めた微分の計算ができるようになる(金融数学で指数対数は必須)。 対数微分法が使えるようになる。経営におけるコスト最小化問題などが解けるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第2章 高校数学のレビュー
第2回	第3章 需要と供給の分析
第3回	小テスト1回目(経営数学1)対策模試とその解説
第4回	小テスト1回目(経営数学1)解きなおし
第5回	第4章 国民所得決定問題
第6回	第5章 IS-LM分析
第7回	第7章 微分の演習
第8回	第8章 1変数関数の最適化問題
第9回	第9章 指数と対数の微分演習
第10回	小テスト2回目(経営数学1)対策模試とその解説
第11回	小テスト2回目(経営数学1)解きなおし
第12回	第11章 偏微分の演習
第13回	第12章 多変数関数の最適化問題
第14回	第13章 多変数関数の制約付き最適化問題
第15回	期末試験(経営数学1)対策模試とその解説

授業計画コメント

経営数学1に連動して進めます。

授業方法

授業に関しての疑問質問に対しては、e-Learningシステム Web:HowToSolveIt で回答し、皆さんの疑問解消に努めます。
<http://elearn.nantoka.com/HowToSolveIt/> 使い方を説明します。家で数学の問題を解いていて分からない箇所があった場合、紙の質問票に、解答プロセスを丸移してから、分からない箇所を線で明示して、教員に提出します。全ての教材には解答が付いています。先生からの返事は、音声付回答ビデオ・コンテンツとしてWEBに公開されます。WEB上で、教師の音声を聞きながら、いつでも、回答を見聞きすることが可能となります。ビデオ・コンテンツからは、学生氏名などは消してありますが、学生の個人情報保護の観点から、本URLは外部公開していません。履修者だけ閲覧可能なサイトです。楽しく数学が学べます。模試と解説形式で行います。本講義の模試を受けた人のほうが、明らかに本番の経営数学1のテストで点がよいことが証明されています。模試の正解は、Web:HowToSolveItに載せます。レポートなどの返却は講義中に行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布した計算ドリル問題を解いて計算に慣れておくこと(約30分)。講義後、その日のうちにすぐにノートを読み直して分からない箇所を明確にすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

数回、模試を行います。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(遅刻厳禁)、小テスト模試:40%、レポート:10%(講義中に課題を出します)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は見て、返却します。解答は解説します。

教科書

悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009

教科書コメント

教科書は必須です。

参考文献コメント

他にも、法経図書センターの「白田先生コーナー」にも参考書を用意していますので、参照してください。高校数学の参考書から英語版の大学生用数学テキストまで各種あります。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。経営数学入門ABCDはそのうちの一つしか履修できませんので、CDも受講希望する人は講師に相談してください。経営学科の学生しか履修できません。

その他

白田のサイト <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/> 白田 グラフィクス教材サイト 以下の可視化教材サイトは家からでも見られます。英語で書いたサイトが多いですが、講義では日本語で分かり易く説明しますので安心してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220312702	科目ナンバリング	022B640
講義名	経営学特殊講義(経営数学入門B)		
副題	役に立つ数学		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Introduction to Business Mathematics)		
担当者名	白田 由香利.横田 真秀		
単位	1	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 中央－503		

授業概要

本講義では、経営数学1の演習を行なう。模試と解説という形式で行なう。経営数学1では、経営学科の学生が社会に出た際に役に立つ数学を教える。高校までに習った数学とは違い、応用分野と目的が明確であるので、興味をもって学習できると考える。また、昨年までの履修者もそのように評してくれている。講義はグラフィクス教材を用いてビジュアルに数学を説明しているので、分かり易い。

到達目標

指数対数関数を含めた微分の計算ができるようになる(金融数学で指数対数は必須)。 対数微分法が使えるようになる。経営におけるコスト最小化問題などが解けるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	第2章 高校数学のレビュー
第3回	小テスト1回目(経営数学1)対策模試とその解説
第4回	小テスト1回目(経営数学1)解きなおし
第5回	第4章 国民所得決定問題
第6回	第5章 IS-LM分析
第7回	第7章 微分の演習
第8回	第8章 1変数関数の最適化問題
第9回	第9章 指数と対数の微分演習
第10回	小テスト2回目(経営数学1)対策模試とその解説
第11回	小テスト2回目(経営数学1)解きなおし
第12回	第11章 偏微分の演習
第13回	第12章 多変数関数の最適化問題
第14回	第13章 多変数関数の制約付き最適化問題
第15回	期末試験(経営数学1)対策模試とその解説

授業計画コメント

経営数学1に連動して進めます。

授業方法

授業に関しての疑問質問に対しては、e-Learningシステム Web:HowToSolveIt で回答し、皆さんの疑問解消に努めます。
<http://elearn.nantoka.com/HowToSolveIt/> 使い方を説明します。家で数学の問題を解いていて分からない箇所があった場合、紙の質問票に、解答プロセスを丸移してから、分からない箇所を線で明示して、教員に提出します。全ての教材には解答が付いています。先生からの返事は、音声付回答ビデオ・コンテンツとしてWEBに公開されます。WEB上で、教師の音声を聞きながら、いつでも、回答を見聞きすることが可能となります。ビデオ・コンテンツからは、学生氏名などは消してありますが、学生の個人情報保護の観点から、本URLは外部公開していません。履修者だけ閲覧可能なサイトです。楽しく数学が学べます。模試と解説形式で行います。本講義の模試を受けた人のほうが、明らかに本番の経営数学1のテストで点がよいことが証明されています。模試の正解は、Web:HowToSolveItに載せます。レポートなどの返却は講義中に行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布した計算ドリル問題を解いて計算に慣れておくこと(約30分)。講義後、その日のうちにすぐにノートを読み直して分からない箇所を明確にすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

数回、模試を行います。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(遅刻厳禁)、小テスト模試:40%、レポート:10%(講義中に課題を出します)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は見て、返却します。解答は解説します。

教科書

悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009

教科書コメント

教科書は必須です。

参考文献コメント

他にも、法経図書センターの「白田先生コーナー」にも参考書を用意していますので、参照してください。高校数学の参考書から英語版の大学生用数学テキストまで各種あります。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。経営数学入門ABCDはそのうちの一つしか履修できませんので、CDも受講希望する人は講師に相談してください。経営学科の学生しか履修できません。

その他

白田のサイト <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/> 白田 グラフィクス教材サイト 以下の可視化教材サイトは家からでも見られます。英語で書いたサイトが多いですが、講義では日本語で分かり易く説明しますので安心してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220312703	科目ナンバリング	022B640
講義名	経営学特殊講義(経営数学入門C)		
副題	役に立つ数学		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Introduction to Business Mathematics)		
担当者名	白田 由香利.市川 収		
単位	1	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 中央－501		

授業概要

本講義では、経営数学2の演習を行なう。模試と解説という形式で行なう。経営数学2では、経営学科の学生が社会に出た際に役に立つ数学を教える。高校までに習った数学とは違い、応用分野と目的が明確であるので、興味をもって学習できると考える。また、昨年までの履修者もそのように評してくれている。講義はグラフィクス教材を用いてビジュアルに数学を説明しているので、分かり易い。

到達目標

金利の計算ができるようになる。住宅ローン、リボ払い等。
外国債券の値付けの計算が経過利子も含めてできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第6章 利息と利子に関する問題
第2回	第6章 利息と利子に関する問題
第3回	役に立つ数学 第4章 金利計算
第4回	小テスト1回目(経営数学2)対策模試と解説
第5回	小テスト1回目(経営数学2)解きなおし
第6回	役に立つ数学 第9章女性の人生の15のストーリーを数式で見る
第7回	役に立つ数学 第9章女性の人生の15のストーリーを数式で見る
第8回	小テスト2回目(経営数学2)対策模試と解説
第9回	小テスト2回目(経営数学2)解きなおし
第10回	感じて理解する数学 第5章 金融数学の基本は債券数学
第11回	感じて理解する数学 第6章 動かして理解する債券の株価・利回りカーブ
第12回	経過利子付き外国債券のプライシング
第13回	経過利子付き外国債券のプライシング
第14回	小テスト3回目(経営数学2)の模試と解説
第15回	期末試験(経営数学2)対策模試

授業計画コメント

経営数学2に連動して進めます。

授業方法

授業に関しての疑問質問に対しては、e-Learningシステム Web:HowToSolveIt で回答し、皆さんの疑問解消に努めます。
<http://elearn.nantoka.com/HowToSolveIt/> 使い方を説明します。家で数学の問題を解いていて分からない箇所があった場合、紙の質問票に、解答プロセスを丸移してから、分からない箇所を線で明示して、教員に提出します。全ての教材には解答が付いています。先生からの返事は、音声付回答ビデオ・コンテンツとしてWEBに公開されます。WEB上で、教師の音声を聞きながら、いつでも、回答を見聞きすることが可能となります。ビデオ・コンテンツからは、学生氏名などは消してありますが、学生の個人情報保護の観点から、本URLは外部公開していません。履修者だけ閲覧可能なサイトです。楽しく数学が学べます。模試と解説形式で行います。本講義の模試を受けた人のほうが、明らかに本番の経営数学1のテストで点がよいことが証明されています。模試の正解は、Web:HowToSolveItに載せます。レポートなどの返却は講義中に行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布した計算ドリル問題を解いて計算に慣れておくこと(約30分)。講義後、その日のうちにすぐにノートを読み直して分からない箇所を明確にすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

数回、模試を行います。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(遅刻厳禁) 小テスト、模試:40%, レポート:10%(講義中に課題を出します)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は見て、返却します。解答は解説します。

教科書

大学生のための役に立つ数学,白田由香利, 橋本隆子, 市川収、他,共立出版,2014
 悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009
 感じて理解する数学入門(eBook),白田由香利, 橋本隆子, 飯高茂,オライリージャパン,2012

教科書コメント

教科書は必須です。

参考文献コメント

他にも、法経図書センターの「白田先生コーナー」にも参考書を用意していますので、参照してください。高校数学の参考書から英語版の大学生用数学テキストまで各種あります。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
 経営数学入門ABCDはそのうちの一つしか履修できませんので、受講希望者は講師に相談してください。

その他

白田のサイト <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/> 白田 グラフィクス教材サイト 以下の可視化教材サイトは家からでも見られます。英語で書いたサイトが多いですが、講義では日本語で分かり易く説明しますので安心してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220312704	科目ナンバリング	022B640
講義名	経営学特殊講義(経営数学入門D)		
副題	役に立つ数学		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Introduction to Business Mathematics)		
担当者名	白田 由香利.横田 真秀		
単位	1	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 中央－503		

授業概要

本講義では、経営数学2の演習を行なう。模試と解説という形式で行なう。経営数学2では、経営学科の学生が社会に出た際に役に立つ数学を教える。高校までに習った数学とは違い、応用分野と目的が明確であるので、興味をもって学習できると考える。また、昨年までの履修者もそのように評してくれている。講義はグラフィクス教材を用いてビジュアルに数学を説明しているので、分かり易い。

到達目標

金利の計算ができるようになる。住宅ローン、リボ払い等。
外国債券の値付けの計算が経過利子も含めてできるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	第6章 利息と利子に関する問題
第2回	第6章 利息と利子に関する問題
第3回	役に立つ数学 第4章 金利計算
第4回	小テスト1回目(経営数学2)対策模試と解説
第5回	小テスト1回目(経営数学2)解きなおし
第6回	役に立つ数学 第9章女性の人生の15のストーリーを数式で見る
第7回	役に立つ数学 第9章女性の人生の15のストーリーを数式で見る
第8回	小テスト2回目(経営数学2)対策模試と解説
第9回	小テスト2回目(経営数学2)解きなおし
第10回	感じて理解する数学 第5章 金融数学の基本は債券数学
第11回	感じて理解する数学 第6章 動かして理解する債券の株価・利回りカーブ
第12回	経過利子付き外国債券のプライシング
第13回	経過利子付き外国債券のプライシング
第14回	小テスト3回目(経営数学2)の模試と解説
第15回	期末試験(経営数学2)対策模試

授業計画コメント

経営数学2に連動して進めます。

授業方法

授業に関しての疑問質問に対しては、e-Learningシステム Web:HowToSolveIt で回答し、皆さんの疑問解消に努めます。
<http://elearn.nantoka.com/HowToSolveIt/> 使い方を説明します。家で数学の問題を解いていて分からない箇所があった場合、紙の質問票に、解答プロセスを丸移してから、分からない箇所を線で明示して、教員に提出します。全ての教材には解答が付いています。先生からの返事は、音声付回答ビデオ・コンテンツとしてWEBに公開されます。WEB上で、教師の音声を聞きながら、いつでも、回答を見聞きすることが可能となります。ビデオ・コンテンツからは、学生氏名などは消してありますが、学生の個人情報保護の観点から、本URLは外部公開していません。履修者だけ閲覧可能なサイトです。楽しく数学が学べます。模試と解説形式で行います。本講義の模試を受けた人のほうが、明らかに本番の経営数学1のテストで点がよいことが証明されています。模試の正解は、Web:HowToSolveItに載せます。レポートなどの返却は講義中に行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に配布した計算ドリル問題を解いて計算に慣れておくこと(約30分)。講義後、その日のうちにすぐにノートを読み直して分からない箇所を明確にすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト	40 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

数回、模試を行います。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(遅刻厳禁) 小テスト、模試:40%, レポート:10%(講義中に課題を出します)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題は見て、返却します。解答は解説します。

教科書

大学生のための役に立つ数学,白田由香利, 橋本隆子, 市川収、他,共立出版,2014
 悩める学生のための経済・経営数学入門,白田由香利,共立出版,2009
 感じて理解する数学入門(eBook),白田由香利, 橋本隆子, 飯高茂,オライリージャパン,2012

教科書コメント

教科書は必須です。

参考文献コメント

他にも、法経図書センターの「白田先生コーナー」にも参考書を用意していますので、参照してください。高校数学の参考書から英語版の大学生用数学テキストまで各種あります。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。
 経営数学入門ABCDはそのうちの一つしか履修できませんので、受講希望者は講師に相談してください。

その他

白田のサイト <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/> 白田 グラフィクス教材サイト 以下の可視化教材サイトは家からでも見られます。英語で書いたサイトが多いですが、講義では日本語で分かり易く説明しますので安心してください。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U2203146Z1	科目ナンバリング	022D660
講義名	◇経営学特殊講義(会計実証研究)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: (Empirical Analysis in Accounting)		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 東2－101		

授業概要

本年度も、会計学における重要性が増している会計実証研究に関する文献講読を行う予定である。情報の非対象性、会計情報の契約支援機能、企業価値、会計情報の有用性など、会計が経済の中でどのような機能を果たしているかを考えていくのに有益な授業をめざす。関連する分野の基礎的な概念を大学院レベルで理解することも目的としている。今年度の授業でも日本語のテキストを使用する予定。全ての授業に参加することが期待されている。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理も学ぶ。

到達目標

会計実証分析の基礎を理解し、問題提起やその分析方法について基礎的な提案が行えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、担当決定など
第2回	情報の非対称性と財務会計
第3回	財務会計の契約支援機能
第4回	契約支援機能の実証研究(1)
第5回	契約支援機能の実証研究(2)
第6回	財務会計の意思決定支援機能
第7回	意思決定支援機能の実証研究(1)
第8回	意思決定支援機能の実証研究(2)
第9回	契約支援機能と会計手続き選択
第10回	契約支援機能の実証研究(3)
第11回	契約支援機能の実証研究(4)
第12回	契約支援機能の実証研究(5)
第13回	意思決定支援機能と会計手続き選択
第14回	意思決定支援機能の実証研究(3)
第15回	総括

授業方法

輪読形式による授業

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当部分を読んでおくこと。(約2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する。

成績評価コメント

発表者は事前に十分な予習をしているかどうか、基礎的な概念が理解できているかどうか。大学院(M)については、会計実証研究について全体的な動向を把握し、研究テーマを見出すことができる基礎を学ぶことがポイントである。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表や討論の際に、その都度コメントします。

教科書

財務会計の機能,須田一幸,白桃書房、,3,2004

参考文献コメント

その他の参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

報告者は担当箇所について要約・説明を行う。また、その後の質疑・応答についても中心的役割を担う。報告者は簡単なレジメを作成すること。

その他

大学院レベルの輪読を中心とした授業である。意欲的な学生の参加を期待したい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220314701	科目ナンバリング	022B642
講義名	経営学特殊講義(経営科学実践Ⅰ)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: Practical Management ScienceⅠ		
担当者名	秋葉 淳一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 中央－303		

授業概要

企業経営と言っても一言で言い表すことは難しく、また、必ずしも正解があるわけではない。時代背景や、それぞれの企業の生い立ちや文化、現在のポジショニングによって抱える課題も打つ手も千差万別である。他の企業で成功した戦略が、我が社でも同じように成功する保障はなく、我が社で一度成功した戦略が、再び成功する保障もない。本講義では、正解のない経営問題を事後的に眺め、データや新聞といった様々なソース、企業家の声を元に取り組みなどを検証していく。

受講生が実業の世界をイメージしやすいよう、理論的な枠組みに関する講義と、その実践者による生の声を組み合わせる進めていくのが本講義の特徴である。スタートアップから老舗まで、様々なステージの企業戦略をそれぞれの企業経営者をゲスト講師とし招き、どのようなデータをどう見て、どう処理し、どう生かすことで経営的な意思決定を行なっているのかについて講義してもらう。これからの企業経営に欠かせない科学技術、人工知能を手がけるベンチャー企業の経営者もゲスト講師に招き、人工知能がどのように業務に関わっていくかも、最新の実践をもとにした事例として講義してもらうことで、これからの時代における企業の課題と求められる人材像を考えていく。

本講義では、理論だけでは表現しきれない実際の企業経営を直に感じることで、データを経営情報に変える術について考える。

到達目標

- ・企業経営と戦略をいくつかのステータスの企業で理解する
- ・人工知能の果たす役割についての知識を深める
- ・現実の様々なビジネスモデルに関して理解し、経営者が求める人材像を理解する

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機づけ
第2回	事業立上げ(起業)に向けた環境の把握
第3回	ゲスト講演(Hacobu佐々木社長)
第4回	スタートアップから継続企業への課題
第5回	起業から上場にむけたOKR(Objective and Key Result)
第6回	ゲスト講演(アクセンチュア北川氏)
第7回	企業継続性のための考え方
第8回	老舗企業の優位性と抱える課題
第9回	ゲスト講演(検討中)
第10回	ブランディング戦略の価値の検証
第11回	人工知能を活用するための業務分析
第12回	ゲスト講演(ABEJA岡田社長)
第13回	企業価値(バリエーション)が示すもの
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法

講義形式と様々な企業経営者によるオムニバス授業とする

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特には必要ないが、自身が興味のある企業がどのステージにあるかは理解しておいてもらいたい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業、必要に応じてメールを使用

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220314801	科目ナンバリング	022B643
講義名	経営学特殊講義(経営科学実践Ⅱ)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: Practical Management ScienceⅡ		
担当者名	秋葉 淳一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 南3－401		

授業概要

ビッグデータ、IoT、人工知能の活用によって、第4次産業革命の波が押し寄せる、今まさに激動の時代に我々は生きている。世の中はこれまでとは比べ物にならないスピードで変化する。このような時代にあって、我々に求められていることは、世の中に溢れかえる大量のデータやinformationを、必要なintelligenceに変換し、自らの事業の現状を把握、必要なアクションをすばやく打つことができる高度な分析・実践スキルである。本講義では、この時代背景の中で、良くも悪くも注目されている企業の経営状況を様々な情報ソースからのデータ、情報を様々な側面から分析することで、統計分析のみならず、それに加えて経営として必要な情報と“勘”について考える。経営における“勘”とは何だろうか。できる限り客観的な観点から“勘”を捉えることができれば、事業運営に携わる上で貴重な道筋を得ることができるだろう。講義では、世間的に注目されているいくつかの事業会社をケースとして取り上げ、業界と企業と当該事業会社がとった戦略についての分析を行い、学生自らが経営者だったとしたら、どんな戦略をとるかを一緒に考える、これらをそれぞれ3回一括りとして行う。複数の事例を学ぶことで、理解の度合いを深め、応用力を養う。

到達目標

- ・業界と企業を分析するために必要な情報ソースにアクセスすることができる
- ・現状にたいして打てる戦略を考えることができる
- ・戦略の成功、失敗の要因を理解する
- ・現実の様々なビジネスモデルに関して理解し、経営者が求める人材像を理解する

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機づけ
第2回	業種・企業1(家具・大塚家具)講義
第3回	業種・企業1(家具・大塚家具)グループディスカッション
第4回	業種・企業1(家具・大塚家具)プレゼンテーション＋講評
第5回	業種・企業2(居酒屋・鳥貴族)講義
第6回	業種・企業2(居酒屋・鳥貴族)グループディスカッション＋資料作成
第7回	業種・企業2(居酒屋・鳥貴族)プレゼンテーション＋講評
第8回	業種・企業3(家電量販・ビックカメラ)講義
第9回	業種・企業3(家電量販・ビックカメラ)グループディスカッション＋資料作成
第10回	業種・企業3(家電量販・ビックカメラ)プレゼンテーション＋講評
第11回	業種・企業4(菓子メーカー・カルビー)講義
第12回	業種・企業4(菓子メーカー・カルビー)グループディスカッション＋資料作成
第13回	業種・企業4(菓子メーカー・カルビー)プレゼンテーション＋講評
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法

講義形式と受講生同士のディスカッションによる

準備学習(予習・復習)

特にはないが、自身の興味のある企業が属する業界と事例企業との比較は意識してもらいたい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業、必要に応じてメールを使用

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220315001	科目ナンバリング	022B688
講義名	経営学特殊講義(新興国の企業:5カ国・地域の事例)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: Firms in Emerging Economies: Cases of 5 Countries and Region		
担当者名	渡邊 真理子.井上 直美.川上 桃子.坂口 安紀.藤田 麻衣.星野 妙子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 2時限 西2－506		

授業概要

多様な世界経済を理解することを目的に、新興国5カ国・地域の経済・ビジネスを紹介する。

1. 台湾の企業は、東アジアにおけるグローバルな生産分業の発展と軌を一にして成長を遂げてきた。この講義では、台湾の歴史、政治と経済の発展の歩みを概説したのち、産業の事例(靴とパソコン)、企業の事例(ホンハイ)を用いて、台湾の産業発展の到達点とその特徴への理解を深める。

2. ベトナムの歴史、および政治・経済についての基礎的な理解に立脚しつつ、市場経済化とグローバル化の下での産業発展について理解を深めることを目標とする。授業では、輸出志向産業と内需指向産業それぞれの代表的事例を取り上げ、国有企業、国内民間企業、外資企業それぞれの戦略、および産業発展のプロセスを考察する。

3. ラテンアメリカの新興国メキシコの経済成長の特徴と、経済を牛耳る有力財閥と代表的な輸出製造業である自動車産業の成長の要因を学ぶ。企業や産業が経済環境の変化に応じて構造を変化させてきたことを理解する。

4. ベネズエラでは過去20年「21世紀の社会主義」を標榜した政権のもと国家経済が破綻状態にある。経済破綻の状況およびその背景を理解するとともに、そのなかで企業や人々がどのように活動し、生活しているのかを考える。

5. アフリカの経済・社会概況、事業を行う企業が無視することのできない社会課題、BoP層について理解し、企業が取り組むイノベーションを活用した社会課題の解決を知り、アフリカで事業を行う企業に求められる企業行動の内容と手法を自ら考える事ができるようになる。

到達目標

多様な地域の経済社会の実態を理解し、考えるための手法と知識と身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(渡邊真理子) 台湾1 概況:政治史、経済史(川上桃子)
第2回	台湾2 靴産業とパソコン産業:垂直分業とグローバル分業の発展(川上桃子)
第3回	台湾3 ホンハイ:巨大EMS企業の軌跡(川上桃子)
第4回	ベトナム1 歴史とドイモイ期の政治・経済(藤田麻衣)
第5回	ベトナム2 輸出産業の発展と担い手―繊維・縫製産業から電子産業へ (藤田麻衣)
第6回	ベトナム3 外資企業による国内市場の開拓と国内企業の対応―二輪車産業を中心に (藤田麻衣)
第7回	メキシコ1 経済概論:成長の軌跡と現状(星野妙子)
第8回	メキシコ2 財閥:進化と適応のダイナミズム(星野妙子)
第9回	メキシコ3 自動車産業:輸出製造業の光と影(星野妙子)
第10回	ベネズエラ1 政治経済情勢:経済破綻と国家の崩壊(坂口安紀)
第11回	ベネズエラ2 国営ベネズエラ石油PDVSA:石油産業の特徴と国営会社のジレンマ(坂口安紀)
第12回	ベネズエラ3 経済破綻状況下の企業活動と国民の生存戦略(坂口安紀)
第13回	アフリカ1 アフリカで企業が求められる行動とは？(井上直美)
第14回	アフリカ2 企業が取り組むイノベーションとは？:アフリカで見られるイノベーション(井上直美)
第15回	アフリカ3 デジタル経済とディーセント・ワーク(井上直美) 総括(渡邊真理子)

授業方法

講義形式。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各講師の指定する資料・文献などを読む。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

5か国地域それぞれについて出されるレポートを提出する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生からのコメントペーパーの内容をもとに、授業への反映や資料配付などを行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220315101	科目ナンバリング	022B628
講義名	経営学特殊講義(IoT時代のビジネスデザイン)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: Business design with IoT based		
担当者名	深見 嘉明		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 3時限 中央－402		

授業概要

IoT時代の到来により、あらゆるモノがインターネットに接続されることにより、社会経済のしくみが革新されることが予想されている。革新された社会において事業創造を実現するには、IoT(Internet of Things/モノのインターネット)の本質を理解することが不可欠である。本授業では、講義を通じてあらゆるモノがインターネットに繋がるというIoTの本質とはどのようなものであるかを理解し、その変化をベースに事業創造を行うための理論や知識を理解する。また実習を通じてIoTの本質を踏まえた事業立案に取り組むことにより、事業構想に必要なスキルを身につけることを目指す。

到達目標

- (1) IoTの普及による社会経済への影響を理解する。
- (2) インターネットに「つながる」という状態が、人間の行動や製品・サービスの設計に与える影響について理解する。
- (3) 上記の知識を新規性のある事業計画立案に活用するためのスキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス:事業創造とは何か
第2回	“Connected”の理解(講義)
第3回	“Connected”の設計(実習)
第4回	プラットフォームとエコシステム(講義)
第5回	プラットフォームの競争優位と収益モデル(実習)
第6回	モノが「つながる」ことの影響 (講義)
第7回	IoTによってもたらされた変化とは(実習)
第8回	事業構想の発表(1)
第9回	サービス化とサブスクリプションモデルの影響(講義)
第10回	サービス化による収益源の変化(実習)
第11回	事業構想の発表(2)
第12回	ネットワークを介した協働とイノベーション(講義)
第13回	コラボラティブ・イノベーションをどう実現するか(実習)
第14回	事業構想の発表(3)
第15回	事業の総括とテスト

授業方法

講義形式とグループワークの混合。
各回でどの形式を取るかは、授業内容/Scheduleを参照のこと。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

基本的に講義の翌週に講義内容を踏まえた実習を実施する。それとは別にグループにて事業構想の発表週が設けられている。講義の週では、事前にホームページにアップする講義資料に目を通し、どのような内容が講義されるのかを確認すること(約30分)。講義の後には、翌週の発表資料作成を、グループメンバーと共同して行うこと。(約120分)
実習の後には、授業の中で得たフィードバックを踏まえて発表内容を整理すること。(約60分)
講義と実習で学んだ内容を踏まえ、事業構想の立案をグループで進めておくこと。(120分/週)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークによる実習、事業構想の発表に対しては、授業時間内でコメントによるフィードバックを行う。
レポートについては、学生に返却します。

教科書コメント

特に指定しない。

参考文献

ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書,アレックス・オスターワルダー and イヴ・ピニユー,翔泳社,2012,4798122971

ビジネス・クリエーション! ---アイデアや技術から新しい製品・サービスを創る24ステップ,ビル・オーレット,ダイヤモンド社,2014,4478029156

ジョブ理論ーイノベーションを予測可能にする消費のメカニズム,クレイトン・M. ・クリステンセン, タディ・ホール, カレン・ディロン, デイビッド・S. ダンカン,ハーパーコリンズ・ジャパン,2017,4596551227

参考文献コメント

その他の参考文献については授業の中で紹介します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220315201	科目ナンバリング	022B629
講義名	経営学特殊講義(プラットフォーム戦略)		
英文科目名	Special Lect. on Business Management: Platform strategy		
担当者名	深見 嘉明		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 中央－402		

授業概要

Internet of Things (IoT)はモノがインターネットに接続し、通信することで製品・サービスが創出されるという新たなパラダイムである。またこれはモノが主体として成立・維持される生態系、すなわちエコシステムとも捉えられる。このエコシステムをどう作り上げ、関与していくかというプラットフォーム戦略を考察する。

到達目標

- (1) 情報技術の進化によって生み出される新たなメディアやツールの特性を把握し、社会経済に対する影響を理解する。
- (2) ネットワークインフラストラクチャの設計・ガバナンスのメカニズム、ならびにビジネスモデルを理解する。
- (3) メディアやツールの進化によって可能となった価値創出形態を理解し、各自が価値創出できるための知識や考え方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: 情報エコシステムとはなにか
第2回	AIとデータ流通
第3回	アーキテクチャとプラットフォーム
第4回	スケーラビリティと多面市場
第5回	インターフェイス
第6回	データ連携と技術仕様
第7回	ビッグデータとビジネスモデル
第8回	消費者理解とマーケティング戦略
第9回	プライバシーとトラスト
第10回	シェアリングエコノミーとサービス化
第11回	実空間への拡張と、その戦略
第12回	標準を形作るプラットフォーム
第13回	知的財産管理と利益分配
第14回	競争と共創
第15回	全体の総括

授業計画コメント

情報技術は日進月歩で進化しており、授業期間中に新たなサービスや製品が登場する可能性があります。この授業では、新規的なサービスや製品を積極的に取り上げるため、内容が前後したり、変更されたりする場合があります。

授業方法

ディスカッションを含んだ講義形式。積極的な発言を期待します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

初回で紹介するサービスを普段から利用するとともに、各回のタイトルに関係する製品・サービスについて記事検索等で予習してください。(60分程度)
講義終了後は改めて当該サービスを利用し、講義資料に対する理解を深めてください。(60分程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト	30 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートの結果は、翌年度初めに、Web上に成績階層別の人数比という形で成績が掲示されます。
また、小テストの結果は、各テスト後に平均点と得点分布を示し、講義の中で正解について解説します。小テストの答えは、マークシートによる場合を除いて、すべて学生に返却します。

教科書コメント

教科書は特に指定しません。事前に私のホームページに講義資料をアップし、それに沿って授業を展開していきます。

参考文献

Staying power: Six enduring principles for managing strategy and innovation in an uncertain world (lessons from Microsoft, Apple, Intel, Google, Toyota and more), Staying power: Six enduring principles for managing strategy and innovation in an uncertain world (lessons from Microsoft, Apple, Intel, Google, Toyota and more), Oxford University Press, 2010, 0199657785
創発経営のプラットフォームー協働の情報基盤づくり, 國領二郎, 日本経済新聞出版社, 2011, 4532134137
プラットフォーム・リーダーシップ: イノベーションを導く新しい経営戦略, A. ガワー and M.A. クスマノ, 有斐閣, 2005
デザイン・ルールーモジュール化パワー, C.Y. ボールドウィン and K.B. クラーク, 東洋経済新報社, 2004, 4492521453
プライバシー・バイ・デザイン, 日経BP社, A. カブキアン, 2012, 4822210863

参考文献コメント

その他の参考文献については授業の中で紹介します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照 <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220411101	科目ナンバリング	022B900
講義名	産業事情(現代企業論)		
副題	現代企業の実態とそこで働く人々のメッセージの発信の場		
英文科目名	Industrial Affairs (Modern Corporation)		
担当者名	武石 彰		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西5－303		

授業概要

様々な産業をとりあげ、日本を代表する企業の過去と現在そして未来について、それらの業界、ビジネスの成り立ちと将来について展望を行い、併せて現役ビジネスパーソンの生き様と本音を提示いただく。今回は特に各企業の最前線で活躍している多くの企業人の皆様に、毎回登場していただく予定である。学生諸君とのディスカッションを重視し、「鮮度」と「臨場感」のある授業にしたい。

到達目標

様々な業界で活躍する実務家をゲストに迎え、その講演を聞くことを通じて、各業界、各企業の現実、将来展望を理解し、社会人としての第一歩を踏み出していくための一助としてもらいたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	各業界を代表する企業のビジネスパーソンに登場いただき講義とディスカッションを行うーオリエンテーション
第2回	金融業界1ー 損保(予定・以下同様)
第3回	情報通信ーキャリア
第4回	サービス業ーEC
第5回	電機業界ー電機
第6回	金融業界2ー銀行
第7回	食品業界ー食品・飲料
第8回	ベンチャー企業
第9回	航空業界ー航空
第10回	商社
第11回	鉄道系ー私鉄・JR
第12回	外資系
第13回	非営利ー官公庁・教育
第14回	IT業界
第15回	全体の総括ーキャリアセンター

授業方法

各回とも、各企業の第一線のマネージャーの方々に登場いただき講演ならびにディスカッションを行なう。参考までに、昨年までに登場いただいた企業名(一部)を付記しておきます。1. 鹿島建設、2. 三井物産、3. NTT、4. NHK、5. 高島屋、6. リクルート、7. 新日本石油、8. 三菱UFJ銀行、9. JR東日本、10. 日本生命、11. トヨタ自動車、12. 博報堂、13. ANA等。本年度は、著名な大企業に加え、注目度の高い成長企業にも登場いただく予定です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分なりにウェブサイトで業界研究(30分程度)をして、授業に出席することを強く希望します。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	出席点
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート:60%に加え、出席点:40%について評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として毎回、冒頭にて前回の授業の振り返りと総括を行い、併せて各授業の最後に学生諸君との質疑応答を行う。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220411201	科目ナンバリング	022B907
講義名	産業事情(情報産業)		
副題	イノベーションの経営学		
英文科目名	Industrial Affairs (IT Industry)		
担当者名	児玉 充		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西5－B1		

授業概要

本講義では全ての産業が情報産業となりつつある現代のIT社会において、社会人として必要となる基本的な知識の習得を目指す。特に重視するのは日々のビジネスなどで必要とされる創造的かつ論理的思考力と実践力である。このために、IT・情報通信・家電・ゲーム・エレクトロニクス・半導体・工作機械・自動車・物流などハイテク分野における最新のビジネス課題を解説し、これら分野における最先端企業の革新(イノベーション)のケースを学ぶ。

到達目標

IT環境における企業研究のケースからイノベーションのメカニズムについて学ぶ。そして社会人として必要とされるイノベーション思考のための理論的かつ実践的内容を修得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(授業の流れと成績評価の説明)
第2回	知識力と人間力の形成－イノベーションの重要性
第3回	ビジネスプロフェッショナルと知識創造(1)－ 暗黙知と形式知
第4回	ビジネスプロフェッショナルと知識創造(2)－ 場とイノベーション
第5回	ビジネスプロフェッショナルと知識創造(3)－ ナレッジマネジメントとイノベーション
第6回	ケーススタディ(1)－ ブロードバンド&携帯電話のビジネスイノベーション
第7回	ケーススタディ(2)－ 企業変革とイノベーション
第8回	ケーススタディ(3)－ 製品開発とイノベーション
第9回	ケーススタディ(4)－ 工作機械産業のイノベーション
第10回	ケーススタディ(5)－ 半導体産業のイノベーション
第11回	ケーススタディ(6)－ ゲーム産業のイノベーション
第12回	新たなイノベーション思考(1) － アーキテクチャとシステム思考
第13回	新たなイノベーション思考(2) － オープンアーキテクチャとオープンイノベーション
第14回	理解度の確認(レポート試験)
第15回	総括(振り返り)

授業計画コメント

文系・理系を横断して学べる授業コンテンツを提供する予定です。

授業方法

講義形式による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定する教材について事前に読んでおくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	授業内でのレポートの作成
小テスト	40 %	複数回リアクションペーパーの作成
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト:40% (リアクションペーパー)とレポートの内容により成績評価を行います。レポート:60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストの結果(全体的講評)等については授業期間の中でフィードバックします。

教科書コメント

毎回プリントを配付します。

参考文献コメント

参考文献は適宜指示します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220411301	科目ナンバリング	022B910
講義名	産業事情(通信産業とイノベーション)		
副題	ビジネスモデルイノベーション		
英文科目名	Industrial Affairs: (Communication Industry and Innovation)		
担当者名	児玉 充		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西5－B1		

授業概要

近年、ITの急激な進展を背景に企業を取り巻くビジネス環境が急速に変化しています。本講義では、情報通信技術(Information & Communication Technology: 以下ICT)に関する最先端ビジネス(製品・サービス・ビジネスモデル)を解説すると同時に、ICTと企業戦略との関係及び将来のビジネスモデルイノベーションについて説明します。

到達目標

ICT産業について学び、ビジネスモデルイノベーションについて理解すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(講義の流れと成績評価の説明)
第2回	インターネットイノベーション -破壊的イノベーションを中心に
第3回	ICTとプラットフォーム戦略 -マイクロソフトとアップルを中心に
第4回	インターネット戦略 -マイクロソフトの戦略転換を中心に
第5回	日本のインターネット革新 - 光化へのロードマップとイノベーション
第6回	ブロードバンドのビジネスモデル(1)- 動画配信ビジネスを中心に
第7回	ブロードバンドのビジネスモデル(2)- 電子書籍ビジネスを中心に
第8回	モバイルブロードバンドのプラットフォーム -技術とサービスイノベーションの進化
第9回	モバイルブロードバンドとビジネスモデル - M2M・IoTなどサービスイノベーションを中心に
第10回	音楽配信とスマートフォンのビジネスイノベーション -アップルの戦略転換を中心に
第11回	ブロードバンドコミュニケーション(1) -コミュニケーション&コラボレーションの革新
第12回	ブロードバンドコミュニケーション(2) -ビジネス、教育、医療、福祉分野へのインパクト
第13回	ICTと企業経営 - ネットワーク組織とコミュニティ戦略
第14回	理解度の確認(レポート試験)
第15回	総括(振り返り)

授業計画コメント

文系・理系を横断して学べる授業コンテンツを提供する予定です。

授業方法

講義形式による。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定した教材について、事前に読んでおくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト	40 %	複数回リアクションペーパーの作成
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

小テスト:40% (リアクションペーパー)とレポートの内容により成績評価を行います。レポート:60%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テストの結果(全体的な講評)等については授業期間の中でフィードバックします。

教科書コメント

毎回プリントを配付します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220411501	科目ナンバリング	022B903
講義名	産業事情(日用雑貨業界)		
英文科目名	Industrial Affairs: (Household and Personal Care Products Industry)		
担当者名	榊原 健郎		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 西5－303		

授業概要

この講義では、日頃皆さんの周りにある日用雑貨製品(例えば、洗剤、歯磨、シャンプー等)や一般用医薬品を中心に、メーカーがどのようにマーケティング活動を行っているか、について、各回事例を織り交ぜて分かりやすく説明します。授業は、基本的に講義形式で進めますが、皆さんとのコミュニケーションを通じて、主に日用雑貨製品の事例を通じて、マーケティングの基礎理論・考え方をより深く理解できるように進めていきます。

到達目標

消費財(主に日用雑貨製品)に係るマーケティングの事例をもとに、マーケティング理論の理解を深めるとともに、マーケターとしての視点・考える枠組みを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	日用雑貨業界の概要について
第2回	日用雑貨の市場をどのように捉えるか(市場規模と市場細分化)
第3回	お客様は日用雑貨製品をなぜ買うのか(消費者行動とマーケティング)
第4回	日用雑貨の流通はどのような構造か(流通構造)
第5回	どのように商品は企画開発されるのか(1)(商品開発プロセス)
第6回	どのように商品は企画開発されるのか(2)(製品政策)
第7回	どのように商品は企画開発されるのか(3)(価格政策)
第8回	どのように商品は企画開発されるのか(4)(チャネル政策)
第9回	どのように商品は企画開発されるのか(5)(プロモーション政策)
第10回	事例研究(1)
第11回	日用雑貨業界の競争状況をどのように捉えるか(業界構造分析)
第12回	競争に勝つためのマーケティング戦略とは(競争戦略とマーケティング)
第13回	事例研究(2)
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り

授業計画コメント

実際の現場でどのようにマーケティング活動がなされているか、を理論に即して具体的事例を参考に講義するとともに、マーケターとしての「ものの見方・考え方」についても考えていきます。教科書は特に指定しませんが、授業中に示す参考文献等によるマーケティングに係る基礎知識の習得をお薦めします。

授業方法

授業は「講義形式」で進めます。疑問に感じたこと、分からないこと、トピックスの解説等、遠慮なく質問してください。皆さんのとの意見交換を通じて、有意義な授業にしていきたいと思います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布する資料及び各回のテーマに即した参考文献を読み、授業後内容を必ず復習(約1時間程度)すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートの課題等の詳細、レポート作成に当り必要な研究倫理、及びレポートの評価ポイントについては、授業内で説明します。レポートの評点及びクラス参加の状況(出席状況含む)に基づき、総合的に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

皆さんからの質問・意見及びコメント・ペーパーの内容をもとに、授業内容への反映や適宜資料配布等を行います。

参考文献

ケースに学ぶマーケティング, 青木幸弘, 有斐閣, 2015, 978-4641184268

マーケティング戦略, 和田充夫、恩蔵直人、三浦俊彦, 有斐閣アルマ, 5, 2016, 978-4641220782

マーケティングの基本のはなし, 松井剛, 河出書房新社, 2018, 978-4309248837

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220411701	科目ナンバリング	022B905
講義名	産業事情(アート・ビジネスⅠ)		
英文科目名	Industrial Affairs (Art Business Ⅰ)		
担当者名	沢辺 満智子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 水曜日 1時限 西1-314		

授業概要

文化・芸術の維持、発展、更にその価値付けを巡って、文化芸術と企業・自治体との関係は多様な形態が存在している。本講義では、企業等の個別具体的な芸術に関わる様々な実践を取り上げながら、文化芸術と企業・産業社会との関係について考察していく。講義はディスカッションを中心としたインターアクティブな形をとり、また学生自身のフィールドワークや調査に基づくプレゼンテーションを含める。そのため学生には主体的に授業作りに参画する意思と、事前の予習復習を求める。

到達目標

一見、文化芸術と関わりがないと思われる産業・ビジネスなどにおいても、アートが潜在させるクリエイティブな思考法などは、ますます様々な分野において重要性が増してきている。アートに関わるビジネスを、単に”特殊なもの”の流通をめぐる領域として捉えるのではなく、多様な問題にアートを関連づけて考えられるようなきっかけを作ってほしい。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	アートとは何か？-現代社会におけるアートの意義の多様性
第3回	アートマーケットの構成要素
第4回	企業とアートの関係性 パトロン/CSR/パートナーシップ
第5回	パトロンの事例:企業コレクションとしての日本の美術館
第6回	パトロンの事例:企業コレクションとしての海外の美術館
第7回	CSRの事例:企業による芸術支援-日本・海外の比較
第8回	CSRの事例:企業による芸術支援-日本・海外の比較
第9回	パートナーシップの事例:ビジネスとアート
第10回	パートナーシップの事例:ビジネスとアート
第11回	行政とアート:日本の文化芸術支援策(文化芸術基本法)
第12回	アートを生かした観光・地域活性・創造都市:金沢の事例から
第13回	アートを生かした観光・地域活性・創造都市:ボローニャの事例から
第14回	観光資源としての美術館
第15回	総論

授業方法

講義はディスカッションを中心としたインターアクティブな形をとり、また学生自身のフィールドワークや調査に基づくプレゼンテーションを含める。そのため学生には事前の予習復習を求める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。(約30分)該当箇所については授業内にて適宜事前に教員が知らせる。また、履修者は授業内に数回プレゼンテーション発表が求められることがあるが、それにあたっては各自資料を準備する必要がある。(約60分～)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

テーマ毎に行われるディスカッションへ積極的に参加し、自ら講義作りに貢献する姿勢を高く評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業では学生にケーススタディーの発表をしてもらうが、それに対するフィードバックは授業内において基本的に行う。

参考文献

「衣・食・住・アート」の日本を目指してーいまから始める芸術産業論,柴山哲治,マリア書房,2013

創造都市への挑戦 産業と文化の息づく街へ,佐々木雅幸,岩波書店,2012

その他

芸術と社会との関わりについて関心を持つ学生を広く歓迎します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220411901	科目ナンバリング	022B940
講義名	産業事情(オムニチャネル戦略)		
英文科目名	Industrial Affairs:Omni-Channel Retailing		
担当者名	秋葉 淳一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 西2－505		

授業概要

今後のビジネスモデルを考える際に、「オムニチャネルリテイリング」は重要なキーワードの1つであると言える。オムニチャネルリテイリングでは、ロジスティクスにおけるサービス向上が競合他社との差別化を促し、競争力強化につながるだけでなく、そこから得られたデータがマーケティング部門で活用され、新たなサービスの創出や商品開発に繋がっていく。さらにはロジスティクスそれ自体が新たなビジネスモデルを生む大きな可能性を秘めているのである。オムニチャネルリテイリングとは、変化する消費者の購買行動に対応するために乗り越えるべき壁なのではなく、むしろ、様々なサービスや商品、ビジネスモデルを生む好機に満ち溢れた環境と捉えることができる。本講義では、オムニチャネルの基本概念を理解し、ロジスティクスがそこで果たす機能的な役割について考える。さらに、ゲスト講師を招いての事例や最新のロジスティクスの動きを通して、オムニチャネルリテイリングにおけるロジスティクスの重要性について考察する。

到達目標

- ・オムニチャネルの基本概念を理解する
- ・オムニチャネルリテイリングにおけるロジスティクスの重要性について理解する
- ・現実の様々なリテイリングサービスに関して、顧客接点、ロジスティクスという観点からもそれぞれの企業の強さ・課題を洞察することができる

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機づけ
第2回	身の回りの様々なリテイリングサービス
第3回	個人の行動から見たリテイリングサービスとの接点
第4回	オムニチャネルとは
第5回	顧客から見た価値
第6回	オムニチャネル戦略に求められるプラットフォーム(with/アッカインターナショナル加藤社長)
第7回	オムニチャネルで必要とされるITとデータ
第8回	オムニチャネルを実現するロジスティクス
第9回	求められるデータとシステム(with/ダイアログ方志社長)
第10回	事例分析1:SPAの事例
第11回	事例分析2:ネット通販の事例
第12回	演習課題(XXXのオムニチャネル戦略を考える)グループワーク(ディスカッション+資料作成)
第13回	演習課題(XXXのオムニチャネル戦略を考える)プレゼンテーション+講評
第14回	まとめと復習
第15回	予備日

授業方法

講義形式による。ゲスト講師を招くこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特に予習、復習は不要ですが、普段の生活の中で小売業の商売、オペレーションを意識してもらえると理解が進むと思われる

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中あるいはメール

参考文献

オムニチャネル時代を勝ち抜く 物流改革の教科書,秋葉淳一 渡辺重光 共著,幻冬社,2014

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220412001	科目ナンバリング	022B941
講義名	産業事情(経営とロジスティクス)		
英文科目名	Industrial Affairs:Logistics Management		
担当者名	秋葉 淳一		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西5－301		

授業概要

あらゆるものがネットにつながるIoT(Internet of Things)時代の到来によって、日本の物流は転換期を迎えている。その端緒となったのは、インターネット通販市場の拡大である。今や、16兆円を超える市場規模となったインターネット通販は、消費者に、商品選択の豊かさと便利さをもたらした。ところが、消費者にとっての利便性が向上する一方で、長時間労働、人手不足、輸送コストの増大など物流に関わる企業の負担は増え続けている。物流の効率化は多くの企業にとって急務の課題なのである。このような負の課題解消という視点のみならず、そもそも、現代の企業競争を決する重要な要因の一つが、物流である。人工知能の経験値に直結するIoT時代においては、単に削減すべきコストセンターとして見るのではなく、むしろ、顧客の付加価値を生み出すための戦略的要因として位置付けなければならない。本講義では、物流を単なる地点間輸送ではなく、企業経営の生命線であるロジスティクスと捉えて重要性を理解する。さらに、多くの事例分析を通して、新たな技術によってドラスティックに変化するロジスティクスに関わる業界のこれからについて考える。

到達目標

- ・現代の企業経営、戦略におけるロジスティクスの重要性を理解する
- ・物流業界における新技術導入の動向を知る
- ・現実の様々なビジネスモデルに関して、ロジスティクスという観点からもその重要性和課題を洞察することができる

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機づけ
第2回	市場動向と物流業界の現状
第3回	物流を激変させるIoTとロボティクスのインパクト(with/GROUND宮田社長)
第4回	ケーススタディ:最先端テクノロジーの導入(動画による事例紹介)
第5回	災害とロジスティクス
第6回	ロジスティクスにおけるデータの価値1(ボードゲームを使用した理解)
第7回	ロジスティクスにおけるデータの価値2(ボードゲームを使用した理解)
第8回	経営に与えるロジスティクスの影響
第9回	事例で見るロジスティクス改革とその効果
第10回	ロジスティクスが創出する新たなビジネスモデル
第11回	サブスクリプションによるビジネス(with/airCloset 天沼社長)
第12回	未来のロジスティクス
第13回	世界の状況と日本の抱える本質的な課題
第14回	総括(試験にむけて)
第15回	予備日

授業方法

講義形式による。ゲスト講師を招くこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特にはないが、身の回りのロジスティクスが何かは興味をもってもらいたい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業、必要の応じてメールを使用

参考文献

IoT 時代のロジスティクス戦略,秋葉淳一 渡辺重光 共著,幻冬社,2016

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500101	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	武石 彰		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南1－306		

授業概要

この授業は、現代の経済社会で重要性を増しているイノベーションについて、その歴史を学びながら、イノベーションの特質とプロセスや企業経営における影響や課題を理解し、考えるためのものである。主として映像教材を用いながら、米欧で生み出され、世界を大きく変えた主要なイノベーションの事例について学び、議論していく。

到達目標

イノベーションとはどのようなものか、どのようにして生み出されていくものか、経済社会、企業経営に対してどのような影響を及ぼすものか。これらのことについて理解した上で、イノベーションについて自ら考え、取り組むための基本的な知識を身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	ラジオの誕生とFMの革新(1)(映像教材の視聴とディスカッション)
第3回	ラジオの誕生とFMの革新(2)(映像教材の視聴とディスカッション)、グループワークの課題説明
第4回	イノベーションとは(レクチャー)
第5回	電話の誕生(映像教材の視聴とディスカッション)
第6回	電気の時代(映像教材の視聴とディスカッション)
第7回	カメラの鬼才(映像教材の視聴とディスカッション)
第8回	トランジスターの誕生(映像教材の視聴とディスカッション)
第9回	シリコンバレー(映像教材の視聴とディスカッション)
第10回	パソコンの歴史(1)(映像教材の視聴とディスカッション)
第11回	パソコンの歴史(2)(映像教材の視聴とディスカッション)
第12回	ビール(映像教材の視聴とディスカッション)
第13回	遺伝子組み換え食品(映像教材の視聴とディスカッション)
第14回	グループワーク報告
第15回	イノベーションとは(レクチャー、ディスカッション)

授業計画コメント

授業の内容、進め方、スケジュールは、履修者の人数を踏まえて、再調整する可能性がある。

授業方法

映像教材の視聴とその内容についてのディスカッション、教員によるレクチャー、映像教材に関わるグループワークによるケース分析を中心にして進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り上げる事例について、可能な範囲で事前の予備学習を行っておく。グループワークによりケース分析を進め、14回目のクラスでの報告を準備する。また、イノベーションについてどのように理解し、どのように考えたか、全体を総括した個人レポートを用意し、期末に提出する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	グループワークレポート、個人レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	出席、ディスカッション、グループワークの成果
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、設定された課題に対して的確に考察できているか、それを的確に記述できているかを基準に評価する。グループワークは設定された課題に対して、的確に考察できているか、それを的確に報告・記述できているか、それらの作業をグループとしての確に進めることができているか、を基準に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート、グループワークについては、その内容についてその場で、もしくは事後にコメントする。

参考文献

イノベーションと企業家精神,P.ドラッカー,ダイヤモンド社,2007,9784478000649

参考文献コメント

その他の参考資料・文献については授業中に説明する。

履修上の注意

初回の授業に必ず出席すること。もしやむをえない事情で出席できない場合には、初回の授業の前にメールなどで担当教員に必ず連絡すること。

その他

担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500102	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 中央－505		

授業概要

経済全般に関する時事問題から興味のある対象を自由に選び、それぞれに課題を見つけて問題を検討します。4人程度のグループに分かれて、テーマ設定、資料収集、分析、資料作成、研究発表を行います。研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も実施します。

到達目標

テーマ選定から研究発表までの一連の流れを身に付ける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション(自己紹介、グループ分け)
第2回	基礎ガイダンス(資料収集方法、発表資料作成時の適切な引用の仕方等)
第3回	グループワーク(テーマ選定)
第4回	グループワーク(構成決め)
第5回	グループワーク(資料収集①)
第6回	グループワーク(資料収集②)
第7回	グループワーク(資料作成①)
第8回	グループワーク(資料作成②)
第9回	グループワーク(資料作成③)
第10回	グループワーク(プレゼン練習①)
第11回	グループワーク(プレゼン練習①)
第12回	研究発表(1)
第13回	研究発表(2)
第14回	総括
第15回	到達度確認

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にグループ発表の準備をすること(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	発表資料の内容が評価の対象となる。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	グループワークへの参加姿勢、発言内容等が評価の対象となる。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内での発表やグループワークでのディスカッションにおいて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行います。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。
履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500103	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	コンビニから学ぶマーケティングの基礎		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	青木 幸弘		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 西2－506		

授業概要

本演習では、題材としてコンビニエンス・ストア業界を選び、現代マーケティングの基礎知識について、グループ研究を通して学んでいく。また、グループ研究の中で、ケース研究のための情報の収集や分析、プレゼンテーションのスキルを獲得することも目指す(1年次の演習として、レポート作成時における適切な引用の仕方など、初歩的な研究倫理についても学ぶ)。

到達目標

主にマーケティング面を中心に企業経営の基礎知識を習得する。また、グループワークで研究課題に取り組むことで、2年次以降の演習等において、高度な課題を達成する能力が身につくようにする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業計画とグループ編成
第2回	マーケティングの基礎を学ぶ(1):マーケティングとは何か
第3回	マーケティングの基礎を学ぶ(2):マーケティング戦略の基本(STP+4P)
第4回	コンビニの歴史を学ぶ(1):コンビニエンス・ストアの誕生
第5回	コンビニの歴史を学ぶ(2):進化を遂げる日本のコンビニ
第6回	グループ研究発表(1):コンビニ各社の戦略比較①
第7回	コンビニの現状を分析する(1):出店戦略
第8回	コンビニの現状を分析する(2):商品戦略
第9回	コンビニの現状を分析する(3):情報化戦略
第10回	グループ研究発表(2):コンビニ各社の戦略比較②
第11回	消費者の変化を考える(1):若者層の変化
第12回	消費者の変化を考える(2):シニア・主婦層の変化
第13回	グループ研究発表(3):コンビニ各社の戦略評価
第14回	グループ研究発表(4):全体討議
第15回	自主研究

授業方法

グループ研究も含めて授業を進めていく(このため授業時間以外にもグループ作業の時間が必要になる)。映像資料なども多用し、コンビニの歴史や現状が理解出来るように工夫し、グループ研究をサポートしていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布資料や関連資料に目を通し、重要なポイントを把握・理解しておくこと。また、指示に従って、事前の課題に取り組み、報告の準備をしておくこと(1時間)。また、講義や討議を受けての気づきや疑問点、重要と思うポイントをコメント・ペーパーにまとめ、毎回、manaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によって提出すること(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	グループ研究の成果を踏まえて、学期末にレポートを提出する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	毎回の授業におけるコメント・ペーパー、グループ研究の発表内容によって評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回の授業への出席とコメント・ペーパーの提出、グループ研究に関する発表内容、そして学期末に個人ベースで提出するレポートの内容によつて成績評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によってフィードバックする。

教科書コメント

授業中に、適宜、プリントや関連資料を配布する。

その他

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500104	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	会計の初歩と大学教育への導入		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 東2－101		

授業概要

はじめに教科書を輪読する形で企業の財務諸表を大づかみに理解する手法を学ぶ。その後、経済雑誌から興味のある記事を選び、パワーポイントを使用して、発表・質疑応答を行う。後半は、企業経営や経済に関するトピックについて、ディベートを行う予定。2年生以上の演習と異なり、企業価値評価や株式投資に関することは直接扱わないので、注意のこと。また、図書センターのガイダンスを行い、資料検索や正しい引用の仕方など研究者倫理を学ぶ。

到達目標

大学における発表、議論の方法について学び、授業でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。また、経済雑誌の記事を読んで理解・発表ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 自己紹介 日程調整 研究者倫理について学ぶ
第2回	リーダーに必要な”ドンブリ勘定”
第3回	会計情報で世の中を鳥瞰する
第4回	ビジネスモデルを大まかに読む
第5回	会計で会社を立て直す
第6回	売上を伸ばすための企業リサーチ術
第7回	ビジネスプランをラフに描く
第8回	経済雑誌記事についての発表(1)
第9回	経済雑誌記事についての発表(2)
第10回	エレクトロニクス・IT業界の財務諸表
第11回	自動車業界の財務諸表
第12回	ディベート(1)
第13回	小売り業界の財務諸表
第14回	ディベート(2)
第15回	全体の総括

授業方法

少人数の演習形式の授業であり、参加者の積極的な発言・行動を期待する。グループディスカッション、グループワークを用いたアクティブラーニングを実践する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	

成績評価コメント

出席・授業参加時の発表・発言などを総合的に判断。:95％
発表の際、十分な準備をしているかどうか、また、授業に積極的に参加しているかどうかポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてはその都度コメントします。

教科書

経営の大局をつかむ会計:光文社新書,山根節,光文社,2005

「儲かる会社」の財務諸表：光文社新書,山根節,光文社 ,2015

教科書コメント

教科書は1回目から使用するため、予め購入しておくこと。

参考文献

ディベート入門：日経文庫,北岡俊明,日本経済新聞社,2000

頭を鍛えるディベート入門：ブルーバックス,松本茂,講談社,2005

参考文献コメント

この他の参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500105	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 東2－702		

授業概要

大学生活へのスムーズな接続ということを念頭において、仲間づくりと基礎スキルの修得を行います。3～4名程度のグループに分かれて、経営学的なトピックの中から興味あるものを選び、課題を設定して個人単位およびグループ単位で研究と発表を行います。なお、本演習では、研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も行います。

到達目標

(1)大学生活に慣れ、仲間ができる。(2)テーマの選定から研究発表までの一連の流れを身に付ける。(3)大学生活で取り組むべき研究課題への糸口がつかめる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:アイスブレイカーや自己紹介で場づくり
第2回	イントロダクション:グループワーク(研修ゲーム)でチームビルディング
第3回	リサーチ課題の設定と図書館、データベースの使い方
第4回	レポートのまとめ方
第5回	アウトライン作成とプレゼンテーション準備
第6回	個人発表
第7回	定性的なものの見方
第8回	定量的なものの見方
第9回	定性・定量分析演習
第10回	グループワーク(テーマ選定と研究内容のディスカッション)
第11回	グループワーク(資料収集と資料作成)
第12回	グループワーク(資料作成と発表打ち合わせ)
第13回	グループ研究発表とディスカッション
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法

グループワークを中心に授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に発表の準備をしておくこと(最低でも2時間程度は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	発表や資料の内容により評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	クラス参加、グループ作業の成果等
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメント付与の上返却する。また、プレゼンテーションについては、都度授業内にコメントでフィードバックを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500106	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	国際経営入門		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 5時限 東2－103		

授業概要

経営入門演習とはいっても、ちょっとアドバンスな、国際経営入門という話をする。また、レポートの書き方、特に、参考文献などの挙げかたを指導する。これがないと「盗作」になるので、そうならないための指導をします。

到達目標

企業経営って何だろう、という意識を持てるようになることが重要である。経営学の勉強の出発点に立てること。

授業内容

実施回	内容
第1回	経営学とは何か
第2回	国際経営入門1
第3回	国際経営入門2
第4回	海外での企業経営1(アジア1)
第5回	海外での企業経営1(アジア2)
第6回	海外での企業経営1(アジア3)
第7回	海外での企業経営2(南米1)
第8回	海外での企業経営2(南米2)
第9回	海外での企業経営2(南米3)
第10回	海外での企業経営3(ヨーロッパ1)
第11回	海外での企業経営3(ヨーロッパ2)
第12回	海外での企業経営3(ヨーロッパ3)
第13回	海外での企業経営4(東欧1)
第14回	海外での企業経営4(東欧2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

レポートの書き方、特に、参考文献などの挙げかたを指導する。これがないと「盗作」になるので、そうならないための指導をします。

授業方法

最初は私が解説し、国際経営入門の話をする。次いで、参加者によるレポートという形をとる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

企業経営のコンポーネントにはどのようなものがあるのかを、常に考えることが重要である。授業中に議論したことを復習し、次の授業でのディスカッションに生かせること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%(分担した報告をきちんとこなすこと。) レポーターをきちんとこなすこと。それができれば単位取得となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

教科書

海外経営の鉄則,山崎克雄,講談社現代新書,2007

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500107	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 西2－203		

授業概要

(前半)ビジネスや日々の生活で直面する様々な問題に対処するために有用な3つの思考法－創造的思考、論理的思考、システム思考－に関する手法やフレームワークを紹介し、グループ演習で課題に取り組むことで理解を深めます。また、これらの演習を通じて、多様な意見や価値観を持つ仲間と協働し、成果を共創することの意義や面白さを体得してほしいと考えています。
(後半)経営学に関する文献の輪読を行います。(実際の課題図書は、履修者の興味関心に応じて決めます。)これから大学で勉強や研究をしていくために必要となる、文献の読み方、プレゼンテーションやディスカッションのしかたの基礎を身に付けます。

到達目標

- (1) 一緒に勉強していく仲間をつくる。
- (2) 創造的思考、論理的思考、システム思考に関する手法やフレームワークを習得し、必要に応じて使えるようになる。
- (3) 文献の読み方、プレゼンテーションやディスカッションのしかたを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクションと自己紹介
第2回	グループ演習(1)
第3回	グループ演習(2)
第4回	グループ演習(3)
第5回	グループ演習(4)
第6回	グループ演習(5)
第7回	グループ演習(6)
第8回	グループ演習(7)
第9回	文献輪読、ディスカッション(1)
第10回	文献輪読、ディスカッション(2)
第11回	文献輪読、ディスカッション(3)
第12回	文献輪読、ディスカッション(4)
第13回	文献輪読、ディスカッション(5)
第14回	文献輪読、ディスカッション(6)
第15回	まとめ

授業計画コメント

各回の内容や時間配分は、受講者の理解度や興味関心に応じて調整する場合がある。

授業方法

前半はグループ演習、後半は文献輪読(報告と議論)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

文献輪読では、事前に課題図書を読み、意見や質問を考えておく。報告担当者は、発表に向けてよく準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	出席、発表内容、議論への貢献度
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

その場で講評、コメント等を行います。

履修上の注意

履修者の積極的な参加が重要なので、(やむを得ない場合を除き)毎回出席すること。
履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500108	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	人生終末期の在り方を考える		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西1－314		

授業概要

日本は世界一の高齢国家であるが、長くなった人生をいかに生きるか、そして人生の最期をどう迎えるかは人々の重要な関心事になっている。人は最期まで健康で生きられるわけではない。他人の助けがなければ生きていけない期間がかなりある。このような現実
に直面して、我々はどうすべきなのか。社会の仕組みはどうあるべきなのか。この問題を扱った書籍の輪読を通じて理解を深めたい。

到達目標

輪読と討論を通じて長寿化社会の終末期の在り方の理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	超高齢社会における医療と介護
第3回	本人・家族の意思決定を支える
第4回	終末期医療と法
第5回	学際的な学問としての死生学
第6回	平穏死の勧め:老衰に医療はどこまで
第7回	地域包括ケアにおける看取り
第8回	地域の中でのホスピスケア
第9回	「暮らしの中で逝く」こと
第10回	記者として、がん患者としての視点から
第11回	地域包括ケアシステム構築に向けた課題
第12回	老いても病んでも暮らし続けることのできるまちづくり
第13回	地域包括ケアの担い手を考える
第14回	高齢者ケア政策の実践
第15回	総括

授業方法

輪読とグループ討論。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習:輪読が当たっている者はレジュメの作成を行う(4時間)。当たっていない者は、内容を精読し討議での質問とその理由を考えてくる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

輪読が当たっている者はレジュメの作成を行い、それに基づき討論を行う。課題は授業中の討論の中で共有し解決する。

教科書

人生の最終章を考える,医療科学研究所監修,法研,2015

参考文献コメント

必要に応じて指示する。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500109	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	はじめての経営企業分析		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 4時限 中央－503		

授業概要

経営分析のはじめの一步として、有価証券報告書から企業データを検索し、データ分析をします。業種平均との比較、ライバル企業との比較などを可視化して、その会社のポジションを知ります。10年に渡る各種経営指標(ROE,ROA、棚卸資産回転率、有形固定資産回転率など)の動きをグラフ化し考察します。研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も実施します。

到達目標

線形回帰によるデータ分析ができるようになる。EXCELで散布図などのグラフが作れるようになる。世界の自動車製造業についての知識が深まる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	EXCELでグラフ作成(折れ線グラフ、散布図)
第3回	EXCELで業種平均と分散、標準偏差を求める
第4回	日米自動車企業のROE、ROAのグラフ作成
第5回	日米自動車企業のROE,ROAの平均、分析の計算
第6回	日米自動車企業のROE,ROAの比較
第7回	日米自動車企業のROE,ROAの比較の発表用ppt作成
第8回	日米自動車企業のROE,ROAの比較の発表用ppt作成
第9回	日米自動車企業のROE,ROAの比較の発表用
第10回	日米自動車企業のROE,ROAの比較の発表用
第11回	中国自動車製造企業と日本企業の比較のグラフ作成
第12回	中国自動車製造企業のWEB検索演習
第13回	中国自動車製造企業データでの単回帰分析
第14回	中国自動車製造企業データでの線形重回帰分析
第15回	総括

授業計画コメント

意欲的に自分でデータを探していくスキルを養います。

授業方法

EXCELとPPTを使います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備は不要ですが、分析および論文や発表ppt作成の殆どは課外学習となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	作成した論文および発表用pptなど
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 課題レポートと、複数回の発表の内容を重視します。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは赤入れして返却します。

参考文献

統計的学習の基礎,Trevor Hastie他,共立出版,2014

履修上の注意

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

その他

白田のWebに各種教材が載っています。<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/>

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500111	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西2－405		

授業概要

よい企業とはなにか、戦略とはなにか、を考える。

到達目標

具体的な業界・企業について、日本、海外の情報を利用し、企業の行動、産業の発展を分析する枠組みと能力の修得につとめる。プレゼンおよびパラグラフライティングの方法も学習する。なお、本演習では、研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用 を避けるための指導も行う。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	資料作成 (1):パラグラフライティング、データベースの利用方法
第3回	資料作成 (2):先行文献10本のレビュー
第4回	よい企業とはなにか。エッセイ執筆
第5回	文献輪読1 価値をつくるということはどういうことか
第6回	文献輪読2
第7回	文献輪読3
第8回	よい企業とはなにか。グループワークI
第9回	よい企業とはなにか。グループワーク報告
第10回	文研輪読 4
第11回	文献輪読 5
第12回	文献輪読 6
第13回	この企業は良い企業である、なぜなら****。グループワークII
第14回	この企業はよい企業である。グループワークII 報告
第15回	フィードバック

授業方法

授業計画のスケジュールに従って、調査プロジェクトを実施する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に指示をする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100% 各行に行う学生の輪読、調査の報告の内容の作りこみ度によって、評価を行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の報告の際にコメントを行う。

参考文献

- アリババ,ミン・ゾン,文藝春秋,2019,978－4－16－391119－9
- イノベーションのジレンマ増補改訂版 ,クリステンセン,翔泳社,2001,978-4-641-1616495-5
- プラットフォームの経済学,ブルフェニソン,日経BP,2018,978-4822255633

参考文献コメント

適宜指示をする

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500112	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	和田 哲夫		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西5－301		

授業概要

企業研究・業界研究をするため基本となる情報収集能力と、集めた情報の理解および説明能力の育成をはかります。新入生から、大学在籍の特権として便利なデータベースを使うことができますが、基本項目はそれほど難しくありません。少しデータベースや資料を探してみると、皆が十分なじみを持っている製品やサービス以外にも我が国には面白く優れた企業が多数あることがわかり、経営成績に関する数字まで見られることがわかって視野が急に広がります。それを狙って、株式を公開している企業のうち、一般消費者にまだなじみが少ないが優れた業績を上げている企業、急成長している企業、ユニークな特色を持つ企業などを自分の目でまず探して選んでもらいます。そして、その企業の面白さを発表しクラスで共有します。それをもとに、さらに多少の会計の数字や概念も交えて理解して説明してみます。会社四季報など基本書が読めるようになりますが、まずは生き生きした企業の空気を感じ取って論理的に説明してみることが、これから経営学で学んでいくための動機となります。なお、全員が異なる企業を題材にとることを通じてオリジナリティのあるレポート(の中核内容)の作成過程を体感してもらうとともに、剽窃にならないような適切な引用の仕方なども理解してもらいます。

到達目標

覚える対象ではなくて使う道具として、企業の利益や財産を示す数字の意味を体得する。 企業活動を10年単位でみて、イベントと利益や財産状態との関係を想像・推論できるようになる。 企業戦略や組織論の関心と、会計の言葉・概念を連携して考えることができる基礎を培う。 自分ならではの観点を説明し理解してもらう喜びを知る。勉強する仲間を作る。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入、目標説明等
第2回	業種・企業選択の相談、過去に先輩達が探し明らかにしてきた企業研究対象の紹介
第3回	業種・企業選択、情報源の紹介
第4回	生み出している製品・サービスと市場を理解する
第5回	企業の歴史を知る
第6回	企業の組織展開について知る
第7回	株主構成について考える
第8回	関連企業を理解する
第9回	企業規模と成長を考える
第10回	利益を考える
第11回	財務安定性を考える
第12回	資金調達方法と企業価値の評価を考える
第13回	企業の課題を総合的に考える
第14回	総括
第15回	フィードバック

授業方法

図書館等での情報の集め方は、最初に説明します。そして、原則として中規模以下の若い企業(しかし株式公開している調べやすい企業)から、まず自分が面白いと思う研究対象を探してもらいます。ただし、共同作業の良さが体験できるよう、また最初の学期に大切な友人もできるよう、なるべく興味関心が重なる業種を探し、対象企業を調整します。その後は、基本内容・項目を提示しますので、それに従って調べ、まとめ、グループでも相談しながら発表機会を一人2回持つてもらう予定です。調整できる範囲は広いので、開始時にまず参加者と協議します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学期当初は、自分が取り組みたいと思う企業・業界を探して資料にあたってもらいます。当初想定では学期に2回の発表をしてもらいますが、1回目は文字で与えられる範囲の情報、2回目は売上推移と利益推移のグラフを描いて見比べる、というようなグラフの考察を中心に発表準備をしてもらいます。各準備は2時間あれば可能なはずですが、エクセルの折れ線グラフの書き方がわからない、というようなところで時間を要する方も過去います。短い時間で準備することが常に良いわけではなく、好きな企業をみつけて多くの情報を探してくる、という作業には10時間以上かけても意味が十分あります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	25 %	発表スライド内容をレポートとして評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	75 %	出席は必須前提として、発言の回数・質を重視し50%、さらに

		研究発表方法に25%（口頭発表の内容・事前準備を評価）
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

まず最初に選択候補としてあげてもらった企業について、基礎情報の調べやすさをメールまたは口頭で指導。2回の研究発表について、発表案を前週までにメール送付してもらい、メールまたは口頭で助言を回付。

教科書

会社四季報, 東洋経済新報社, 2020

教科書コメント

例年、参加者に書籍版を配布しています。個々の企業情報は、同じものが東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリーという名の(図書館で無料閲覧できる)データベースでもみられますが、書籍で「日本の株式公開企業が全部」手元に一覧できるという感覚も理解して感じてみてください。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500113	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	ベンチャー企業		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 西2－406		

授業概要

新しい商品やサービスを考案し、その事業をゼロから大きく成長させる20代起業家はどうか？本授業では、ベンチャー企業の仕組みとその背景にある株式市場について学びながら、起業家、投資家、社員のそれぞれの考え方や行動を考察する。起業活動が最も活発な米シリコンバレーを日本と比較する。株式市場について具体的に学ぶため株式売買のシミュレーションを行う。発表や討論のスキルを磨くとともに、思考力やビジネスセンスを養うことを目指す。発表やレポートなど作成する際、不用意な剽窃・盗用を避けるための引用方法を学ぶ。

到達目標

1. ベンチャー企業を理解する。 2. 株式市場を理解する。 3. 発表と討論のスキルを磨く。

授業内容

実施回	内容
第1回	株式市場の仕組み
第2回	受講生各自が上場企業を選んで仮想資金100万円で株式を買う
第3回	ベンチャー企業の仕組み、米シリコンバレーの特徴
第4回	ベンチャーに就職する大学生
第5回	ベンチャーを立ち上げる起業家
第6回	ベンチャーに出資する投資家
第7回	ベンチャーでの働き方
第8回	事例:英国大学生がオンライン事業を立ち上げる
第9回	事例:20代の日本人起業家たち
第10回	グループ発表と討論
第11回	グループ発表と討論
第12回	グループ発表と討論
第13回	グループ発表と討論
第14回	受講生各自が以前買った株式を売却して仮想投資の実績を評価する
第15回	予備日

授業方法

討論と発表を中心に日本語で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教材を読んで質問や意見をまとめる

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	グループ発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

教科書

私も起業できる？ ベンチャーで働く？ アメリカ人との本音トークでわかるシリコンバレー流キャリアと財産の築き方,D. リティシェフ,アマゾンKindle,2014

教科書コメント

その他の教材は授業中に適宜指定する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500114	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
副題	会計の初歩と大学教育への導入		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 東2－101		

授業概要

はじめに教科書を輪読する形で企業の財務諸表を大づかみに理解する手法を学ぶ。その後、経済雑誌から興味のある記事を選び、パワーポイントを使用して、発表・質疑応答を行う。後半は、企業経営や経済に関するトピックについて、ディベートを行う予定。2年生以上の演習と異なり、企業価値評価や株式投資に関することは直接扱わないので、注意のこと。また、図書センターのガイダンスを行い、資料検索や正しい引用の仕方など研究者倫理を学ぶ。

到達目標

大学における発表、議論の方法について学び、授業でプレゼンテーションやディスカッションができるようになる。また、経済雑誌の記事を読んで理解・発表ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 自己紹介 日程調整 研究者倫理について学ぶ
第2回	リーダーに必要な”ドンブリ勘定”
第3回	会計情報で世の中を鳥瞰する
第4回	ビジネスモデルを大まかに読む
第5回	会計で会社を立て直す
第6回	売上を伸ばすための企業リサーチ術
第7回	ビジネスプランをラフに描く
第8回	経済雑誌記事についての発表(1)
第9回	経済雑誌記事についての発表(2)
第10回	エレクトロニクス・IT業界の財務諸表
第11回	自動車業界の財務諸表
第12回	ディベート(1)
第13回	小売り業界の財務諸表
第14回	ディベート(2)
第15回	全体の総括

授業方法

少人数の演習形式の授業であり、参加者の積極的な発言・行動を期待する。グループディスカッション、グループワークを用いたアクティブラーニングを実践する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	95 %	

成績評価コメント

出席・授業参加時の発表・発言などを総合的に判断。:95%
発表の際、十分な準備をしているかどうか、また、授業に積極的に参加しているかどうかポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表についてはその都度コメントします。

教科書

経営の大局をつかむ会計:光文社新書,山根節,光文社,2005

「儲かる会社」の財務諸表：光文社新書,山根節,光文社 ,2015

教科書コメント

教科書は1回目から使用するため、予め購入しておくこと。

参考文献

ディベート入門：日経文庫,北岡俊明,日本経済新聞社,2000

頭を鍛えるディベート入門：ブルーバックス,松本茂,講談社,2005

参考文献コメント

この他の参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500116	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2－203		

授業概要

経営学の入門書を参考にして情報収集、情報の取り纏め、発表を実践する。経営学にはどんな分野があるのか？企業とはなにか？最近の企業を取り巻く環境はどうなっているのか？発表・議論・調査を通じて、受講者が主体になって1から経営学全般を学ぶ。なお、本演習では、研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も行う。

到達目標

経営学の各分野に少しずつ触れて経営学全般の概要をつかみ、特に興味のある分野を見つけることを目標とする。また、プレゼンテーションや調査を通じて、今後必要なスキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス/自己紹介/グループ分け
第2回	企業社会に生きる/経営学の全体像
第3回	企業と会社/会社の目標と利益
第4回	企業の社会的責任/経営資源と管理
第5回	売る活動の管理/つくる活動の管理
第6回	働く人の管理/お金の管理
第7回	ソーシャル・キャピタルの構築
第8回	経営戦略の体系/競争に対処する
第9回	会社全体の戦略/戦略を転換する
第10回	戦略分析の基本/意思決定と組織
第11回	組織を形づくる/組織の学習
第12回	働く人の動機付け/リーダーの役割
第13回	企業分析報告①グループ1～3
第14回	企業分析報告②グループ4～6
第15回	総括

授業方法

テキストの輪読及びグループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの該当箇所を読み、疑問点等を考えておく。(1時間程度)
発表者はプレゼンテーションの準備を行う。(2～3時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告者の発表直後に内容についてコメントする。

教科書

はじめて出会う経営学,内藤勲,中央経済社,2016,9784502180316

参考文献

経済と経営を楽しむためのストーリー,学習院大学経済学部・経済経営研究所,東洋経済新聞社,2014,9784492314487

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修方法については、経営学科1年生向けの履修ガイダンスにて説明。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500117	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	秋葉 淳一		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 南1－106		

授業概要

スマホやタブレットの普及により、身の回りには多くのニュースで溢れている。このニュースの中から経営に重要なニュースを選別すること、そして、選別したニュースを読み解き、経営に必要な情報にかえていくことが、戦略立案や意思決定に大きな要素であることを学ぶ。
 本講義では、時事のニュースから、そのニュースの持つ意味を理解し、経営に必要な情報にする力を養う。研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も実施する。

到達目標

- ・ニュースを多面的に捉える能力を鍛える
- ・ニュースを自社の戦略のための情報に変えるプロセスを理解する
- ・上記の力が経営者の求める人材像の大きな一つの要素であることを理解する

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機づけ
第2回	事例1(例 ZOZO)
第3回	事例2(例 ニトリ)
第4回	.時事問題(ケースその1)講義とグループディスカッション
第5回	.時事問題(ケースその1)グループディスカッションと資料作成
第6回	.時事問題(ケースその1)プレゼンテーションと講評
第7回	.時事問題(ケースその2)講義とグループディスカッション
第8回	.時事問題(ケースその2)グループディスカッションと資料作成
第9回	.時事問題(ケースその2)プレゼンテーションと講評
第10回	.時事問題(ケースその3)グループディスカッションと資料作成
第11回	.時事問題(ケースその3)プレゼンテーションと講評
第12回	.時事問題(ケースその4)グループディスカッションと資料作成
第13回	.時事問題(ケースその4)プレゼンテーションと講評
第14回	まとめと復習
第15回	予備日

授業方法

講義形式とグループワーク(ディスカッション)とプレゼンテーション

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

経済関連ニュースは意識して見聞きするようにしておいてもらいたい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業と必要に応じてメールを使用

履修上の注意

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220500118	科目ナンバリング	022A100
講義名	経営入門演習		
英文科目名	Introductory Seminar to Management		
担当者名	秋葉 淳一		
単位	2	配当年次	学部 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西2－405		

授業概要

スマホやタブレットの普及により、身の回りには多くのニュースで溢れている。このニュースの中から経営に重要なニュースを選別すること、そして、選別したニュースを読み解き、経営に必要な情報にかえていくことが、戦略立案や意思決定に大きな要素であることを学ぶ。
 本講義では、時事のニュースから、そのニュースの持つ意味を理解し、経営に必要な情報にする力を養う。研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も実施する。

到達目標

- ・ニュースを多面的に捉える能力を鍛える
- ・ニュースを自社の戦略のための情報に変えるプロセスを理解する
- ・上記の力が経営者の求める人材像の大きな一つの要素であることを理解する

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:講義の狙いと動機づけ
第2回	事例1(例 アマゾン)
第3回	事例2(例 トヨタ)
第4回	.時事問題(ケースその1)講義とグループディスカッション
第5回	.時事問題(ケースその1)グループディスカッションと資料作成
第6回	.時事問題(ケースその1)プレゼンテーションと講評
第7回	.時事問題(ケースその2)講義とグループディスカッション
第8回	.時事問題(ケースその2)グループディスカッションと資料作成
第9回	.時事問題(ケースその2)プレゼンテーションと講評
第10回	.時事問題(ケースその3)グループディスカッションと資料作成
第11回	.時事問題(ケースその3)プレゼンテーションと講評
第12回	.時事問題(ケースその4)グループディスカッションと資料作成
第13回	.時事問題(ケースその4)プレゼンテーションと講評
第14回	まとめと復習
第15回	予備日

授業方法

講義形式とグループワーク(ディスカッション)とプレゼンテーション

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

経済関連ニュースは意識して見聞きするようにしておいてもらいたい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業と必要に応じてメールを使用

履修上の注意

履修方法は、経営学科新入生向け履修ガイダンスにて説明されるので必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520101	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	消費者行動分析とマーケティング戦略		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	青木 幸弘		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 西2-506		

授業概要

本演習においては、消費者のニーズや購買行動に関する分析(アンケート調査など)をベースに、現代企業のマーケティング戦略(製品・ブランド戦略や広告コミュニケーション戦略など)を研究していく。

到達目標

マーケティング戦略およびマーケティング・リサーチに関する基礎知識を習得すると共に、3年次演習での高度な課題を達成する能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業計画の説明と研究グループ編成
第2回	プレゼンテーション実習(1):研究テーマについてのプレゼンテーション資料作成
第3回	プレゼンテーション実習(2):研究テーマについてのプレゼンテーション資料作成<続>
第4回	グループ研究中間報告(1):テーマ設定と業界分析
第5回	基礎概念の復習(1):ケースメソッドによるクラス討議
第6回	基礎概念の復習(2):ケースメソッドによるクラス討議<続>
第7回	リサーチ実習(1):調査設計と調査票の作り方
第8回	リサーチ実習(2):グループ・インタビュー
第9回	グループ研究中間報告(2):仮説設定と調査設計
第10回	データ分析実習(1):SPSSを用いた調査データ分析
第11回	データ分析実習(2):SPSSを用いた調査データ分析<続>
第12回	グループ研究中間報告(3):予備調査結果の報告
第13回	グループ研究中間報告(4):予備調査結果の報告<続>
第14回	グループ研究中間報告(5):予備調査結果の報告<続>
第15回	到達度の確認

授業計画コメント

上記のように、マーケティングの基礎概念についてケースメソッドによるクラス討議で復習しつつ、市場を分析しマーケティング戦略を立案する上での枠組みと能力の修得につとめる。また、アンケート調査の設計やデータ分析の手法についても学ぶ。

授業方法

本演習では、単にマーケティング理論を学ぶだけではなく、将来、マーケターとして必要となる様々なスキル(分析力、企画力、プレゼンテーション力、等)の修得にも重きを置いている。このため、上記の講義・実習と並行する形で、少人数のグループに分かれて、具体的テーマでの実証研究に取り組む。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配付資料や関連資料に目を通し、重要なポイントを把握・理解しておくこと。また、指示に従って事前の課題に取り組み報告準備をしておくこと(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	グループ研究の成果を踏まえて、学期末にレポートを提出する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	毎回の授業におけるコメント・ペーパー、グループ研究の発表内容によって評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(授業への出席およびグループ研究の中間報告):70%、レポート(学年末に提出する研究報告書):30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によってフィードバックする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520102	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	日本の医療・介護制度		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 4時限 西1-314		

授業概要

少子高齢化の進展と経済成長の鈍化に直面する日本にとって、社会保障制度改革が第一級の国内問題である。この講義では、日本の医療制度・介護制度の現状と課題を理解し、制度改革の在り方について学習する。

到達目標

医療制度、介護制度を理解し、医療制度改革の内容を適切に評価できるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	日本の医療提供体制1:医療機関の特徴
第3回	日本の医療提供体制2:医師・看護師の育成と労働市場
第4回	日本の医療保険制度1:医療費の構造と医療保険体系
第5回	日本の医療保険制度2:混合診療の禁止の是非
第6回	診療報酬制度の特徴:政策手段としての診療報酬
第7回	薬価基準制度の特徴:薬価基準制度の特徴:新薬開発インセンティブと薬剤費抑制
第8回	国民医療費の制御:診療報酬改定率と自己負担
第9回	日本の少子高齢化の動向
第10回	高齢化と医療1:医療費の増加と負担問題(全世代型社会保障)
第11回	高齢化と医療2:地域別の病床再編(地域医療構想)
第12回	介護保険制度1:介護保険制度の特徴
第13回	介護保険制度2:介護保険制度の課題
第14回	高齢化と地域包括ケア
第15回	総括

授業方法

講義と討論

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、復習は必ず行うこと(1時間程度)。また、関連する書籍や新聞・雑誌を積極的に読むことを進める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	出席をとる
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習時に毎回、質問を受けて課題の理解を深める。

教科書コメント

適宜レジュメを配布し、教科書は使用しない。

参考文献コメント

演習中に適宜、紹介する。

履修上の注意

履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520103	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 中央－505		

授業概要

グループ発表、スピーチ、ディベートを通じて、経済問題全般に関する基本的な論点について検討します。

到達目標

(1)論理的思考力を高めること、(2)プレゼンテーション能力を高めることが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、グループ分け(プレゼン、ディベート)、研究倫理
第2回	図書オリエンテーション
第3回	ショートスピーチ、グループ発表準備(テーマ決め)
第4回	ショートスピーチ、グループ発表準備(資料収集)
第5回	ショートスピーチ、グループ発表準備(資料作成)
第6回	ショートスピーチ、グループ発表準備(資料作成およびプレゼン練習)
第7回	ショートスピーチ、グループ発表(1)
第8回	ショートスピーチ、グループ発表(2)
第9回	ショートスピーチ、ディベート準備
第10回	ショートスピーチ、ディベート(1)
第11回	ショートスピーチ、ディベート(2)
第12回	ショートスピーチ、ディベート(3)
第13回	ショートスピーチ、ディベート(4)
第14回	総括
第15回	理解度のまとめ

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、グループ学習やスピーチ、ディベートの準備をすること(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	プレゼン資料の内容を評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内での発表を通じて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行います。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520104	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	「システム」とは何か		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 東2-702		

授業概要

我々の生活の中には、いろいろな便利・不便がある。何気ない生活を何気なく過ごすのではなく、日常の中の便利・不便にまずは気づき、そしてその意味、意図を考え抜くことがより良い社会へのステップとなる。本演習では、そういった身の回りの便利・不便について、「システム」という眼鏡をかけて、なぜ？どうすれば？を考えていく。身近な事象を徹底的に考えることを通して、目に見えないコトを目に見えるモノとして表現したり、物事を論理的に整理したりする能力を養う。ビジネスを考えるときにも、現状の改善・改革には、現状(as-is)を知り、あるべき姿(to-be)を描く能力が不可欠となる。臆せず、サボらず、自分自身の手で精力的にモデリングを実践すること。

到達目標

- (1)「システム」とは何か、ということをイメージできる (2)論理的に考え、伝えられる (3)プログラミングに何となく親しみを覚える (4)大学生活で取り組む研究フィールドに出会う

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:概要説明や自己紹介など
第2回	「システム」とは何か
第3回	課題文輪読1(1グループ担当者のプレゼンテーション)
第4回	課題文輪読2(2グループ担当者のプレゼンテーション)
第5回	課題文輪読3(3グループ担当者のプレゼンテーション)
第6回	課題文輪読4(4グループ担当者のプレゼンテーション)
第7回	プログラミング実習1(起動と基本の動き)
第8回	プログラミング実習2(繰り返しと条件文)
第9回	プログラミング実習3(様々な効果)
第10回	プログラミング実習4(グループワーク)
第11回	プログラミング実習5(コンペティション)
第12回	研究課題の選定
第13回	研究計画を立てる
第14回	2年のまとめと今後の方針
第15回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

授業前半はシステム関連著書を輪読を行い、後半はコンピューターを使って、プログラミングを学ぶ。
授業を通して、グループワークが中心となる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

全員が事前に教科書を読んでくること。前半の課題文輪読では担当者が担当部分の内容を他の受講生に報告し、ディスカッションを促すための報告準備を行う必要がある。また、後半のプログラミング演習では、毎回の課題を出すため、演習の復習と課題をこなすことが必須となる。(最低でも3時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	発表や資料の内容により評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	クラス参加、グループ作業の成果等
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワークの際は、都度授業内で各グループに対してコメントを行う。個人課題については、提出されたものを全員でシェアし、

コメントを行うことでフィードバックを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指定する。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

毎回の授業に全て出席することを原則する。 主体性と好奇心を持って、誠実に授業に参加できる学生を求める。プログラミング実習は、丁寧に、ゆっくり進めていくので、初心者でも全く問題なく、一通り、基礎の基礎を学ぶことが可能。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520105	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	国際経営財務		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 東2-103		

授業概要

日本企業が海外に進出してビジネスを行う場合、その財務的意思決定をどのように行うかを勉強する。

到達目標

日本企業が国内で行う財務的意思決定が、海外だとどのように変わらなくてはならないかを、少しずつ理解できること。

授業内容

実施回	内容
第1回	国際経営とは何か
第2回	国際経営財務入門1
第3回	国際経営財務入門2
第4回	海外での企業経営1(アジア1)
第5回	海外での企業経営1(アジア2)
第6回	海外での企業経営1(アジア3)
第7回	海外での企業経営2(南米1)
第8回	海外での企業経営2(南米2)
第9回	海外での企業経営2(南米3)
第10回	海外での企業経営3(ヨーロッパ1)
第11回	海外での企業経営3(ヨーロッパ2)
第12回	海外での企業経営3(ヨーロッパ3)
第13回	海外での企業経営4(東欧1)
第14回	海外での企業経営4(東欧2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

少人数なので、参加者はゼミ中に必ず一度は意見を述べなくてはならない。

授業方法

最初は私が解説し、国際経営財務入門の話をする。次いで、参加者によるレポートという形をとる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

企業経営のコンポーネントには財務を中心にどのようなものがあるのかを、常に考えることが重要である。授業中に議論したことを復習し、次の授業でのディスカッションに生かせること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%(分担した報告をきちんとこなすこと。) レポーターをきちんとこなすこと。それができれば単位取得となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

教科書

海外経営の鉄則,山崎克雄,講談社現代新書,2007

教科書コメント

教科書は配布する予定である。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520106	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	意思決定理論入門		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 4時限 西2－203		

授業概要

企業経営にまつわる諸問題一例えば、どのような経営戦略を選ぶか、商品の価格をいくりに設定するか、誰にどれだけの広告を打つかーは、つまるところ、様々な意思決定をどう行うか、という問題であるとも言えます。意思決定理論は、人々はどのように意思決定を行うのか、あるいは行うとよいのかを研究する分野です。本演習では、この分野の代表的な教科書の輪読と議論を通じて、意思決定に関する理解を深め、様々な意思決定問題をうまくマネジメントするための視座を身に付けます。また、実際にこれらのフレームワークを、数名のグループごとに興味関心のある話題に適用して分析し、結果を発表してもらいます。

到達目標

- (1) 意思決定にはどのような問題があるかを学び、より良い意思決定を行うための考え方やフレームワークを習得する。
- (2) 文献輪読や研究発表を通じて、他者と論理的かつ協調的にコミュニケーションする力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンスと自己紹介
第2回	グループワーク
第3回	文献輪読(1) 質の高い意思決定をするために
第4回	文献輪読(2) 目的の適切さ
第5回	文献輪読(3) ディシジョン・ツリー
第6回	文献輪読(4) 意思決定のタイミング、情報、オプション
第7回	グループワーク
第8回	文献輪読(5) ゲーム理論
第9回	文献輪読(6) 戦略的思考
第10回	文献輪読(7) リスクと意思決定
第11回	総合ディスカッション
第12回	プレゼンテーションの準備
第13回	研究プレゼンテーション(1)
第14回	研究プレゼンテーション(2)
第15回	まとめ

授業計画コメント

授業計画は、履修者の理解度等に応じて調整する場合がある。

授業方法

課題図書の輪読(報告およびディスカッション)と研究内容のプレゼンテーション

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

輪読に関しては、毎回、課題図書の指定箇所を事前に読み、意見や質問をまとめておく。発表担当者は、報告のための準備をする。研究プレゼンテーションについては、授業時間外に各自で研究を進め、発表に向けて準備をする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	50 %	文献報告および研究プレゼンテーションの内容

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習中に講評、コメントをします。

教科書

ビジネス意思決定---理論とケースで決断力を鍛える,大林 厚臣,ダイヤモンド社,2014,4478029555

教科書コメント

履修者には教科書(輪読の課題図書)を配布する予定です。なお、上記の教科書は変更する可能性があります。

履修上の注意

履修者に際しては経済学部の実習募集の要項に従うこと。

履修者の積極的な参加が重要なので、(やむを得ない場合を除き)毎回必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520107	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	機械学習による企業分析		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 中央－503		

授業概要

日本企業の多くは2008年のリーマンショックの影響後、長期に渡る低迷期に入っているが、成長している企業も少なからず存在します。ゼミではその業績要因を機械学習の回帰(Regression)及び分類(Classification)によって探求します。機械学習の分野ではDeep Neural Network(DNN)モデルが広く使われていますが、経営分析の分野ではGBDT(Gradient Boosted Decision Tree)等のツリー系の機械学習手法が性能の高さを示しています。そうした最新の人工知能の手法を用いて企業の成長に影響を与える要素を探っていきます。データはEOL等から検索します。検索方法も講義します。人工知能を経営分析にどのように活用するかという実践的なスキルが身に付きます。講義では、分析, 論文作成, 発表練習等を行います。2019年度は、2月に化粧品工場の見学会も行いました。希望があれば工場見学を企画します。

到達目標

企業分析の手法の初歩を学べる

授業内容

実施回	内容
第1回	企業情報の各種項目の説明
第2回	EOLの使い方説明(1)
第3回	EOLの使い方説明(2)
第4回	EOLによるデータ取得
第5回	分析手法の説明(1)
第6回	分析手法の説明(2)
第7回	日本の企業の分析(1)
第8回	日本の企業の分析(2)
第9回	中間発表
第10回	日本の企業の分析(3)
第11回	日本の企業の分析(4)
第12回	発表pptの作成
第13回	発表練習
第14回	発表
第15回	総括

授業方法

グループでテーマを決めて、各グループごとに研究活動を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備は不要ですが、分析および論文や発表ppt作成の殆どは課外学習となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	作成した論文および発表用pptなど
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 課題レポートと、複数回の発表の内容を重視します。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは赤入れして返却します。

参考文献

統計的学習の基礎,Trevor Hastie他,共立出版,2014

履修上の注意

履修者は、データ科学1C と2C（白田担当）、経営科学2、経営数学1と2を履修すること。
希望者のみですが、夏休みに可視化教材による「経済のためのマトリクス計算」を行います。

その他

白田のWebに各種教材が載っています。<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/>

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520108	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	新製品のマーケティング戦略		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	杉田 善弘		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西1－209		

授業概要

消費者ニーズの発見から製品の市場投入まで新製品のマーケティング戦略について勉強します。

到達目標

現状分析など新製品開発に必要なマーケティング分析の基礎を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介
第2回	企業と製品の現状分析
第3回	マーケティングのための財務分析・STP
第4回	ゼミ論の調査対象の市場(製品カテゴリー)、企業を決定
第5回	財務分析実習発表(全ての班)
第6回	ゼミ論の調査対象の市場(製品カテゴリー)、企業を発表(1,2班)
第7回	ゼミ論の調査対象の市場(製品カテゴリー)、企業を発表(3,4班)
第8回	STPの方法
第9回	ゼミ論発表のための調査
第10回	ゼミ論発表(1班)
第11回	ゼミ論発表(2班)
第12回	ゼミ論発表(3班)
第13回	ゼミ論発表(4班)
第14回	まとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

受講者が決定するのが1学期中のため、受講者数によって授業計画が変更になる可能性があります。

授業方法

授業では、グループディスカッションやグループワークを通じて企業のマーケティング上の課題を発見し、新製品による問題解決を図ります。発表はパワーポイントを用いて行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各班の発表については、レジメを配り、全員が発表に加わるように準備してください。また、他の班の発表に対して質問できるようにしてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	ゼミ論
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	発表を含む
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点とゼミ論を総合的に考慮して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表については都度コメント、指導をします。マーケティング課題の解決については、結果そのものより、いかに結果をマーケティング理論に沿って導き出したかを重視して評価します。

教科書コメント

特にありません。授業時にプリントを配布します。

参考文献コメント

参考書は授業時に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520109	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	組織行動論		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	竹内 倫和		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 中央－508		

授業概要

本演習では、組織で働く従業員の態度や行動を科学的に検討する組織行動論について、議論をしていきます。4年次最後の卒業論文作成に向けて、この演習(2年生)では組織行動論に関する基礎的知識を獲得するため、文献の輪読を行っていきます。文献の輪読は、代表者(ゼミ生)による発表を中心に、ゼミ生全員の活発な議論と相互評価をもとに進められます。したがって、ゼミ生の学習に対する積極的な意欲を強く望みます。なお、SPSSの操作方法を含む統計的知識があることが望ましい(演習でも学習する予定)。

到達目標

卒業論文(実証研究)の作成を通して、組織行動論の各テーマについての専門的知識、論理思考力及びデータ分析能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:演習の進め方、方針
第2回	ゼミ生による発表とディスカッション(1)
第3回	ゼミ生による発表とディスカッション(2)
第4回	ゼミ生による発表とディスカッション(3)
第5回	ゼミ生による発表とディスカッション(4)
第6回	ゼミ生による発表とディスカッション(5)
第7回	ゼミ生による発表とディスカッション(6)
第8回	ゼミ生による発表とディスカッション(7)
第9回	ゼミ生による発表とディスカッション(8)
第10回	ゼミ生による発表とディスカッション(9)
第11回	ゼミ生による発表とディスカッション(10)
第12回	ゼミ生による発表とディスカッション(11)
第13回	ゼミ生による発表とディスカッション(12)
第14回	ゼミ生による発表とディスカッション(13)
第15回	自主研究

授業方法

ゼミ生による研究発表と討議(演習形式)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指定された範囲の研究発表(約5時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	90 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	ゼミの授業及び諸活動への貢献

成績評価コメント

詳細は、初回授業時に説明します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各課題の重要なポイントは、授業内で説明される。
また、各自のプレゼンテーションに対するフィードバックは毎回行われる。

教科書コメント

初回の授業時に提示します。

参考文献コメント

適宜、演習中に提示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 ／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

時間内に終わらない場合、演習は予告なく延長します。また、サブゼミを行う場合がありますので、あらかじめそのつもりでいて下さい。したがって、演習時間の後に私的な予定を入れないようにお願いします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520110	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	守島 基博		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 南1－306		

授業概要

2年生演習はゼミの入門であり、人材マネジメント(人的資源管理)の基本的枠組みと概念等を学習する。基礎的な教科書を読み、グループで発表をまとめ、発表することが基本だが、発表に事例等を含めることで、実際に企業のなかで人的資源管理がどう行われているのかを学ぶ。

到達目標

人的資源に関する基本的な枠組みと概念・用語等を理解し、発表し、3年生ゼミにおける研究プロジェクトを行うための基礎的な知識を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	人事管理とは
第2回	組織をつくる
第3回	働くということ
第4回	システムとしての人事管理
第5回	社員格付け制度
第6回	採用と退出
第7回	配置
第8回	評価と報酬
第9回	人材育成
第10回	労使関係
第11回	非正社員の基幹化
第12回	女性の活躍推進
第13回	ワークライフバランスと働き方改革
第14回	高齢者雇用
第15回	グローバル経営と国際的人事管理

授業計画コメント

・毎回、基礎的な教科書の読み込みと、読んだ内容をグループでまとめ、発表する訓練をする。

授業方法

演習・グループ発表・ディスカッション

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

この演習では、教科書の内容をきちんと理解して、発表担当はそれを纏め、発表するので、発表担当の時は、多くの時間を割くことが必要(15時間程度)である。発表にあたっていないときは、比較的予習等は少ないことが予想される。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

この授業では、教科書のまとめの丁寧さ、発表の適切さ、内容に対し疑問をもつ姿勢などを総合的に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の授業で、発表の内容や仕方についてフィードバックする。

教科書

『人事管理 人と企業, ともに生きるために』:有斐閣ストゥディア,平野光俊・江夏幾多郎,有斐閣,初,2018,4641150478

参考文献

『人材マネジメント入門』: 日経文庫, 守島基博, 日本経済新聞出版社, 初, 2004, 4532110017

参考文献コメント

別の人的資源管理の教科書を読みたい学生は、上記を読むこと。

履修上の注意

****この授業は5時限に行うが、19時ぐらいまで延長することが多い。授業の後すぐに部活等の予定をいれないこと。***

その他

・守島と連絡を取りたいときは、まず、大学のアドレスにメールを送ること。連絡は基本的にメールで行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520111	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2－203		

授業概要

グループワークによって最も関心のある企業について財務分析・戦略分析・企業価値評価を実践する。

到達目標

3年次に参加する日経ストックリーグに向けて、企業分析の基礎知識・スキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス・自己紹介・グループ分け
第2回	分析対象企業の選定と概要①プレゼンテーション
第3回	分析対象企業の選定と概要②ディスカッション
第4回	戦略分析①プレゼンテーション
第5回	戦略分析②ディスカッション
第6回	財務分析①(収益性・効率性)プレゼンテーション
第7回	財務分析②(収益性・効率性)ディスカッション
第8回	財務分析③(安全性・成長性)プレゼンテーション
第9回	財務分析④(安全性・成長性)ディスカッション
第10回	将来の業績予測①プレゼンテーション
第11回	将来の業績予測②ディスカッション
第12回	企業価値評価①プレゼンテーション
第13回	企業価値評価②ディスカッション
第14回	企業分析のまとめ
第15回	総括

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの該当箇所を読み、疑問点等を考えておく。(1時間程度)
発表グループはプレゼンテーションの準備を行う。(2週間に5時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループ発表中又は発表直後に内容に対してコメントする。

教科書

京都企業-歴史と空間の産物-,徳賀芳弘,中央経済社,2016,9784502185519

参考文献

財務諸表分析,桜井久勝,中央経済社,第7版,2017,9784502223518

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

「財務会計Ⅰ」および「財務会計Ⅱ」を履修していることが望ましい。これらの講義で知識や理論面でのインプットを行い、本演習で発表や議論を通じたアウトプット面の力を鍛えることを想定しているためである。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520112	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	竹原 有吾		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西2－404		

授業概要

本演習では、参加者の関心に合わせて研究テーマを選び、文献を読み、グループ研究を進めてもらう。その中で学問とは何であるかについて理解を深めてもらう。

到達目標

関心を持っている産業(もしくは、企業)について、その歴史や現状について基本的なことを説明することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用方法の確認
第3回	文献や資料の探し方について
第4回	グループ研究の進め方に関して
第5回	文献の輪読とディスカッション(1)
第6回	文献の輪読とディスカッション(2)
第7回	文献の輪読とディスカッション(3)
第8回	文献の輪読とディスカッション(4)
第9回	文献の輪読とディスカッション(5)
第10回	文献の輪読とディスカッション(6)
第11回	文献の輪読とディスカッション(7)
第12回	グループ研究の報告準備
第13回	グループ研究の成果報告
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度の確認

授業計画コメント

- ・研究倫理についても理解を深めてもらえるように授業を展開していく予定である。
- ・図書館の利用方法と文献・資料の探し方に関する授業の実施回が変更になることがある。

授業方法

文献の輪読とディスカッションを中心に授業を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- (1) 課題となっている文献を読み進める。担当者は報告資料を作成する。(1～2時間)
- (2) 演習の中で議論した内容を整理する。(1時間)
- (3) 演習で扱ったテーマに関連する文献があれば、それを読む。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	演習の中で与えられた課題に取り組む姿勢
その他(備考欄を参照)	50 %	報告内容

成績評価コメント

本演習で取り組むことになった課題に主体的に取り組むことができているかを主に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中で、報告の仕方や文献・資料の収集方法、分析視角など改善すべき点が見つかれば指導する。

教科書コメント

授業の中で読み進めていく文献を提示する。

参考文献コメント

適宜、授業の中で指示する。

履修上の注意

履修者数に制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520113	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
副題	Venture business		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 西2-406		

授業概要

The seminar is aimed at students preparing for a global career in innovative industries and interested in starting or joining venture startups.

到達目標

The primary objectives of this seminar are (1) learn how new ventures are formed and managed, (2) understand information technology (IT) trends including digital currencies (Bitcoin), sharing (Airbnb, Uber), and programming (Ruby) and (3) practice communication skills necessary for working in groups, having productive discussions, and making effective presentations.

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction
第2回	Programming practice 1
第3回	Programming practice 2
第4回	Venture case study 1
第5回	Venture case study 2
第6回	New business planning 1
第7回	New business planning 2
第8回	Programming practice 3
第9回	Programming practice 4
第10回	Venture case study 3
第11回	Venture case study 4
第12回	New business planning 3
第13回	New business planning 4
第14回	New business planning 5
第15回	Review

授業方法

The seminar will emphasize groupwork, presentations, and discussion.

使用言語

英語

準備学習(予習・復習)

Students will be expected to prepare presentations.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Feedback will be provided during class.

教科書コメント

Books and other learning materials will be supplied in class.

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520115	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	和田 哲夫		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西2－304		

授業概要

次の2点に留意しつつ、自由な発想による発表と議論を行うことを目標とします。(1)表層的な印象論や他人の受け売りではない、自分の独自観点や事実の提示。(2)自分の主張を根拠をもって示すための(とくに定量的な)情報収集・分析。戦略は組織に反映され、また組織は戦略を規定する、といわれることからわかるように、戦略と組織を一体とした総合思考能力を養成することが目標ですので、「頭を使う」「よくよく考える」ための研究テーマや手法は限定しません。知的な創造物としての、自分のオリジナリティを追求する人に、徹底的に追求してもらいたいと考えています。自分のオリジナリティがどんな形であれ、豊かな先行蓄積と様々な関連を持つことが発表と議論により理解できてくるはずです。そのプロセスの中で自分らしさをさらに洗練していつてもらいたいと願っています

到達目標

誰か別の人が言っていることではない、あなたの考えを説得的に示せるようになる。あなたの考えを示すために、誰か別の人が提示している資料や考えを適切に引用できるようになる。 企業活動について、お客さんに見せるための姿でない情報や理解を自分で取り出せるようになる。 分析のために必要な道具は何か、考え始める。 互いに批判をして考えを高め合い、思考を鋭く磨いていけるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	顔合わせ、進行案の説明、相談。
第2回	情報収集方法の説明(1)：「ネットに載ってた」嘘と本当
第3回	情報収集方法の説明(2)： オンラインのアンケート、作るのは簡単。友達多ければ実施も簡単。
第4回	情報収集方法の説明(3)： オンラインのアンケート、取った後が難しい。分析結果からいえることを考えて質問を考えよう。
第5回	研究報告について(1)： 自分の持つ疑問と研究問題の設定とはちょっと違う
第6回	研究報告について(2)： 仮説と仮定はぜんぜん違うよ
第7回	研究報告について(3)： 大量データの時代
第8回	研究報告について(4)： グラフ化の基礎
第9回	研究報告について(5)： 何を比較すると事実を鋭く示すことになるのだろう
第10回	研究報告について(6)： 検定は怖くない
第11回	研究報告について(7)： 原因と結果を区別できるか
第12回	研究報告について(8)： インタビューなどのフィールドワーク結果
第13回	研究報告について(9)： ケース記述
第14回	総括
第15回	フィードバック

授業計画コメント

例年は、合宿や上級生が発表する場である他大学合同ゼミに参加してもらっています。本年度は例年と異なる予定とならざるを得ないかもしれませんが、もし実施できれば、2年生内で直接使うというよりは、翌年度のテーマやグループ選択の材料として大事です。なので、もし実施があったら、合宿と合同ゼミ出席は参加必須とお考えください。

授業方法

最初は単独調査研究と発表を基本として議論を進めますが、徐々にグループワークへの道筋を考えていきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

遅くとも自分の発表の3週間前までに、基本となるアイデアや論理の組み立ての途上案を(加えて資料や分析対象、分析結果がもしあればそれも)教員の研究室にもってきてください。ここまでの準備に夏休みを含めてちょっとずつ数ヶ月をかけている方が過去大半です。同時に、実際の資料集めや分析、発表資料作りは集中してやっている方が多いです。ずっと考えていることには寝ているときにアイデアが出たりするし、そういう「常日頃考えていること」が準備として実は非常に大切です。逆にいうと準備学習時間を特定しても意味はないので表示しません。ただ、同じようなテーマ・研究アイデアでも、データ取得方法などは合理化できるところが割とありますので、そういうところはぜひ教員と一緒に考えましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(出席を前提として議論・発言の積極性を重視) 発表準備作業:30%(資料収集、分析など準備努力の量と質) レポート:30%(学期内の研究発表成果をレポートとして評価)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表3週間前までにいちどラフなアイデアを提案してもらい、先輩達の例や情報源についてウェブ等を参照しながら口頭やメールで情報提供します。発表内容については全員で討論した上で発展可能性等について口頭で追加情報提供します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220520116	科目ナンバリング	022B200
講義名	演習(2年生)		
英文科目名	Seminar(2nd year students)		
担当者名	武石 彰		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 5時限 西2－503		

授業概要

この演習の主題は、「経営学(とくに戦略論、組織論)の観点からイノベーションについて理解し、考えること」である。関連する基礎的もしくは先端的な文献の輪読、ケースのディスカッション、グループプロジェクトなどを通じて、ゼミ生同士や教員との双方向のやりとりをしながら、主体的に学習することに重点を置く。合わせて、経営学(より広くは、社会科学)から何をどのように学ぶか、それは現実においてどのように活用できるのか、という点について学び、考えることも目的とする。2年生演習では、3年生演習に臨むための土台を整えることを目指す。

到達目標

実社会において、イノベーションについて考え、取り組む上で、有用な経営学の理論、枠組み、視点ならびにそれらの現実の問題への応用の仕方を理解し、身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	演習の概要、進め方、スケジュール、ケースディスカッション:ラジオの誕生とFMの革新
第2回	ケースディスカッション:ラジオの誕生とFMの革新、グループプロジェクトの課題
第3回	レクチャー:イノベーションとそのマネジメント
第4回	輪読:「マネジメント」(1、2章)
第5回	輪読:「マネジメント」(3章)
第6回	輪読:「マネジメント」(4章)
第7回	輪読:「マネジメント」(5章)
第8回	輪読:「マネジメント」(6章)
第9回	輪読:「マネジメント」(7章)
第10回	輪読:「マネジメント」(8章)
第11回	輪読:「マネジメント」(9章)
第12回	輪読:「マネジメント」(結論、付章、総括)
第13回	ケースディスカッション
第14回	グループプロジェクト最終報告
第15回	予備日

授業計画コメント

授業の内容、進め方、スケジュールは、履修者の人数を踏まえて、再調整する可能性がある。

授業方法

授業の進め方の詳細は履修者の人数を踏まえて確定するが、おおよそ以下を予定している。輪読では、事前に割り当てられた報告者が課題文献の内容について用意したレジメに基づいて報告し、他の学生も事前に精読した上で授業に臨み、報告に基づいて課題文献についてディスカッションする。ケースディスカッションでは、事前に事例を精読し、示された問いについて自分の考えをまとめた上で授業に臨み、全員でディスカッションする。グループプロジェクトでは履修者を複数のグループに分け、設定された課題について共同で調査し、分析し、報告する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

輪読では、取り上げる文献を事前に精読しておくこと。輪読報告担当者は事前にレジメを用意し、授業での報告の準備をする。ケースディスカッションでは、取り上げるケースを事前に精読し、設定された問いについて自分の考えをまとめておく。グループプロジェクトでは、中間報告、最終報告に向けて、授業時間外の時間も利用して、設定された課題について共同で調査、分析し、報告の準備を行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	文献報告レジメ、ケースディスカッション・メモ、グループプロジェクト報告レポート

小テスト

小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	出席、ディスカッションへの参加、グループプロジェクトの成果
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

輪読報告では文献の内容を正確に理解、要約、報告しているかを基準にして評価する。ディスカッションでは発言の回数と質(特に討議の主題をめぐって的確な議論ができているかどうか)を基準に評価する。グループプロジェクトでは課題について協力しながら的確な調査、分析、報告が出来ているかを基準に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レジメ、報告、ディスカッション、メモ、報告レポートについては、適宜気がついたことをその場、もしくは事後にコメントする。

教科書

エッセンシャル版 マネジメント:基本と原則,P.ドラッカー,ダイヤモンド社,2001,4-478--41023-2

参考文献コメント

その他の文献は適宜指示、配布する。

その他

担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530101	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	消費者行動分析とマーケティング戦略		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	青木 幸弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西2－506		

授業概要

2年次に引き続き、本演習においては、消費者のニーズや購買行動に関する分析(アンケート調査など)をベースに、現代企業のマーケティング戦略(製品・ブランド戦略や広告コミュニケーション戦略など)を研究していく。

到達目標

2年次演習で習得した知識やスキルをベースに、4年次演習での卒業研究に向けて、マーケティング課題解決のための分析力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業計画の説明と研究グループ編成
第2回	グループ研究①:業界研究
第3回	グループ研究②:業界研究
第4回	グループ研究③:業界研究
第5回	グループ研究中間報告①グループ1・2
第6回	グループ研究中間報告②グループ3・4
第7回	グループ研究中間報告③グループ5および総括
第8回	グループ研究④:店頭調査の検討
第9回	グループ研究⑤:店頭調査の検討
第10回	グループ研究⑥:消費者調査の検討
第11回	グループ研究⑦:消費者調査の検討
第12回	グループ研究中間報告④:グループ1・2
第13回	グループ研究中間報告⑤:グループ3・4
第14回	グループ研究中間報告⑥:グループ5および総括
第15回	自主研究
第16回	グループ研究⑧:商品アイデアの検討
第17回	グループ研究⑨:商品アイデアの検討
第18回	グループ研究⑩:商品アイデアの検討
第19回	グループ研究中間報告⑦:グループ1・2
第20回	グループ研究中間報告⑧:グループ3・4
第21回	グループ研究中間報告⑨:グループ5および総括
第22回	グループ研究⑪:マーケティング・ミックスの検討(製品)
第23回	グループ研究⑫:マーケティング・ミックスの検討(価格)
第24回	グループ研究⑬:マーケティング・ミックスの検討(流通)
第25回	グループ研究⑭:マーケティング・ミックスの検討(プロモーション)
第26回	グループ研究⑮:マーケティング・ミックスの検討(全体調整)
第27回	グループ研究最終報告①:グループ1・2
第28回	グループ研究最終報告②グループ3・4
第29回	グループ研究最終報告③グループ5および総括
第30回	自主研究

授業方法

本演習では、単にマーケティング理論を学ぶだけではなく、将来、マーケターとして必要となる様々なスキル(分析力、企画力、プレゼンテーション力、等)の修得にも重きを置いている。このため少人数のグループに分かれて、具体的テーマでの実証研究に取り組む。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配付資料や関連資料に目を通し、重要なポイントを把握・理解しておくこと。また、指示に従って事前の研究課題に取り組み、中間報告および最終報告での発表準備をグループ単位で行うこと(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	グループ研究の成果を踏まえて、学年末にレポートを提出する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	毎回の授業におけるコメント・ペーパー、グループ研究の発表内容によって評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(授業への参加およびグループ研究の中間報告):70%、レポート(学年末に提出する研究報告書):30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によりフィードバックする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530102	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	佐々木 康朗		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 東2－101		

授業概要

2年生の演習で学んだことをベースに、グループ(3～4名程度)ごとにテーマを設定し、研究に取り組みます。研究テーマは、意思決定論・ゲーム理論、システム科学、人工知能などから、各自で関心のあるものを選び、具体化していきます。第1学期は、これらの分野の基本知識を得るために、関連分野の文献報告やそれに基づくディスカッション、グループワークを行います。第2学期は、グループ研究を主体とし、グループごとの研究進捗の報告およびディスカッションを中心に進めます。最後に一年間の成果を取りまとめ、発表してもらいます。これは4年生でのゼミ論作成のベースとなることを想定しています。また、他大学での研究会等、学外での発表やフィードバックの機会も予定しています。

到達目標

関連分野の知見や研究テーマに関する思索を深めることはもちろん大事ですが、グループ研究を通じて、

- ・自ら課題を発見、設定する力
- ・課題遂行のために適切に情報を収集し、まとめる力
- ・他者と協調的に物事を進める力
- ・成果を適確かつ魅力的にアピール、プレゼンテーションする力

を養うことも目指しています。これらはいずれも汎用性の高い、社会に出てからも重要なスキルになるはずです。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	研究の進め方
第3回	文献報告とディスカッション
第4回	文献報告とディスカッション
第5回	グループワーク
第6回	グループワーク
第7回	研究グループ分け
第8回	文献調査のしかた
第9回	文献報告とディスカッション
第10回	文献報告とディスカッション
第11回	文献報告とディスカッション
第12回	文献報告とディスカッション
第13回	ゲスト講演
第14回	総合ディスカッション
第15回	まとめ
第16回	後半のガイダンス
第17回	研究テーマ案の発表
第18回	研究テーマ案の発表
第19回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第20回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第21回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第22回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第23回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第24回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第25回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第26回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第27回	研究テーマにもどつく報告とディスカッション
第28回	最終プレゼンテーション
第29回	最終プレゼンテーション
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業計画は履修者の理解度や進捗に応じて柔軟に変更する可能性がある。ゲスト講師を招くこともある。

授業方法

文献や研究内容の発表報告、ディスカッションを中心に進める。グループワークを行うこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の報告担当者は、よく準備すること。また、研究を進めるのは基本的に授業時間外になるので、グループで協力し合いながら行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	出席、発表内容、議論への貢献度
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

報告等に対しては、講義中にコメントします。

教科書コメント

必要な文献や資料は、適宜配布する。

履修上の注意

履修者の積極的な参加が重要なので、(止むを得ない場合を除き)毎回出席すること。

その他

連絡はSlackで行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530103	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 東2-702		

授業概要

グループ発表、ディベートを通じて、経済問題に関する諸問題について議論します。

到達目標

(1)理論的な分析力を高めること、(2)プレゼンテーション能力を高めることが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、研究倫理
第2回	インゼミテーマ決め、個人面談
第3回	個人面談
第4回	ディベート(1)
第5回	ディベート(2)
第6回	ディベート(3)
第7回	ディベート(4)
第8回	インゼミテーマ及び構成の検討
第9回	インゼミ 1章発表
第10回	インゼミ 2章発表
第11回	インゼミ 3章発表
第12回	インゼミ 4章発表
第13回	インゼミ 5章発表
第14回	インゼミ 1章発表
第15回	インゼミ 2章発表
第16回	インゼミ 3章発表
第17回	インゼミ 4章発表
第18回	インゼミ 5章発表
第19回	発表内容の調整(1)
第20回	発表内容の調整(2)
第21回	発表内容の調整(3)
第22回	配布資料の確認
第23回	プレゼン練習(1)
第24回	プレゼン練習(2)
第25回	質疑応答の想定問答
第26回	SPI演習
第27回	自己分析(1)
第28回	自己分析(2)
第29回	総括
第30回	理解度の確認

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、グループ発表やディベートの準備をすること(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	プレゼン資料の内容を評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内での発表を通じて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行う。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530104	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	金田 直之		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 東2－101		

授業概要

企業価値評価の手法を勉強し、実際の事例に応用して、専門分野における考察力を高める。前半は企業価値評価に関する文献講読を行う。その後、各自が興味をもつ業界について、調査・分析を行うことを考えている。自ら問題を発見し、分析を行うとともに、討論・発表を行う訓練の場を提供していきたい。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

企業価値評価の基礎概念を理解して、財務諸表から関連する数字を読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	企業評価と財務諸表分析
第3回	貸借対照表の分析
第4回	損益計算書の分析
第5回	キャッシュフロー計算書の分析
第6回	財務比率の分析の概要
第7回	収益性の分析
第8回	効率性の分析
第9回	安全性の分析
第10回	成長性の分析
第11回	企業価値評価の考え方
第12回	マーケットアプローチによる評価
第13回	パソコンによる財務指標分析(1) パソコンによる財務指標分析(1) パソコンによる財務指標分析(1) パソコンによる財務諸表分析(1)
第14回	パソコンによる財務諸表分析(2)
第15回	1学期の総括・まとめ
第16回	グループ発表に向けたテーマの選定
第17回	グループ発表に向けた調査・分析(1)
第18回	インカムアプローチによる評価
第19回	割引率による計算
第20回	事業分析・経営戦略分析
第21回	グループ発表に向けた調査・分析(2)
第22回	会計戦略分析
第23回	M&Aによる価値創造のしかけ
第24回	業界分析
第25回	M&A現場の実況中継
第26回	「良い」M&Aと会社経営
第27回	参加者による企業分析(総合)
第28回	企業価値評価のトピック(1)
第29回	企業価値評価のトピック(2)
第30回	総括・まとめ

授業方法

演習形式で授業を進めていくため、積極的な参加が必須である。グループディスカッション、グループワークを用いたアクティブラーニングを実践する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	5 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	5 %	
その他(備考欄を参照)	90 %	

成績評価コメント

出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する。:90%
発表の際、十分な準備をしているかどうか、また、授業に積極的に参加しているかどうかポイントとなる。また、基礎的な概念を理解して分析を行っているかどうか評価の対象となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表については授業中にその都度コメントします。

教科書

企業評価論入門,奈良沙織,中央経済社,第1版,2019

教科書コメント

上記以外の文献は適宜指示する。

参考文献

企業分析入門,パレプほか,東京大学出版会,2002

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

連絡事項は授業中に伝えるほか、G-port、e-mailを使用することがある。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530105	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	「システム」という視点で考える		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 東2-101		

授業概要

我々の生活の中には、いろいろな便利・不便がある。何気ない生活を何気なく過ごすのではなく、日常の中の便利・不便にまずは気づき、そしてその意味、意図を考え抜くことがより良い社会へのステップとなる。本演習では、そういった身の回りの便利・不便について、「システム」という眼鏡をかけて、なぜ？どうすれば？を考えていく。身近な事象を徹底的に考えることを通して、目に見えないコトを目に見えるモノとして表現したり、物事を論理的に整理したりする能力を養う。ビジネスを考えるときにも、現状の改善・改革には、現状(as-is)を知り、あるべき姿(to-be)を描く能力が不可欠となる。臆せず、サボらず、自分自身の手で精力的にモデリングを実践すること。

到達目標

- (1)身の回りの様々な事象を「システム」という視点で捉える
- (2)ビジネスプロセスのモデリングと分析の手法を知る
- (3)テーマの選定から研究発表までの一連の流れを身に付ける
- (4)聞いて、考えて、伝える主体性とスキルを身につける

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	講義:企業と情報システム
第3回	グループワーク(テーマの範囲選定と研究内容のディスカッション)
第4回	グループワーク(文献調査1)
第5回	グループワーク(文献調査2)
第6回	グループワーク(テーマの絞り込み)
第7回	講義:ビジネスプロセスモデリング
第8回	グループワーク(問題状況の分析1)
第9回	グループワーク(問題状況の分析2)
第10回	グループワーク(課題の定義)
第11回	中間報告とフィードバック
第12回	グループワーク(研究手法の決定と研究計画の立案)
第13回	グループワーク(文献調査3)
第14回	まとめと問題整理
第15回	予備日
第16回	振り返りと研究計画の確認
第17回	グループワーク(調査・分析1)
第18回	グループワーク(調査・分析2)
第19回	グループワーク(調査・分析3)
第20回	中間報告とフィードバック2
第21回	グループワーク(調査・分析4)
第22回	グループワーク(調査・分析5)
第23回	報告書執筆と発表準備のための指導
第24回	グループワーク(報告書執筆)
第25回	グループワーク(報告書執筆および発表準備)
第26回	グループワーク(発表準備)
第27回	グループ研究発表とディスカッション1
第28回	グループ研究発表とディスカッション2
第29回	授業の総括
第30回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

トピックによっては講義形式のこともあるが、基本的にはグループワークを中心に授業を進める。グループワークでは、各グループで取り組む研究課題を選定し、その課題について研究・報告を行う。ゲスト講師を招くこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

グループ課題の発表のため、その調査、研究と発表準備をすること(最低でも3時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	発表や資料の内容により評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	クラス参加、グループへの貢献度によって評価する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループワーク中心の授業のため、都度授業内で各グループに対してコメントを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指示する。

履修上の注意

履修者制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

毎回の授業に全て出席することを原則とする。

主体性と好奇心、責任感を持って、誠実に課題とゼミ運営に取り組める学生を求める。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530106	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	国際経営財務		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	小山 明宏		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 東2-103		

授業概要

日本企業が海外に進出してビジネスを行う場合、その財務的意思決定をどのように行うかを勉強する。

到達目標

日本企業が国内で行う財務的意思決定が、海外だとどのように変わらなくてはならないかを、少しずつ理解できること。

授業内容

実施回	内容
第1回	国際経営の復習1
第2回	国際経営の復習2
第3回	国際経営の復習3
第4回	国際財務とは何か1
第5回	国際財務とは何か2
第6回	国際財務とは何か3
第7回	資料検討1
第8回	資料検討2
第9回	資料検討3
第10回	資料検討(総合評価)1
第11回	資料検討(総合評価)2
第12回	問題点の検討1
第13回	問題点の検討2
第14回	問題点の検討3
第15回	第1学期のまとめ
第16回	アジアでのケース検討(ゼミ論の資料)1
第17回	アジアでのケース検討(ゼミ論の資料)2
第18回	アジアでのケース検討(ゼミ論の資料)3
第19回	アジアでのケース検討(インタビュー予定)1
第20回	アジアでのケース検討(インタビュー予定)2
第21回	アジアでのケース検討(インタビュー予定)3
第22回	アジア以外でのケース検討(ゼミ論の資料)1
第23回	アジア以外でのケース検討(ゼミ論の資料)2
第24回	アジア以外でのケース検討(ゼミ論の資料)3
第25回	アジア以外でのケース検討(インタビュー予定)1
第26回	アジア以外でのケース検討(インタビュー予定)2
第27回	ゼミ論の準備1
第28回	ゼミ論の準備2
第29回	ゼミ論の準備3
第30回	第2学期のまとめ

授業方法

国際経営財務について、資料を輪読する。参加者によるレポートという形をとる。その後、事例研究としてケースにあたる。企業訪問も予定している。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

国際経営財務の中でも経済学的でない、経営という観点からの思考と問題意識を持って、問題にあたる姿勢を身につけたい。事前に教科書や参考資料の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%(分担した報告をきちんとこなすこと。) レポーターをきちんとこなすこと。それができれば単位取得となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

教科書

国際ビジネス・ファイナンス:アントレプレナーの経営学,ポール&リピューマ,慶應義塾大学出版会,2016,978-4-7664-2293-1

教科書コメント

教科書は配布する。また、関連資料のコピーを配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(10名) / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530107	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	新製品のマーケティング戦略		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	杉田 善弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 西1-205		

授業概要

昨年度杉田ゼミ(2年生)を修了した3年生の希望者を対象として、ニーズの発見から製品の市場投入まで新製品のマーケティング戦略を勉強します。また、学年末にはゼミ論を提出してもらいます。

到達目標

企業が直面する新製品に関わるマーケティング課題を解決するのに必要な分析スキルを身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介
第2回	ゼミ論の調査対象の市場(製品カテゴリー)、企業の発表
第3回	ゼミ論の調査対象の市場(製品カテゴリー)、企業の現状分析
第4回	現状分析発表(1班)
第5回	現状分析発表(2班)
第6回	現状分析発表(3班)
第7回	STPの方法(1)
第8回	STPの方法(2)
第9回	ゼミ論:新製品のアンケートに関する分析(1)
第10回	ゼミ論:新製品のアンケートに関する分析(2)
第11回	ゼミ論:新製品のアンケートに関する発表(1班)
第12回	ゼミ論:新製品のアンケートに関する発表(2班)
第13回	ゼミ論:新製品のアンケートに関する発表(3班)
第14回	第1学期のまとめ
第15回	予備日
第16回	新製品の4P立案
第17回	ゼミ論:新製品の4Pに関する発表(1班)
第18回	ゼミ論:新製品の4Pに関する発表(2班)
第19回	ゼミ論:新製品の4Pに関する発表(3班)
第20回	ゼミ論:全体発表準備
第21回	ゼミ論:全体発表(1班)
第22回	ゼミ論:全体発表(2班)
第23回	ゼミ論:全体発表(3班)
第24回	個人発表(1)
第25回	個人発表(2)
第26回	個人発表(3)
第27回	個人発表(4)
第28回	個人発表(5)
第29回	まとめ
第30回	予備日

授業計画コメント

受講者希望者数決定が1学期開始以降なので、受講者数によって授業の実施計画が変更になる可能性があります。

授業方法

授業では、グループディスカッションやグループワークを通じて企業のマーケティング上の問題を発見し、新製品による問題解決を図ります。また、個人発表では興味深いマーケティング課題について調査・報告をします。発表はPowerPointを用いて行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各班と個人の発表については、事前にレジメを配り、他の班や個人の発表に対して質問できる準備をしてきてください(どちらも約60分/週)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	発表(班、個人)を含む
その他(備考欄を参照)	30 %	ゼミ論

成績評価コメント

平常点(発表(班、個人)、討議への参加)とゼミ論を総合的に判断して評価します。マーケティング課題の解決については、結果そのものより、いかに結果をマーケティング理論に沿って導き出したかを重視して評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

グループ作業の成果(発表)と個人発表については、都度コメントと指導を行います。

教科書コメント

特にありません。授業時にプリントを配布します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530108	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	守島 基博		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西1－309		

授業概要

この演習では、前期で人的資源管理についてのやや難しい書籍を読み、後期はグループ研究を行う予定である。後期のグループ研究は、企業の人事部門の協力を得て行うものであり、他大学とのインターゼミ形式で行う。2021年1ないし2月に最終発表会を予定している。

到達目標

人的資源管理分野で書籍や資料等を使った研究を行い、発表ができること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	1 ワークライフバランス、女性活躍推進など
第3回	2 働き方改革、柔軟な働き方など
第4回	3 ダイバーシティなど
第5回	4 メンバーシップ雇用とジョブ型雇用など
第6回	5 配置転換、出向など
第7回	6 解雇、退職など
第8回	7 雇用のあり方、非正規人材などなど
第9回	8 目標管理など
第10回	9 成果主義など
第11回	10 リーダーシップ、組織開発など
第12回	11 企業業績との関係など
第13回	まとめと振り返り
第14回	夏休み中の計画策定
第15回	予備日
第16回	後期プロジェクトのオリエンテーション
第17回	後期テーマの決定と発表
第18回	自主研究: その1
第19回	自主研究: その2
第20回	中間報告: その1
第21回	自主研究: その3
第22回	自主研究: その4
第23回	中間報告: その2
第24回	自主研究: その5
第25回	自主研究: その6
第26回	ゼミ内最終報告
第27回	自主研究: その7
第28回	ゼミ内最終発表
第29回	企業向けの最終報告
第30回	予備日

授業方法

・演習及びグループワーク、最終発表

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

・前期は書籍を読むので、2年生の時と同様に、発表が当たっているときは、週に10時間程度の準備が必要である。
・後期の、企業との研究では、ゼミ外でも、それ以上多くの時間を割くことが予想される。だが、逆に授業時間に拘束されない週も多い。

成績評価の方法・基準

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・個々人の参加度合いと最終成果の質で評価をつけるので、各人積極的に参加することが期待される。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

- ・前期は毎回の発表にフィードバックし、後期は中間報告や最終発表において、コメントをする。

教科書

- 初回授業で提示する。

参考文献

- 特にない。

履修上の注意

- 後期のグループワークは自主的に作業にとりかかる自律性が求められるので、注意すること。

その他

- ・守島と連絡を取りたいときは、まず、大学のアドレスにメールを送ること。連絡は基本的にメールで行う。

カリキュラムマップ

- 以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530109	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	日本の医療・介護制度		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	遠藤 久夫		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 5時限 西1-314		

授業概要

少子高齢化の進展と経済成長の鈍化に直面する日本にとって、社会保障制度の改革が第一級の国内問題である。この講義では、日本の医療制度・介護制度の現状と課題を理解し、制度改革の在り方について学習する。

到達目標

医療制度、介護制度を理解し、医療制度改革の内容を適切に評価できるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	日本の医療提供体制1:医療機関の特徴
第3回	日本の医療提供体制2:医師・看護師の育成と労働市場
第4回	日本の医療保険制度1:医療費の構造と医療保険体系
第5回	日本の医療保険制度2:混合診療の禁止の是非
第6回	診療報酬制度の特徴:政策手段としての診療報酬
第7回	薬価基準制度の特徴:薬価基準制度の特徴:新薬開発インセンティブと薬剤費抑制
第8回	国民医療費の制御:診療報酬改定率と自己負担
第9回	日本の少子高齢化の動向
第10回	高齢化と医療1:医療費の増加と負担問題(全世代型社会保障)
第11回	高齢化と医療2:地域別の病床再編(地域医療構想)
第12回	介護保険制度1:介護保険制度の特徴
第13回	介護保険制度2:介護保険制度の課題
第14回	高齢化と地域包括ケア
第15回	テーマ別のグループディスカッション
第16回	テーマ別のグループディスカッション
第17回	テーマ別のグループディスカッション
第18回	テーマ別のグループディスカッション
第19回	テーマ別のグループディスカッション
第20回	テーマ別のグループディスカッション
第21回	テーマ別のグループディスカッション
第22回	テーマ別のグループディスカッション
第23回	テーマ別のグループディスカッション
第24回	テーマ別のグループディスカッション
第25回	テーマ別のグループディスカッション
第26回	テーマ別のグループディスカッション
第27回	テーマ別のグループディスカッション
第28回	テーマ別のグループディスカッション
第29回	テーマ別のグループディスカッション
第30回	テーマ別のグループディスカッション

授業方法

前半は講義形式、後半はテーマ別のグループ学習。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

予習は不要であるが、復讐は必ず行うこと(1時間程度)。また、関連する書籍や新聞・雑誌を積極的に読むことを進める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	出席をとる
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習時に毎回、質問を受けて課題の理解を深める。

教科書コメント

適宜レジюмеを配布し、教科書は使用しない。

参考文献コメント

演習中に適宜、紹介する。

履修上の注意

履修希望者は第一回目の授業に必ず出席すること。

その他

演習履修者「は医療システム論」(経営学科 月曜2時限)を履修することが条件。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530110	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	Venture business		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 5時限 西2-406		

授業概要

The seminar is aimed at students preparing for a global career in innovative industries and interested in starting or joining venture startups.

到達目標

The primary objectives of this seminar are (1) learn how new ventures are formed and managed, (2) understand information technology (IT) trends including digital currencies (Bitcoin), sharing (Airbnb, Uber), and programming (Ruby) and (3) practice communication skills necessary for working in groups, having productive discussions, and making effective presentations.

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction
第2回	Programming practice 1
第3回	Programming practice 2
第4回	Programming practice 3
第5回	Programming practice 4
第6回	Venture case study 1
第7回	Venture case study 2
第8回	Venture case study 3
第9回	Venture case study 4
第10回	New business planning 1
第11回	New business planning 2
第12回	New business planning 3
第13回	New business planning 4
第14回	New business planning 5
第15回	Summary
第16回	Programming practice 5
第17回	Programming practice 6
第18回	Programming practice 7
第19回	Programming practice 8
第20回	Programming practice 9
第21回	Venture case study 5
第22回	Venture case study 6
第23回	Venture case study 7
第24回	Venture case study 8
第25回	New business planning 6
第26回	New business planning 7
第27回	New business planning 8
第28回	New business planning 9
第29回	New business planning 10
第30回	Summary

授業方法

The seminar will emphasize groupwork, presentations, and discussion.

使用言語

英語

準備学習(予習・復習)

Students will be expected to prepare presentations.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Feedback will be provided during class.

教科書コメント

Books and other learning materials will be supplied in class.

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530112	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 5時限 西2-405		

授業概要

中国、新興国におけるオンラインとオフラインの融合、プラットフォーム企業の戦略について、(1)日本においてプロジェクトを実施し、(2)中国での、具体的な業界・企業の戦略について調査を行う。

到達目標

現実の企業経営に関して、プロジェクトとおよびフィールドワークを行って事実を確認し、学術的な分析枠組みを適用して、事実を評価することを経験する。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	研究テーマについてプレゼンテーション資料の作成(1):テーマ設定と先行文献
第3回	研究テーマについてのプレゼンテーション資料作成(2):先行文献10本のレビュー
第4回	研究テーマのプレゼンテーション
第5回	分析概念の復習(1)
第6回	分析概念の復習(2)
第7回	実証方法の設定:インタビュー(ケーススタディ法)と計量的方法の比較と選択、資料収集法の確認
第8回	中間報告:仮説の設定と実証方針の報告
第9回	実証方法の実習I(1)インタビュー計画の策定と準備
第10回	実証方法の実習I(2)インタビュー計画の策定
第11回	実証方法の実習I(3)インタビューの実施
第12回	実証方法の実習I(4)インタビューの実施
第13回	実証方法の実習I(5)インタビューでの発見の整理
第14回	実証方法の実習I(6)インタビュー結果の分析 どのようなロジックを発見できたか？ どのような分析枠組みから理解することができるか？
第15回	中間総括
第16回	実証方法の実習II(1)インタビュー調査の発見から、一般論へ、どう結び付けるか？ 共通するロジックの発見か、統計的な検証か？
第17回	実証方法の実習II(2)データ分析が必要、適用可能な仮説の設定
第18回	実証方法の実習II(3)データの利用可能性の探索
第19回	実証方法の実習II(4)データの収集
第20回	実証方法の実習II(5)データの整理と分析
第21回	実証方法の実習II(6)データの分析
第22回	中間報告 データ分析報告会
第23回	実証方法の実習II(7) 分析手法の修正とその報告
第24回	実証方法の実習II(8)データ分析のまとめ
第25回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(1)ケーススタディ、インタビューからの発見
第26回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(2)ロジックによる確認
第27回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(3)計量分析による確認
第28回	分析報告:最後に何がわかったのか？何がまだわからないのか。
第29回	ディベートもしくは報告会
第30回	フィードバックと総括

授業方法

授業計画のスケジュールに従って、調査プロジェクトを実施する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

プロジェクト遂行のために必要な準備を行う(約30分から120分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回議論を重ねながらプロジェクトを造っていく

教科書

- アリババ 世界最強のスマートビジネス ,ミン・ゾン,文藝春秋,2019,978-4163911199
- 計量経済学の第一歩:有斐閣ストゥディア,田中隆一,有斐閣,2015,978-4-641-45028-7
- ジョブ理論,クリステンセン,ハーパーコリンズ・ ジャパン ,2017,978-4596551221
- プラットフォームの経済学,ブルフェニソン,日経BP,2018,978-4822255633

参考文献コメント

適宜指示をする

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530113	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	組織行動論		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	竹内 倫和		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 中央ー508		

授業概要

本演習では、組織で働く従業員の態度や行動を科学的に検討する組織行動論について、議論をしていきます。4年次最後の卒業論文作成に向けて、この演習(3年生)では、前半にケーススタディに基づく学習とデータ分析についての知識を習得し、後半はグループごとに研究テーマの設定、仮説構築、調査票の作成等をしていきます。したがって、ゼミ生の学習に対する積極的な意欲を強く望みます。なお、SPSSの操作方法を含む統計的知識があることが望ましい(演習でも学習する予定)。

到達目標

卒業論文(実証研究)の作成を通して、組織行動論の各テーマについての専門的知識、論理思考力及びデータ分析能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:演習の進め方、方針
第2回	ゼミ生による発表とディスカッション(1)
第3回	ゼミ生による発表とディスカッション(2)
第4回	ゼミ生による発表とディスカッション(3)
第5回	ゼミ生による発表とディスカッション(4)
第6回	ゼミ生による発表とディスカッション(5)
第7回	ゼミ生による発表とディスカッション(6)
第8回	ゼミ生による発表とディスカッション(7)
第9回	ゼミ生による発表とディスカッション(8)
第10回	データ分析(1)
第11回	データ分析(2)
第12回	データ分析(3)
第13回	データ分析(4)
第14回	データ分析(5)
第15回	自主研究
第16回	研究テーマの設定(1)
第17回	研究テーマの設定(2)
第18回	研究テーマの設定(3)
第19回	研究テーマに基づく先行研究の発表(1)
第20回	研究テーマに基づく先行研究の発表(2)
第21回	研究テーマに基づく先行研究の発表(3)
第22回	研究テーマに基づく先行研究の発表(4)
第23回	研究テーマに基づく先行研究の発表(5)
第24回	研究テーマに基づく先行研究の発表(6)
第25回	研究テーマに基づく先行研究の発表(7)
第26回	研究テーマに基づく先行研究の発表(8)
第27回	調査票の作成(1)
第28回	調査票の作成(2)
第29回	調査票の作成(3)
第30回	自主研究

授業方法

ゼミ生による研究発表と討議(演習形式)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指定された範囲の研究発表(約5時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	90 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	ゼミの授業及び諸活動への貢献

成績評価コメント

詳細は、初回授業時に説明します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各課題の重要なポイントは、授業内で説明される。

また、各自のプレゼンテーションに対するフィードバックは毎回行われる。

教科書コメント

初回の授業時に提示します。

参考文献コメント

適宜、演習中に提示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

時間内に終わらない場合、演習は予告なく延長します。また、サブゼミを行う場合がありますので、あらかじめそのつもりでいて下さい。したがって、演習時間の後に私的な予定を入れないようにお願いします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530114	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	竹原 有吾		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 中央－506		

授業概要

第1学期は、演習(2年生)の授業を踏まえて関心を持った地域について調べたことを発表してもらう。第2学期は、学生が関心を持っている産業、もしくは企業について調べたことを発表してもらう。また1年間、文献を読み進めることを通して、経営史のより深い理解に必要な西洋史の知識を身につけてもらう。

到達目標

- ①研究目的に沿って収集した情報を整理・分析し、その研究成果をわかりやすく説明することができる。
- ②経営史の理解を深めるのに役立つ西洋史の知識を身につけている。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	研究方法や研究報告の進め方について(第1学期)
第3回	文献内容(第1、2章)に関する報告と補足説明
第4回	特定の地域に関する研究報告とディスカッション(1)
第5回	文献内容(第3、4章)に関する報告と補足説明
第6回	特定の地域に関する研究報告とディスカッション(2)
第7回	文献内容(第5、6章)に関する報告と補足説明
第8回	特定の地域に関する研究報告とディスカッション(3)
第9回	文献内容(第7、8、9章)に関する報告と補足説明
第10回	特定の地域に関する研究報告とディスカッション(4)
第11回	文献内容(第10、11、12章)に関する報告と補足説明
第12回	特定の地域に関する研究報告とディスカッション(5)
第13回	文献内容(第13、14、15章)に関する報告と補足説明
第14回	第1学期のまとめ
第15回	振り返り
第16回	第1学期の復習と第2学期の報告担当者の割り振り
第17回	研究方法や研究報告の進め方について(第2学期)
第18回	文献内容(第16、17章)に関する報告と補足説明
第19回	特定の産業(もしくは企業)に関する研究報告とディスカッション(1)
第20回	文献内容(第18、19章)に関する報告と補足説明
第21回	特定の産業(もしくは企業)に関する研究報告とディスカッション(2)
第22回	文献内容(第20、21、22章)に関する報告と補足説明
第23回	特定の産業(もしくは企業)に関する研究報告とディスカッション(3)
第24回	文献内容(第23、24、25章)に関する報告と補足説明
第25回	特定の産業(もしくは企業)に関する研究報告とディスカッション(4)
第26回	文献内容(第26、27、28章)に関する報告と補足説明
第27回	特定の産業(もしくは企業)に関する研究報告とディスカッション(5)
第28回	文献内容(第29、30章)に関する報告と補足説明
第29回	第2学期のまとめ
第30回	到達度の確認

授業計画コメント

研究倫理についても理解を深めてもらえるように授業を展開していく予定である。

授業方法

文献の輪読とディスカッションを中心に授業を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- (1) 課題となっている文献を読み進める。担当者は報告資料を作成する。(1～2時間)
- (2) 演習の中で議論した内容を整理する。(1時間)
- (3) 演習で扱ったテーマに関連する文献があれば、それを読む。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	演習の中で与えられた課題に取り組む姿勢
その他(備考欄を参照)	50 %	報告内容

成績評価コメント

本演習で取り組むことになった課題に主体的に取り組むことができているかを主に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中で、報告の仕方や文献・資料の収集方法、分析視角など改善すべき点が見つかれば指導する。

教科書コメント

第1回目の授業の際に、読み進めていく文献を提示する。

参考文献コメント

適宜、授業の中で指示する。

履修上の注意

履修者数に制限あり。
各学期の第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530115	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	本川 勝啓		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 西2－203		

授業概要

グループワークによる投資ポートフォリオの提案を実践する。毎回3グループが報告し、参加者全員が活発に議論やコメントを行ってより良い分析内容になるように取り組む。

到達目標

日経ストックリーグへの参加を通じて、株式投資の基本知識を身に付け、ポートフォリオの構築を実践できるようにする。また、調査・分析・発表・議論等を通じて日本や国際社会への問題意識や関心を高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス/グループ分け
第2回	投資アイデアの提案①プレゼンテーション
第3回	投資アイデアの提案②ディスカッション
第4回	公開資料の調査①プレゼンテーション
第5回	公開資料の調査②ディスカッション
第6回	関連書籍・論文の調査①プレゼンテーション
第7回	関連書籍・論文の調査②ディスカッション
第8回	フィールドワーク①プレゼンテーション
第9回	フィールドワーク②ディスカッション
第10回	ポートフォリオテーマの提案①プレゼンテーション
第11回	ポートフォリオテーマの提案②ディスカッション
第12回	ポートフォリオテーマの決定①プレゼンテーション
第13回	ポートフォリオテーマの決定②ディスカッション
第14回	中間報告書の作成
第15回	小括
第16回	第1スクリーニング①プレゼンテーション
第17回	第1スクリーニング②ディスカッション
第18回	第2スクリーニング①プレゼンテーション
第19回	第2スクリーニング②ディスカッション
第20回	第3スクリーニング①プレゼンテーション
第21回	第3スクリーニング②ディスカッション
第22回	投資額配分方法の決定①プレゼンテーション
第23回	投資額配分方法の決定②ディスカッション
第24回	投資家へのアピール①プレゼンテーション
第25回	投資家へのアピール②ディスカッション
第26回	ポートフォリオの確定①プレゼンテーション
第27回	ポートフォリオの確定②ディスカッション
第28回	最終報告書の作成①草稿の執筆
第29回	最終報告書の作成②草稿の最終化
第30回	総括

授業方法

グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告グループはパワーポイント等の準備を行うこと。(2週間に5時間程度)
各グループにつき報告20分、議論10分程度を予定している。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回グループワーク発表後に内容に対してコメントする。

教科書

新訂 証券アナリストのためのファイナンス理論,佐野 三郎,ビジネス教育出版社,2017,9784828306681

京都企業-歴史と空間の産物-,徳賀芳弘,中央経済社,2016,9784502185519

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530116	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
副題	機械学習による企業分析		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	白田 由香利		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 中央ー506		

授業概要

日本企業の多くは2008年のリーマンショックの影響後、長期に渡る低迷期に入っているが、成長している企業も少なからず存在します。ゼミではその業績要因を機械学習の回帰(Regression)及び分類(Classification)によって探求します。機械学習の分野ではDeep Neural Network(DNN)モデルが広く使われていますが、経営分析の分野ではGBDT(Gradient Boosted Decision Tree)等のツリー系の機械学習手法が性能の高さを示しています。そうした最新の人工知能の手法を用いて企業の成長に影響を与える要素を探っていきます。データはEOL等から検索します。検索方法も講義します。前期は、日本企業、後期は、世界の著名企業情報を用いて、企業の成長要因を探ります。人工知能を経営分析にどのように活用するかという実践的なスキルが身に付きます。講義では、分析、論文作成、発表練習等を行います。希望者には、電子情報通信学会等で発表して頂きます。

到達目標

最新の人工知能による分析手法で企業分析ができる

授業内容

実施回	内容
第1回	グループでターゲットを決定する.
第2回	企業情報の各種項目の説明
第3回	EOLからのデータ収集
第4回	回帰分析(1)
第5回	回帰分析(2)
第6回	論文作成(1)
第7回	論文作成(2)
第8回	発表pptの作成
第9回	発表練習
第10回	学会での発表あるいは参加
第11回	関連企業情報分析(1)
第12回	関連企業情報分析(2)
第13回	発表pptの作成
第14回	個人またはグループによるプレゼンテーション
第15回	〃
第16回	後期のためのオリエンテーション
第17回	ゼミ論文作成:テーマ検討
第18回	世界の著名企業の企業分析(1)
第19回	世界の著名企業の企業分析(2)
第20回	その回帰分析(1)
第21回	回帰分析(2)
第22回	論文作成(1)
第23回	論文作成(2)
第24回	個人またはグループによるプレゼンテーション
第25回	〃
第26回	トピック抽出分析(1) 演習
第27回	トピック抽出分析(2) 演習
第28回	個人またはグループによるプレゼンテーション
第29回	〃
第30回	まとめ

授業計画コメント

3年では、グループでテーマを決めて、各グループごとに研究活動を行います。

授業方法

前期は2人1組で、論文を書いて、希望者は学会で発表です。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備は不要ですが、分析および論文や発表ppt作成の殆どは課外学習となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	作成した論文および発表用pptなど
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 課題レポートと、複数回の発表の内容を重視します。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは赤入れして返却します。

参考文献

統計的学習の基礎,Trevor Hastie他,共立出版,2014

履修上の注意

履修者は、データ科学1C と2C (白田担当)、経営科学2、経営数学1と2を履修すること。
希望者のみですが、夏休みに可視化教材による「経済のためのマトリクス計算」を行います。

その他

白田のWebに各種教材が載っています。<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/>

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220530117	科目ナンバリング	022B300
講義名	演習(3年生)		
英文科目名	Seminar(3rd year students)		
担当者名	武石 彰		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西2－503		

授業概要

この演習の主題は、「経営学(とくに戦略論、組織論)の観点からイノベーションについて理解し、考えること」である。関連する基礎的もしくは先端的な文献の輪読、ケースのディスカッション、グループプロジェクトなどを通じて、ゼミ生同士や教員との双方向のやりとりをしながら、主体的に学習することに重点を置く。合わせて、経営学(より広くは、社会科学)から何をどのように学ぶか、それは現実においてどのように活用できるのか、という点について学び、考えることも目的とする。

到達目標

実社会において、イノベーションについて考え、取り組む上で、有用な経営学の理論、枠組み、視点ならびにそれらの現実の問題への応用の仕方を理解し、身につけることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	ゼミの概要、進め方、スケジュール、ケースディスカッション:ラジオの誕生とFMの革新
第2回	ケースディスカッション:ラジオの誕生とFMの革新、グループプロジェクトの課題
第3回	レクチャー:イノベーションとそのマネジメント
第4回	輪読:「マネジメント」(1、2章)
第5回	輪読:「マネジメント」(3章)
第6回	輪読:「マネジメント」(4章)
第7回	輪読:「マネジメント」(5章)
第8回	輪読:「マネジメント」(6章)
第9回	輪読:「マネジメント」(7章)
第10回	輪読:「マネジメント」(8章)
第11回	輪読:「マネジメント」(9章)
第12回	輪読:「マネジメント」(結論、付章、総括)
第13回	グループプロジェクト最終報告作業
第14回	グループプロジェクト最終報告
第15回	予備日
第16回	ゼミの概要、進め方、スケジュール、グループプロジェクトの課題
第17回	輪読:「イノベーションのジレンマ」(序章、1章)
第18回	輪読:「イノベーションのジレンマ」(2、3章)
第19回	輪読:「イノベーションのジレンマ」(4、5章)
第20回	輪読:「イノベーションのジレンマ」(6、7章)
第21回	輪読:「イノベーションのジレンマ」(8、9章)
第22回	輪読:「イノベーションのジレンマ」(10章、総括)
第23回	レクチャー:「イノベーションのジレンマ」の実践における意味
第24回	グループプロジェクト中間報告
第25回	ケースディスカッション
第26回	輪読:「職業としての学問」
第27回	グループプロジェクト作業
第28回	グループプロジェクト最終報告
第29回	グループプロジェクト最終報告
第30回	予備日

授業計画コメント

授業の内容、進め方、スケジュールは、履修者の人数を踏まえて、再調整する可能性がある。

授業方法

授業の進め方の詳細は履修者の人数を踏まえて確定するが、おおそ以下を予定している。輪読では、事前に割り当てられた報告者が課題文献の内容について用意したレジメに基づいて報告し、他の学生も事前に精読した上で授業に臨み、報告に基づいて課題文献についてディスカッションする。ケースディスカッションでは、事前に事例を精読し、設定された問いについて自分の考えをまと

めた上で授業に臨み、全員でディスカッションする。グループプロジェクトでは履修者を複数のグループに分け、設定された課題について共同で調査し、分析し、報告する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

輪読では、取り上げる文献を事前に精読しておくこと。輪読報告担当者は事前にレジメを用意し、授業での報告の準備をする。ケースディスカッションでは、取り上げるケースを事前に精読し、設定された問いについて自分の考えをまとめておく。グループプロジェクトでは、中間報告、最終報告に向けて、授業時間外の時間も利用して、設定された課題について共同で調査、分析し、報告の準備を行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	文献報告レジメ、ケースディスカッション・メモ、グループプロジェクト報告レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	出席、ディスカッションへの参加、グループプロジェクトの成果
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

輪読報告では文献の内容を正確に理解、要約、報告しているかを基準にして評価する。ディスカッションでは発言の回数と質(特に討議の主題をめぐって的確な議論ができていくかどうか)を基準に評価する。グループプロジェクトでは課題について協力しながら的確な調査、分析、報告が出来ているかを基準に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レジメ、報告、ディスカッション、メモ、報告レポートについては、適宜気がついたことをその場、もしくは事後にコメントする。

教科書

エッセンシャル版 マネジメント:基本と原則,P.ドラッカー,ダイヤモンド社,2001,4-478-41023-2

イノベーションのジレンマ,C.クリステンセン,翔泳社,増補改訂版,2001,4-7981-0023-4

職業としての学問,M.ウェーバー,岩波文庫(白209-5),1980,4-00-342095-0

参考文献コメント

その他の文献は適宜指示、配布する。

その他

演習は共同で学ぶ場であり、ゼミ生は各々貢献を果たすことが求められる。毎回のゼミに出席し、報告、ディスカッション、グループプロジェクト、コンパ、合宿等、皆が参加することを前提としている共同活動に真摯に取り組むことが期待される。担当教員と連絡を取りたい時には、大学のメールアドレスにメールを送ること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540101	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
副題	消費者行動分析とマーケティング戦略		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	青木 幸弘		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2-506		

授業概要

2年次、3年次での研究をベースに、4年次では卒業研究に取り組む。消費者のニーズや購買行動に関する分析に基づき、現代企業のマーケティング戦略(製品・ブランド戦略や広告コミュニケーション戦略など)について個別に研究していく。

到達目標

2年次および3年次の演習で修得した知識やスキルをベースに卒業研究に取り組み、マーケティング課題の達成に必要な分析力・企画力・プレゼンテーション力等を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業計画の説明と研究グループ編成
第2回	グループ研究とディスカッション①
第3回	グループ研究とディスカッション②
第4回	グループ研究とディスカッション③
第5回	グループ研究とディスカッション④
第6回	グループ研究とディスカッション⑤
第7回	中間報告①
第8回	中間報告②
第9回	グループ研究とディスカッション⑥
第10回	グループ研究とディスカッション⑦
第11回	グループ研究とディスカッション⑧
第12回	グループ研究とディスカッション⑨
第13回	最終報告①
第14回	最終報告②
第15回	到達度の確認

授業方法

本演習では、単にマーケティング理論を学ぶだけではなく、将来、マーケターとして必要となる様々なスキル(分析力、企画力、プレゼンテーション力、等)の修得にも重きを置いている。このため少人数のグループに分かれて、具体的なテーマで実証研究に取り組む。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配付資料や関連資料に目を通し、重要なポイントを把握・理解しておくこと。また、指示に従って事前の研究課題に取り組み、中間報告および最終報告での発表準備を行っておくこと(1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	グループ研究の成果を踏まえて、学期末にレポートを提出する。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	毎回の授業におけるコメント・ペーパー、グループ研究の発表内容によって評価する。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(授業への参加および卒業研究の中間報告):70%、レポート(学年末に提出する研究報告書):30%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中およびmanaba(ラーニング・ポートフォリオ・システム)によりフィードバックする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540102	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	杉田 善弘		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央－502		

授業概要

昨年度杉田ゼミ(3年生)で単位修得した4年生の希望者を対象として企業・業界の研究を行っていきます。3年生で習得した企業と市場の分析方法を用いて、各人が興味を持っている企業・業界の現状を分析、将来への展望とともに発表してもらいます。また、学年末にはゼミ論を提出してもらいます。

到達目標

3年時に習得したマーケティング分析のスキルを用いて、企業と業界(特に、マーケティング活動)の分析を確実に行えるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	紹介
第2回	企業・業界についての発表(1)
第3回	企業・業界についての発表(2)
第4回	企業・業界についての発表(3)
第5回	企業・業界についての発表(4)
第6回	企業・業界についての発表(5)
第7回	企業・業界についての発表(6)
第8回	企業・業界についての発表(7)
第9回	企業・業界についての発表(8)
第10回	企業・業界についての発表(9)
第11回	企業・業界についての発表(10)
第12回	ゼミ論発表(1)
第13回	ゼミ論発表(2)
第14回	まとめ
第15回	予備日

授業方法

各受講者がそれぞれ選んだ企業・業界を調査し、ゼミでの発表や討論を通じて、マーケティング上の問題を発見し、問題解決を図ります。発表はPowerPointを用いて行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表については事前にレジメを配り、他の学生の発表に対しては質問をできるようにしてください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	65 %	ゼミ論

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表に関しては都度授業でコメントをします。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540103	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
副題	Venture business		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	RTISCHEV, Dmitry		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西2-505		

授業概要

The seminar is aimed at students preparing for a global career in innovative industries and interested in starting or joining venture startups.

到達目標

The primary objectives of this seminar are (1) learn how new ventures are formed and managed, (2) understand information technology (IT) trends including digital currencies (Bitcoin), sharing (Airbnb, Uber), and programming (Ruby) and (3) practice communication skills necessary for working in groups, having productive discussions, and making effective presentations.

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction
第2回	Programming practice 1
第3回	Programming practice 2
第4回	Venture case study 1
第5回	Venture case study 2
第6回	New business planning 1
第7回	New business planning 2
第8回	Programming practice 3
第9回	Programming practice 4
第10回	Venture case study 3
第11回	Venture case study 4
第12回	New business planning 3
第13回	New business planning 4
第14回	New business planning 5
第15回	Review

授業方法

The seminar will emphasize groupwork, presentations, and discussion.

使用言語

英語

準備学習(予習・復習)

Students will be expected to prepare presentations.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Feedback will be provided during class.

教科書コメント

Books and other learning materials will be supplied in class.

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540104	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 4時限 中央－505		

授業概要

卒業研究に取り組みます。

到達目標

卒業研究を完成させることが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業研究発表(1)
第3回	卒業研究発表(2)
第4回	卒業研究発表(3)
第5回	卒業研究発表(4)
第6回	卒業研究発表(5)
第7回	卒業研究発表(6)
第8回	卒業研究発表(7)
第9回	卒業研究発表(8)
第10回	卒業研究発表(9)
第11回	卒業研究発表(10)
第12回	卒業研究発表(11)
第13回	卒業研究発表(12)
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、発表の準備を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(発言内容等を評価の対象とする。)卒業論文、授業での発言内容等に基づき評価します。授業内での発表を通じて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行います。レポート:50%(論文の内容を評価の対象とする。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の討議を通じて、発表内容等に対するフィードバックを行う。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540105	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	金田 直之		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 東2－101		

授業概要

企業価値評価の手法を前提に、実際の具体的事例を研究する。M&A, 企業再生、アメルバ経営などの事例を想定しているが、詳細は履修者と相談して決めたい。また、研究と並行して輪読も行いたい。また、論文作成等をする上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

企業価値評価の基礎概念を使って、M&Aなどにおける企業価値の把握を行い、企業経営上の問題把握・討論ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	M&Aにむけた戦略策定
第3回	相手企業の選定
第4回	相手企業との交渉
第5回	相手企業の企業価値評価
第6回	買収資金の調達
第7回	海外企業のM&A
第8回	事例発表(1)
第9回	M&Aの会計処理
第10回	M&A後の企業価値向上
第11回	事例発表(2)
第12回	中小企業のM&A
第13回	これからのM&A
第14回	事例発表(最終)ーケーススタディ提出
第15回	統括・演習のまとめ

授業方法

演習形式で行うため、積極的な参加が必須である。 グループディスカッション、グループワークを用いたアクティブラーニングを実践する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の該当部分を事前に読んでくること。(約30分)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)	90 %	

成績評価コメント

出席・議論への参加状況・発表などを総合的に評価する。 :90% レポート:5%
発表の際、十分な準備をしているかどうか、また、授業に積極的に参加しているかどうかポイントとなる。また、基礎的な概念を理解して分析を行えているかどうか評価の対象となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表については授業中にその都度コメントします。

教科書

M&A戦略のケース・スタディ,坂本恒夫・文堂弘之,中央経済社,2008

教科書コメント

必要に応じて別途指定する。

参考文献

全員で稼ぐ組織:「アメーバ経営」の教科書,森田直行,日経BP社,2014

参考文献コメント

参考文献は適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

企業価値評価のほか、参加者の興味に合わせて、報酬制度、経営戦略などの視点も加えたい。内定先の企業を題材に選ぶことも考えている。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540106	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
副題	国際経営財務		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	小山 明宏		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西1-105		

授業概要

日本企業が海外に進出してビジネスを行う場合、その財務的意思決定をどのように行うかを勉強する。

到達目標

日本企業が国内で行う財務的意思決定が、海外だとどのように変わらなくてはならないかを、理解できること。

授業内容

実施回	内容
第1回	国際財務の復習1
第2回	国際財務の復習2
第3回	国際財務の復習3
第4回	各自のケースの発表1
第5回	各自のケースの発表2
第6回	各自のケースの発表3
第7回	各自のケースの発表4
第8回	各自のケースの発表5
第9回	ゼミ論の構成検討1
第10回	ゼミ論の構成検討2
第11回	ゼミ論の完成1
第12回	ゼミ論の完成2
第13回	ゼミ論の完成3
第14回	ゼミ論の完成4
第15回	ゼミ論の完成5

授業方法

国際経営財務について、今迄の勉強をもとに、ゼミ論を完成する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

国際経営財務の中でも経済学的でない、経営という観点からの思考と問題意識を持って、問題にあたる姿勢を身につけたい。事前に教科書や参考資料の該当箇所を読んでおくこと(約30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%(分担した報告をきちんとこなすこと。) レポーターをきちんとこなすこととゼミ論の完成。それができれば単位取得となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講者の理解度を確認の上、授業状況に反映させる。

教科書

国際ビジネス・ファイナンス:アントレプレナーの経営学,ポール&リピューマ,慶應義塾大学出版会,2016,978-4-7664-2293-1

教科書コメント

教科書は配布する。また、関連資料のコピーを配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(10名) ／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540107	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
副題	機械学習による企業分析		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	白田 由香利		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西1－203		

授業概要

世界の著名企業情報を用いて、企業の成長パターンの分析を機械学習の手法を用いて行います。人工知能を経営分析にどのように活かす実践的なスキルが身に付きます。

到達目標

最新の人工知能による回帰分析、クラス分類などの手法を理解できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	グループでターゲットを決定する.
第2回	SNSメッセージのピークを分析
第3回	SNSメッセージからのトピック抽出分析演習
第4回	株価分析(1)
第5回	株価分析(2)
第6回	世界の著名企業の企業分析(1)
第7回	世界の著名企業の企業分析(2)
第8回	発表pptの作成
第9回	発表練習
第10回	関連企業情報分析(1)
第11回	関連企業情報分析(2)
第12回	発表pptの作成
第13回	個人またはグループによるプレゼンテーション
第14回	個人またはグループによるプレゼンテーション
第15回	総括

授業方法

グループでテーマを決めて、各グループごとに研究活動を行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備は不要ですが、分析および論文や発表ppt作成の殆どは課外学習となります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	作成した論文および発表用pptなど
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50% 課題レポートと、複数回の発表の内容を重視します。レポート:50%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは赤入れして返却します。

参考文献

統計的学習の基礎,Trevor Hastie他,共立出版,2014

履修上の注意

履修者は、データ科学1C と2C (白田担当)、経営科学2、経営数学1と2を履修すること。
希望者のみですが、夏休みに可視化教材による「経済のためのマトリクス計算」を行います。

その他

白田のWebに各種教材が載っています。<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20010570/>

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540108	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	竹原 有吾		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央－506		

授業概要

経営史的な視点からユダヤ教徒を取り巻く環境が歴史的にどのように変化してきたかについて検討してもらう。

到達目標

経営史的な視点から主に古代から近代にかけてのユダヤ教徒の歴史について説明することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	演習(3年生)の授業内容の復習
第3回	宗教とビジネスに関して
第4回	ユダヤ人とユダヤ教に関して
第5回	古代のユダヤ人について
第6回	中世イスラーム世界のユダヤ人について
第7回	中世ヨーロッパ世界のユダヤ人について
第8回	近世ヨーロッパ世界のユダヤ人について
第9回	近代ヨーロッパ世界のユダヤ人について
第10回	反ユダヤ主義に関して
第11回	現代社会とユダヤ人について
第12回	ユダヤ史に関して
第13回	個人研究の成果報告
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度の確認

授業計画コメント

- ・研究倫理についても理解を深めてもらえるように授業を展開していく予定である。
- ・卒業論文の執筆を希望する学生には、個人研究の報告準備をしてもらう。

授業方法

ユダヤ史に関する説明とディスカッションを中心に授業を進めていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- (1) 演習で扱っているテーマに関連する文献・資料を予め読んでおく。(1～2時間)
- (2) 演習の中で議論した内容や学んだ事柄について整理する。(1時間)
- (3) 演習で扱ったテーマについて理解を深められる文献があれば、それを読む。(1～2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	演習の中で与えられた課題に取り組む姿勢
その他(備考欄を参照)	50 %	議論の進め方や授業中の発言内容について

成績評価コメント

本演習で取り組むことになった課題に主体的に取り組むことができているかを主に評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中で、分析視角や議論の進め方など改善すべき点が見つかれば指導する。

教科書コメント

教科書は使用しない。

参考文献

ユダヤ教の歴史:宗教の世界史,市川裕,山川出版社,2009,9784634431379

ユダヤ人とユダヤ教,市川裕,岩波書店,2019,9784004317555

企業家学のすすめ,宮本又郎, 加護野忠男, 企業家研究フォーラム編,有斐閣,2014,9784641164345

参考文献コメント

上記以外の参考文献については、適宜、授業の中で指示する。

履修上の注意

履修者数に制限あり。

第1回目の授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540109	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	守島 基博		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 東2－103		

授業概要

・2年、3年と学習をした人的資源管理に関する知識をベースに、自分で選んだテーマについて、少し長めのレポート2本を完成させ、提出する。

到達目標

・人的資源管理の分野および周辺分野で、適切なテーマが設定でき、それについて、自律的にある程度の研究が実施でき、さらに長めのレポートを作成することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	今学期の進め方に関するガイダンス
第2回	テーマ設定と予備調査:その1
第3回	テーマ設定と予備調査:その2
第4回	仮決めしたテーマの発表
第5回	自主研究:その1
第6回	自主研究:その2(担当教員との相談)
第7回	中間報告:その1
第8回	自主研究:その3
第9回	自主研究:その4(担当教員との相談)
第10回	自主研究:その4
第11回	自主研究:その5
第12回	中間報告:その2
第13回	最終報告会
第14回	レポートの振りかえり
第15回	予備日

授業方法

演習と個人ワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

・この演習では、卒業レポートを完成させることを目的とする。そのため、ゼミの外でも、かなり多くの時間を割くことが期待される。だが、ゼミの時間に拘束されない週も多い。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

最終成果の質で評価をつけるので、担当教員の指導のもと、自律的に作業できることが期待される。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

・中間報告や最終提出後、コメントをする。

教科書

必要に応じて、相談。

参考文献

必要に応じて、相談。

その他

・守島と連絡を取りたいときは、まず、大学のアドレスにメールを送ること。連絡は基本的にメールで行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540110	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
副題	組織行動論		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	竹内 倫和		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 中央－508		

授業概要

本演習では、組織で働く従業員の態度や行動を科学的に検討する組織行動論について、議論をしていきます。4年次最後の卒業論文作成に向けて、この演習(4年生)では主として卒業論文の完成に向けて具体的なデータ分析及び結果の考察等を行っていきます。卒論グループによる発表を中心に、ゼミ生全員の活発な議論と相互評価をもとに進められます。したがって、ゼミ生の学習に対する積極的な意欲を強く望みます。また、他大学のゼミとの合同で卒業論文発表会を行う可能性がある。

到達目標

卒業論文(実証研究)の作成を通して、組織行動論の各テーマについての専門的知識、論理思考力及びデータ分析能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:演習の進め方、方針
第2回	卒業論文の作成と発表(1)
第3回	卒業論文の作成と発表(2)
第4回	卒業論文の作成と発表(3)
第5回	卒業論文の作成と発表(4)
第6回	卒業論文の作成と発表(5)
第7回	卒業論文の作成と発表(6)
第8回	卒業論文の作成と発表(7)
第9回	卒業論文の作成と発表(8)
第10回	卒業論文の作成と発表(9)
第11回	卒業論文の作成と発表(10)
第12回	卒業論文の作成と発表(11)
第13回	卒業論文の作成と発表(12)
第14回	卒業論文の作成と発表(13)
第15回	自主研究

授業方法

ゼミ生による研究発表と討議(演習形式)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指定された範囲の研究発表(約5時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	卒業論文評価
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	同僚評価

成績評価コメント

詳細は、初回授業時に説明します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各課題の重要なポイントは、授業内で説明される。
また、各自のプレゼンテーションに対するフィードバックは毎回行われる。

教科書コメント

初回の授業時に提示します。

参考文献コメント

適宜、演習中に提示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 ／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

時間内に終わらない場合、演習は予告なく延長します。また、サブゼミを行う場合がありますので、あらかじめそのつもりでいて下さい。したがって、演習時間の後に私的な予定を入れないようにお願いします。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540111	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 個人研究室		

授業概要

大学生活を通して、最も興味を持ったテーマについて、深掘りして卒業論文にまとめる。主な研究分野はサプライチェーン戦略を基軸とし、情報通信技術、サプライチェーン全体を俯瞰的に捉えたサービスシステムなど、サプライチェーン戦略に関連するトピックを広く対象とする。なお、本演習では、研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も行う。

到達目標

卒業論文の執筆に付随して、以下のことが達成できること; (1) 選択したテーマについて、自分の言葉でしっかり語れるくらい詳しくなる。(2) 仮説を証明するために、必要なエビデンスを揃えることができる。(3) 論理的に議論を展開することができる。(4) 分かりやすく人に伝え、納得させることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	研究課題の設定
第3回	研究手法について考える
第4回	先行研究サーベイ
第5回	個人発表(研究課題と先行研究について)
第6回	研究の方向性についてのレビュー
第7回	研究手法についてのレクチャ
第8回	研究手法についての演習
第9回	仮説の設定
第10回	仮説検証のためのエビデンスの収集
第11回	仮説検証のためのエビデンスの分析
第12回	個人発表(仮説と検証)
第13回	論文執筆指導
第14回	最終発表
第15回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

論文作成を目的とした演習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、研究報告の準備をすること(最低でも10時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	演習中の発表と討議内容の正確性と独創性
その他(備考欄を参照)	50 %	卒業論文の完成度

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習中の発表と討議にはその都度コメントをし、フィードバックを行う。卒業論文についてはコメントと評価を付した上で個別に丁寧なフィードバックを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指示する

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

誠実に、好奇心を持って自主的に研究に取り組む学生であることが履修の最低条件

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540112	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
副題	根拠あるオリジナリティ		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	和田 哲夫		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 西2-202		

授業概要

前年度の成果に基づき、経営戦略と組織にかかわる問題に関する研究を深め対外発表する。前年度成果を問題提起・先行研究・研究手法・データ等の根拠資料・分析内容・分析結果・考察といった一貫した構造にまとめる。4年後半という条件のもとで行うため、参加者の意思と思考力、集中力を必要とする。

到達目標

科学的な問題提起を行い、それに対する回答を、事実による丁寧な検証に基づいて提示する。 分析レベルや論理性を大学経済学部卒業生にふさわしい水準まで高める。

授業内容

実施回	内容
第1回	テーマ選定・進行方法に関する全体討論
第2回	個別研究テーマ選択に関する発表
第3回	個別研究テーマにおける問題提起に関する発表と討論
第4回	個別研究テーマにおける分析手法に関する発表と討論
第5回	個別研究テーマにおける論理構成に関する発表と討論
第6回	個別研究テーマにおける先行研究に関する発表と討論
第7回	仮説と検証方法に関する発表と討論
第8回	論文作法に関する講義と実習(1)
第9回	論文作法に関する講義と実習(2)
第10回	報告と相互評価、個別指導(1)
第11回	報告と相互評価、個別指導(2)
第12回	報告と相互評価、個別指導(3)
第13回	報告と相互評価、個別指導(4)
第14回	成果物の相互評価
第15回	フィードバック

授業方法

4年生で取り組む目標をまず発表し、調整の上で具体的ステップ目標を決める。その後、発表と議論を複数回行い、研究を完成させてゆく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表のための準備として、十分な文献消化・データ収集・学外インタビュー・分析や総合化などが必要であり、4年生の勉学の主軸を占めることが期待される。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):40%(出席を前提とした議論の積極性) 研究発表準備における試行:30%(調査や事業トライアル等の投入労力の量と質) 発表成果物:30%(成果物の充実度)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

発表の事前相談を行い、そこで手法や情報源について口頭やメール等で情報提供するほか、発表ごとにさらに追加情報提供します。

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540113	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 東2－101		

授業概要

中国、新興国における産業発展、企業の活動に関するテーマについて、各自、問題を設定し、分析を行う。中国、新興国における、具体的な業界・企業と取り上げた調査プロジェクトを通bして、日本、海外の情報を利用し、企業の行動、産業の発展を分析する枠組みと能力の修得につとめる。

到達目標

卒業論文を執筆する

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション 卒業論文の執筆をする
第2回	研究テーマについてプレゼンテーション資料の作成(1):テーマ設定と先行文献
第3回	研究テーマについてのプレゼンテーション資料作成(2):先行文献10本のレビュー
第4回	研究テーマのプレゼンテーション
第5回	分析概念の復習(1)
第6回	分析概念の復習(2)
第7回	実証方法の設定:ケーススタディ法と計量的方法の比較と選択、資料収集法の確認
第8回	実証方法の実習(1)
第9回	実証方法の実習(2)
第10回	中間報告:仮説の設定と実証方針の報告
第11回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(1)
第12回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(2)
第13回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(3)
第14回	ディベート
第15回	総括

授業方法

授業計画のスケジュールに従って、調査プロジェクトを実施する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

卒業論文執筆のため、文献を集め、もしくはインタビューを行い、執筆を行う(約60分から180分。)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回進捗状況を報告し、ディスカッション、コメントをする。必要に応じて、個別指導をする

参考文献コメント

適宜指示をする

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540114	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	本川 勝啓		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 西2－203		

授業概要

本演習では、アジア300指数構成銘柄に関する研究課題を設定し、グループワークに取り組む。必要に応じて現地に赴き、フィールドワークなども実施することがある。

到達目標

海外での経営の諸問題に関心を持ち、異なる文化・背景を持つ人々とのコミュニケーション力を身に付けることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業計画の説明とグループ編成
第2回	分析対象企業の選定①
第3回	分析対象企業の選定②
第4回	戦略分析①
第5回	戦略分析②
第6回	財務分析①(収益性)
第7回	財務分析②(収益性)
第8回	財務分析③(安全性)
第9回	財務分析④(安全性)
第10回	将来の業績予想①
第11回	将来の業績予想②
第12回	フィールドワークの計画①
第13回	フィールドワークの計画②
第14回	フィールドワークの実践
第15回	総括

授業方法

グループワーク及び実地調査

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

報告担当グループは発表の準備を行う(2週間で4～5時間程度)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回発表後に発表内容についてのコメントを行う。

参考文献コメント

分析対象企業が開示するアニュアルレポート等の資料を参考文献とする。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220540115	科目ナンバリング	022B400
講義名	演習(4年生)		
英文科目名	Seminar(4th year students)		
担当者名	山中 寛子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 中央ー508		

授業概要

4年生はゼミの仕上げ段階であるため、よりレベルの高いマーケティング研究及び提案を行う。

到達目標

マーケティングの理論的枠組みを用いたマーケティング研究及びプレゼンテーションのレベルアップを行い、社会に出てからも中心となって実践できるスキルを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	顔合わせ自己紹介、近況報告、登録、概要説明・班分け、研究スタート。
第2回	班ごとの研究1(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第3回	班ごとの研究2(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第4回	班ごとの研究3(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第5回	班ごとの研究4(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第6回	班ごとの研究5(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第7回	班ごとの研究6(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第8回	班ごとの研究7(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第9回	中間報告
第10回	班ごとの研究8(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第11回	班ごとの研究9(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第12回	班ごとの研究10(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第13回	班ごとの研究11(資料収集・班内ディスカッション・全体での報告とディスカッション)
第14回	最終報告会(ビジネスコンテスト主催者/他大学ゼミナール出席)
第15回	総括

授業計画コメント

マーケティングの枠組みを用いた調査研究が中心だが、プレゼンテーションの準備が必要。適宜、班毎に集まって、議論することが必要になる。

授業方法

あくまでもディスカッション中心で、積極的な発言が重要。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前の準備として班ごとに集まってディスカッション、プレゼン資料づくりなどが必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席と発言の活発さ。) 普段の研究における作成資料がそのままレポートとなる。レポート:50%(第2学期で作成する報告パワーポイントがそのままレポートとなる。内容の充実度で評価。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ディスカッションが中心であり、.その都度、フィードバックを行う。

教科書コメント

特に定めないが、必要に応じて授業時に指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220550101	科目ナンバリング	022B401
講義名	特別演習		
英文科目名	Special Seminar		
担当者名	渡邊 真理子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 個人研究室		

授業概要

中国、新興国における産業発展、企業の活動に関するテーマについて、各自、問題を設定し、分析を行う。中国、新興国における、具体的な業界・企業と取り上げた調査プロジェクトを通して、日本、海外の情報を利用し、企業の行動、産業の発展を分析する枠組みと能力の修得につとめる。

到達目標

卒業論文を執筆する

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション 卒業論文の執筆をする
第2回	研究テーマについてプレゼンテーション資料の作成(1):テーマ設定と先行文献
第3回	研究テーマについてのプレゼンテーション資料作成(2):先行文献10本のレビュー
第4回	研究テーマのプレゼンテーション
第5回	分析概念の復習(1)
第6回	分析概念の復習(2)
第7回	実証方法の設定:ケーススタディ法と計量的方法の比較と選択、資料収集法の確認
第8回	実証方法の実習(1)
第9回	実証方法の実習(2)
第10回	中間報告:仮説の設定と実証方針の報告
第11回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(1)
第12回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(2)
第13回	分析報告:研究を通じた発見と実証を通じた論拠の提示(3)
第14回	ディベート
第15回	総括

授業方法

授業計画のスケジュールに従って、調査プロジェクトを実施する。

準備学習(予習・復習)

卒業論文執筆のため、文献を集め、もしくはインタビューを行い、執筆を行う(約60分から180分。)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):100%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の報告に対して、コメントやフィードバックを行う。

参考文献コメント

適宜指示をする

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220550102	科目ナンバリング	022B401
講義名	特別演習		
英文科目名	Special Seminar		
担当者名	河合 亜矢子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 個人研究室		

授業概要

卒業論文の執筆に際し、必要となる基礎知識や分析技術について学ぶ。なお、本演習では、研究倫理教育の一環として、発表やレポート作成等の際の適切な引用の仕方および不用意な剽窃・盗用を避けるための指導も行う。

到達目標

- (1) 設定した研究トピックについて自身の言葉で語れるようになる。
- (2) 研究に必要な分析手法を適用して、自身で設定した小さな問題を解くことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	研究分野の選定
第3回	分野の俯瞰
第4回	研究トピックの選定
第5回	トピックの俯瞰、マップの提示
第6回	個人研究1(選定したトピックについて調べ学習)
第7回	個人発表1(トピックについてとフィードバック)
第8回	個人研究2(フィードバックを受けての追加学習)
第9回	個人発表2(トピックまとめ)
第10回	研究手法の提示と選定
第11回	手法のレクチャ1(基礎)
第12回	手法のレクチャ2(基礎プラスアルファ)
第13回	個人研究3(分析手法について)
第14回	個人発表4(分析手法について)
第15回	予備日

授業計画コメント

受講者と相談の結果、授業計画を変更する可能性がある。

授業方法

論文作成を目的とした演習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、研究報告の準備をすること(最低でも10時間は必要)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	演習中の発表と討議内容の正確性と独創性
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習中の発表と討議にはその都度コメントをし、フィードバックを行う。

教科書コメント

適宜指示する。

参考文献コメント

適宜指示する

履修上の注意

履修者数制限あり。／ 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

誠実に、好奇心を持って自主的に研究に取り組む学生であることが履修の最低条件

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U220550103	科目ナンバリング	022B401
講義名	特別演習		
英文科目名	Special Seminar		
担当者名	勝尾 裕子		
単位	2	配当年次	学部 4年
時間割	第1学期 水曜日 4時限 中央－505		

授業概要

卒業研究の準備作業を行います。

到達目標

卒業研究の準備を完了することが目標です。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	卒業研究の準備(1)
第3回	卒業研究の準備(2)
第4回	卒業研究の準備(3)
第5回	卒業研究の準備(4)
第6回	卒業研究の準備(5)
第7回	卒業研究の準備(6)
第8回	卒業研究の準備(7)
第9回	卒業研究の準備(8)
第10回	卒業研究の準備(9)
第11回	卒業研究の準備(10)
第12回	卒業研究の準備(11)
第13回	卒業研究の準備(12)
第14回	総括
第15回	予備日

授業方法

演習形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に、発表の準備を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(発言内容等を評価の対象とする。)卒業論文、授業での発言内容等に基づき評価します。授業内での発表を通じて、問題点の指摘や改善点の提示等のフィードバックを行います。レポート:50%(論文の内容を評価の対象とする。)

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の討議を通じて、発表内容等に対するフィードバックを行う。

参考文献コメント

適宜、指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>